

- 三拾七兩永五文六分御損に成る堀田兵左衛門永井儀八江戸詰にて御勘定仕上る
- 一 同年分山出銅三千四百貳貫五百目此金積り六百壹兩三分永三拾八文三分鉛九百八拾七貫九百目此金貳百六拾九兩三分永貳百三拾八文七分
  - 一 銀山最寄大工町より上相川迄町々寡女共近年打續銀山不景氣にて渡世を失ひ其去年以來米直段高直にて難澁に迫り少き家財をも賣拂是迄身命取繋候處此末手段に盡果候に付米直段引下の歎訴を柳澤八郎右衛門銀山え見廻の節通訴可致旨一同申合候趣町役人とも承り差留候處右願書町役人より差出し吳候様申候に付役目のもの願書相添御役所へ出に付相糺候處難澁の躰相違無之に付人數八十人餘のものえ五十日分飯米を遣す右飯米は御拂米の内より相渡代錢別廉にて立替る
  - 一 五月より七月迄御藏元書御拂米直段六ヶ所相場平均米壹石に付錢六貫貳百三拾八文になる前々の見合より格別高直にて市中難儀の趣申立候間相場平均方の儀相川河原田夷湊小木の相場を用ひ候得は市中氣請も宜敷趣に付御勘定奉行え掛合の上以來四ヶ所相場を用ひ候積申上る
- (別本) 申上る積りの處米價高直と申も長年の義にも無之右相川外三ヶ所に越後出雲崎新潟ハ六ヶ所相場平均相用候義は御試年限申立方に付如何有之哉の旨御勘定奉行挨拶に付進達いたさす
- 一 七月朔日夜羽田村長兵衛納屋より出火家數五軒納屋貳軒下戸町納屋四軒類燒
  - 一 入川村鉛山仕事師四十物町市内と云ふもの稼所にて突埋られ即死に及ぶ
  - 一 寡女身上營方に付再縁可相成者は家業永續心掛け候様在町え申觸る
  - 一 萬一沖合に異國船相見へ候は、得と見定候上様子に隨ひ打拂可申はやり過却て鐵砲米穀等不奪取候

様可心得旨海岸通りえ書付を以申聞る

- 一 八月十二日土屋長三郎禁裡附被仰付候旨同廿六日御奉書到來
- 一 榊原式部大輔家來關本丈左衛門牧野與五左衛門相川御役所え呼出當地引拂の義八月廿五日申渡翌廿六日一同引拂
- 一 先達而姫君様御誕生御名文姫君様と稱候旨御奉書到來
- 一 在中におゐて鸞二羽打留差出に付柳澤八郎右衛門買上げ組頭始諸役人え分ち遣す
- 一 入牢人鹿伏村貫教江戸水替庄次九月十六日曉窄抜いたし行衛不相知候に付近郷手分の上相尋候處晝頃鶴子百枚間歩敷内にて忍ひ居候を敷内稼人共見答御役所え注進申出に付町同心を遣し爲召捕如元入牢
- 一 去年中中寺町瑞仙寺え夜中押かけ其外市中にて酒ねたり取候一件吟味伺の上江戸水替山内住居幸次死罪諏訪町留吉庄右衛門町六助遠島其外一件拘り候者共御仕置十月十六日申渡
- 一 十月十四日夜高波にて板町人家七軒地所引流住居難相成躰に罷成候段町役人訴出る
- 一 牛馬口繩三尺に限り野飼の牛馬は口繩十三尋に限り往來の妨に不相成様いたし小荷駄馬猥りに町内に繋置障りに不相成様可致旨申觸る
- 一 組頭杉浦文左衛門庄左衛門と改名相願候に付十月十二日松平伊豆守殿え申上候處即日願の通御附札を以被仰渡
- 一 十二月朔日大納言様御婚禮相濟姫宮様御事御簾中様と可奉稱旨御奉書到來
- 一 相川壹町目江戸澤長次と云もの兩親え孝行に仕候趣相聞候に付御役所え呼出し鳥目を遣す



- 一 御男子様御誕生御名松平保之亟殿と奉稱候旨御奉書到來
- 一 非常爲御備越後三領主家來佐州へ相詰候儀年々際限も無之義當年は他國海邊も穩の趣相聞其上地役人の内大筒打方心得候者百人餘出來小筒一同心掛候に付來午年三領主より人數相詰候にも及間敷旨柳澤八郎右衛門より申上候處來午年は大筒打方のもの被差遣間敷萬一非常の義有之節は備前守殿人數早速渡海の心得にて在所に手當いたし置候趣松平伊豆守殿御書付御渡日光奉行小笠原大和守請取之佐州え差越す
- 一 去辰年分山出銅三千四百貳貫五百目此金積六百壹兩三分永三拾八文三分鉛九百八拾七貫九百目此金貳百六拾九兩三分永貳百三拾八文三分

文化 七 庚 午 年

- 一 相川市中におゐて極貧窮にて當日をも送り兼候もの有之哉と町年寄せ尋る處老衰又は眼病等にて經營も成兼至て艱難なるもの撰出に付柳澤八郎右衛門手元より烏目を遣す
- 一 正月十一日御納戸頭御勘定吟味役兼帶岡松八右衛門佐渡奉行土屋長三郎跡御役被仰付候旨同廿四日御奉書到來
- 一 去年分御年貢米一萬五千九百三拾五石大坂御廻米になる
- 一 去々辰年より吟味掛りの盜賊小木町藤八一件並江戸水替平吉小屋場を破り逃去候一件御仕置伺の上藤八平吉とも死罪申付る

- 一 二月十二日江戸水替三拾五人御役所え駈込願ひいたすに付利解申聞歸小屋申付候處翌十三日右三十五人の者敷内え相越候途中におゐて前日小屋内に残り候もの共竹鑓又は庖丁等の刃物を以三拾五人の者を追掛ヶ四五人に深手爲負薄手負候者も七八人有之夫よりして双方立分れ石打等いたし大に混亂におよひ候に付水替掛り役人の内帶刀を抜放し追散し候處三十五人は上寺町覺性寺へ逃去り小屋内より出候ものは又候小屋場へ引籠り翌十四日迄双方敷詰も不致候に付山方役目付役は勿論壯年健成役人町同心水主山師以下御雇町人共上下三百人程差向け不埒の永替四拾四人召捕へ十四日夜入牢申付覺性寺へ逃去り候ものは小屋場へ相返す
- 一 去々辰年より吟味掛り盜賊上中興村圓吉御仕置伺の上二月十三日死罪
- 一 去春より吟味掛り門前町定右衛門を殺害およひ衣類金錢奪取候貝塚村六之助御仕置伺之上三月廿七日引廻の上獄門
- 一 當年佐州非常の義有之節牧野備前守殿人數被差向候積りに付兼て海岸地利の様子見置度旨にて家來騎馬役陶山善六砲術方小林又兵衛上下八人三月廿七日越後出雲崎より小木湊え渡海翌日河原田に泊り同廿九日相川御役所え罷出に付書院におゐて組頭兩人面談廣間役談判相濟羽田町旅宿へ引取翌朔日春日崎遠見番所より西濱を廻り中山通又は相川御役所え出廣間役談判相濟翌二日相川引拂外海府より海岸通り相廻り四月十一日小木湊より歸帆いたす
- 一 御鐵砲方田付四郎兵衛組與力増木七左衛門佐州え砲術稽古爲取立當四月頃より七月中迄も尙又被遣候様堀田攝津守殿へ御内意申上げ牧野備前守殿え伺書進達の處佐州え罷越候様可申渡旨田付四郎兵衛え



被仰渡候間四郎兵衛え可申談且同人組同心大原半左衛門差添罷越候様被仰渡候間是又四郎兵衛え可談旨三月八日御書付御渡有之四月十七日増木七左衛門並同心大原半左衛門越後寺泊より赤泊え着翌十八日相川中京町旅宿へ落着

一 江戸水替敷詰のもの飯米先年減少の分元形の通り増渡之義牧野備前守殿え相伺候處伺の通り被仰渡一 岡松八右衛門久稠四月朔日御暇にて同十三日江戸表出立同月十九日越後寺泊え着同廿九日赤泊湊え渡海翌晦日相川御役所え着柳澤八郎右衛門交代して五月二日相川出立同四日小木湊出帆

一 金銀山當時相稼候青盤間歩百丈餘穿下り手近く出方有之場所は年々手を盡し此節御入用に引合候場所無之鳥越間歩穿場も古敷へ貫け合下り詰鏈引有之場所はけたへ水障りにて穿下り候義出來兼前々見合無之格別の不盛に罷成候趣牧野備前守殿え書面進達

一 金銀山不盛にて永續無覺束候に付格別功者の者え爲引請候積り相糺候處元相川新五郎町兵助と申もの明和年中よりかなこに相成年來稼方功者に有之候處寛政十二申年買石共と相對にて替鏈いたし候一件に付六ヶ所番所構の上相川拂申付候へ共私欲の筋にも無之義に付咎差免かなこ申付候積り牧野備前守殿え御内慮相伺候處伺の通被仰渡

一 佐州御金藏四月十七日有高金貳萬六千四百三拾七兩餘錢貳拾萬六千三百貫文餘有之金銀山御稼入用其外諸拂高十ヶ年平均金千六百四拾兩餘錢拾萬六千七百貫文餘除金千四百兩餘錢貳萬九百貫文餘四文錢並錢に直し貳萬三千七百貫文餘引殘置殘て金貳萬三千三百兩餘錢五萬四千四百貫文餘御有餘に付右の内金貳萬兩江戸御藏移の義牧野備前守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 佐州御米藏定番役太田嘉右衛門江戸表におゐて出奔に付親類佐州金銀改役加藤斧八え尋可申渡旨牧野備前守殿被仰渡申渡候日より十日つゞ三度爲相届承り置不尋出候はゞ猶又二十日尋申渡行衛不知知候はゞ其節可申上旨別紙御渡有之六月二日佐州におゐて加藤斧八へ尋申渡

一 岡松八右衛門爲巡村五月十八日相川出立大間濱より乗船にて外海府より海岸通り國仲筋相廻り西濱通りより六月二日歸着

一 おらく御方五月廿日死去の旨同廿八日御奉書到來普請五日鳴物十日停止

一 柵の義京都福井作左衛門方焼印有之京柵を用ひ來る國々近來猥成紛敷柵取扱候趣相聞候間前以相觸候通り急度可相守旨御觸有之

一 御男子様御誕生御名松平要之亟殿と稱候旨御奉書到來

一 去己年分山出金千八拾兩灰吹銀九拾七貫貳百拾壹匁御藏移金貳萬兩國役金貳百六拾四兩貳分御傳馬宿入用金四拾兩貳分銀貳匁四分五厘江戸詰役人古屋作左衛門渡邊七郎右衛門宰領にて六月廿七日相川出

立出方御入用差引金三百七拾兩壹分永三拾九文三分御損に成る古屋作左衛門熊木榮助江戸詰にて御勘定仕上る

一 同年分山出銅貳千七百三拾五貫五百目此金積り四百八拾四兩三分永貳百八文三分鉛四百九拾壹貫百目此金百三拾四兩壹分永貳百拾九文六分

一 江戸詰役人永井儀八歸國の節無宿貳拾八人宰領六月十九日江戸出立七月四日越後新潟湊え到着同五日順風のよしにて卯ノ中刻出帆の處沖合にて風筋弱く暮時過佐州水津湊え貳三里沖合に乗よせ候處俄に



風筋替り高波に相成雷雨にて方角を失ひ七日朝に相成候ても風波荒く地方難見分追々東北の方え被吹落夕七ツ時内藤豊前守領分越後桃崎濱え漂着所役人呼出人足手配り爲致陸路通り同九日猶又新潟湊え出同十一日出帆翌十二日佐州夷湊え着岸十三日相川へ歸着

一 松平能登守殿西丸御老中被仰付候旨御奉書到來

一 河原田町名主源右衛門町内取治方宜敷趣相聞に付御役所え呼出し白銀貳枚遣す下戸町山形屋與惣左衛門二方潟村源五郎小前のものを勞り候趣に付褒置二方潟村百姓久右衛門夷町家大工和吉親共え孝行に付鳥目を遣す上相川寡女まさ養母へ孝行に付是又鳥目を遣す

一 佐州御藏御有錢の内相川町々小役物並浦方歩一本歩一運上錢等五ヶ年分取立高四萬千七百六拾貫文餘の分

在町の者共へ十ヶ年賦に貸渡商賣方仕入田畑用水路荒所等爲切開爲冥加年五分の利金を爲差出一ヶ年利金百六拾四兩程の内貳拾兩程手當諸入用等引之殘の分を以米買入別御拂米と申銘目を以御藏え納置田方不熟の村々買納願出候節時相場を以相拂御年貢米の方へ相納候積牧野備前守殿え伺候處伺の通被仰渡

一 去春より吟味掛り盜賊鹿伏村仁助忤貫敷御仕置伺の上八月二日死罪

一 岡松八右衛門儀後藤庄三郎並手代共多分の御藏金追々引出私欲いたし候に付夫々御仕置被仰付庄三郎不埒は一朝一夕の事にも無之候處御勘定吟味勤役中不存罷在候段油斷の事に付此段可申聞旨御沙汰の段牧野備前守殿御書付八月十二日柳澤八郎右衛門え御直に御渡の旨同月廿二日佐州え申來依之岡松八右衛門差扣伺書江戸表へ差立九月朔日土井大炊頭殿え進達の處即刻御附札を以御目通り差扣の格にて可罷在旨被仰渡

一 岡松八右衛門差扣伺差出候へとも一人勤の儀に付御下知御座候迄は御用向差支無之様相勤罷在候旨九月朔日土井大炊頭え柳澤八郎右衛門より申上る

一 佐州御米藏定番役太田嘉右衛門行衛の儀此上無油斷相尋候様金銀改役加藤斧八え永尋申渡嘉右衛門御宛行上り自分家作有之候は、是又上り地面等の儀仕來の通り可取計旨牧野備前守殿御書付御渡の處自分家作無之御宛行並拜領地面上りの儀斧八え申渡す其段御届申上る

一 後藤庄三郎御仕置に成代り銀座年寄後藤三右衛門え金改包方被仰付佐州詰會庄三郎役人とも三右衛門支配に成る

一 銀山往來際字甲坂に凡貳拾八丈餘の岩山有之所々厩入折々欠崩至て危急にて人命にも抱り候間附替道相糺候處山越細道有之候得共難所にて町數も相増候間甲坂大石割取跡手當御普請の義牧野備前守殿え伺候處翌末年伺の通被仰渡

一 先達而伺濟御貸附錢四萬貫文餘の内相川市中人別八千四百七拾貳人え銘々貸渡殘りの分在中え貸渡一 地役人太田嘉右衛門明跡え並役格使役佐野長右衛門御抱替町同心壹人使役え繰上げ町同心忤壹人町同心え御抱入の義牧野備前守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 徳川虎千代殿逝去の旨十月十四日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る

一 金銀山出方當春の様子にては格別相減可申牀に相見候處九月頃より青盤鳥越兩間歩とも別段の稼所取出追々出方も相進當分相續も可致哉の趣江戸表え申上る

一 佐州御備之義牧野備前守殿榊原式部大輔溝口駒之助申合以來年々順當に人數用意いたし通達次第早



速渡海の手筈に可申付旨相達し候間來未年は駒之助來々申年は式部大輔酉年は備前守殿相心得其上にも  
人數入候時宜に至り候得は不拘當番非番兼々相達置候通り一同人數差越候筈に候間得其意候様青山下野  
守殿御書付御渡有之

- 一 十二月廿四日柳澤八郎右衛門御普請奉行え轉役被仰付佐渡守と受領翌年正月廿日御奉書到來
- 一 去巳年分山出銅貳千七百三拾五貫五百目此金積四百八拾四兩三分永貳百八文三分鉛四百九拾壹貫百  
目此金百三拾四兩壹分永貳百拾九文六分
- 一 去る卯年分山出荒銅去巳年大坂銅座へ相廻り候分代金六百九拾五兩貳分銀五匁九分四厘六毛午正月  
蓮池御金藏え上納
- 一 去々辰年分山出荒銅當年大坂銅座え相廻り候分代金五百六拾六兩銀六匁壹分八厘午十月六日右同  
斷

文化八年 辛未年

- 一 二月九日御勘定吟味役金澤瀨兵衛佐渡奉行被仰付候旨同廿八日御奉書到來
- 一 溝口駒之助家來溝口半兵衛速水九郎右衛門より岡松八右衛門家來えの書狀足輕兩人持參當年佐州御  
備人數駒之助方にて心得罷在候趣申越す
- 一 河原田窪田等の海邊え松櫻等植立る
- 一 去午年分御年貢米一萬四千六百九拾九石大坂御廻米に成る

一 紀州熊野那智新宮大破に付金千兩被下諸國取集勸化御免被仰付候旨土井大炊頭殿御書付御渡有之  
一 元佐州地役人太田嘉右衛門妻倅娘え相應の御扶助米被下候様仕度旨土井大炊頭殿え書面を以申上候  
處一生の内爲取續三人扶持被下候旨御書付御渡有之  
一 佐州之儀一体御人少とは乍申砲術鍛練のものも出來先は御要害相調候間三領主人數相詰候に及間敷  
萬一非常の節は早速人數渡海の心得にて手當いたし置候様別段被仰渡可然趣松平伊豆守殿え相伺候處伺  
の通被仰渡

一 青盤間歩近年打續出方不進にて前三ヶ年平均一十ヲ日鏈代貳百貳拾目餘に有之處去夏伺の通かなこ  
兵助へ申付爲相稼候處此節鏈代五百目餘に相成候段牧野備前守殿へ書面進達  
一 水替小屋ならひに掛り役人詰所の西北岩山にて度々落石有之に付伺の上不危方へ片寄せ建替御普請  
有之

一 上横山村仁右衛門老母へ孝心に仕へ山師秋田權之助下女なつ年來奉公實躰にいたす趣に付銘々御役  
所え呼出鳥目を遣す  
一 村々百姓とも遊藝等に耽り本業を失ひ候者も有之哉に付村役人長百姓とも心付一村限り得と申合奢  
ケ間敷儀無之様觸知らす  
一 姫君様御誕生盛姫君様と稱候旨四月廿三日御奉書到來  
一 富突なとく唱博奕ケ間敷儀致間敷旨御觸有之  
一 金澤瀨兵衛四月朔日御暇にて同十三日江戸表出立越後寺泊より赤泊湊え渡海翌廿七日相川御役所え



着岡松八右衛門交代して同廿九日相川出立五月朔日小木湊より出帆

一 諸國荒銅出方不進に付去る辰年廻銅性合に寄夫々直増申渡候處今以不進に有之候に付山元普請其外爲御手當是迄買入直段の外銅百斤に付銀五拾目つゝ當分相渡候間出方相進候様可申渡旨御勘定奉行より掛合に付右直増銀大坂銅座より荒銅代相渡候節引除置殘金江戸御藏へ可相納處勘定合差跨候間右直増代銀佐州御金藏より請取候積牧野備前守殿へ伺候處伺の通被仰渡

一 金澤瀬兵衛爲巡村五月十三日相川出立外海府通りより海岸相廻り西濱通り同月廿七日歸着

一 溝口駒之助使者板倉兵次郎上下拾人にて五月十五日松ヶ崎湊へ着岸翌十六日相川へ罷出當未年御備人數用意いたし置委細の義は佐渡奉行へ問合可申旨被仰出候に付此度使者差越候段演達の上同廿日相川出立赤泊湊より出帆

一 金澤瀬兵衛母五月十一日死去の旨同廿日江戸表より申來るに付忌服御届差立る

一 元相川新五郎町政八と申者銀山稼方功者の處寛政十二年買石共と引替鏈相對の義に付答申付候得共稼方功者の段相違も無之に付答差免の義御内慮伺書牧野備前守殿へ進達の處伺の通被仰渡

一 去去年分山出金千貳百兩灰吹銀六拾八貫七匁御藏移金五千兩國役金貳百六拾四兩貳分御傳馬宿入用金三拾三兩壹分銀三匁七分三厘貳毛詰役人藤村金十郎淺見彌吉才領し六月廿七日相川出立出方御入用差引六百四兩永七拾貳文三分御損に成藤村金十郎木村馬之助江戸詰にて御勘定仕上る

一 同年分山出銅三千九百八拾四貫貳百目此金積り七百拾五兩永三拾壹文七分鉛四百六拾貳貫百目此金百貳拾七兩永四拾七文壹分

一 金銀山古間歩其外岡山通り鏈引有之場所自分稼相望候もの有之候は、出來金銀一盃の御入用相渡出方相應に成候は、本途大工引受の積り六月廿八日町々え申觸る

一 相川山之神愛宕別當教壽院本堂庫裏就大破爲助成町在相對勸化相願候に付願の通り差免在町へ申觸る  
一 上相川住居の者とも右澤御稼相止候以來渡世を失ひ追々下町に散亂いたし米商人有之處是又及困窮下町え罷出渡世いたし度旨小前の者共及相談候處米商人無之候ては當然の差支に相成候趣を以町内一同の者より米商人え拜借錢願出に付貸渡す

一 廣間役堀口彌右衛門御金藏定番役明跡申渡す廣間役持格にて是迄取來役扶持貳拾人扶持其儘被下候旨牧野備前守殿御書付御渡有之

一 堀口彌右衛門跡廣間役助今井忠兵衛え廣間役申渡す

一 御鐵砲三拾目筒貳挺拾目筒壹挺拾五匁筒貳挺佐州におゐて抱打筒張立臺金具共新規仕立の義松平伊豆守殿へ相伺候處伺の通被仰渡

一 近年上相川最寄銀山稼相止一郷難立行跡に付御救旁最寄雲子間歩古敷取明青柳間歩穿鑿稼始る

一 野浦村善七妻さや舅姑え孝心に仕ふる趣相聞に付御役所え呼出し鳥目を遣す此時金澤瀬兵衛の詠歌に

心さし深く染たる小衣の あさや錦に立まさるらん

一 近年度々御儉約被仰出候得共不時の御物入も莫大にて御勝手向不都合の義に付來申年より五ヶ年を



限り尙又嚴敷御儉約被仰出候旨牧野備前守殿御書付御渡有之

一 去年分山出銅三千九百八拾四貫貳百目此金積り七百拾五兩永三拾壹文七分鉛四百六拾貳貫百目此金百貳拾七兩永四拾七文壹分

文化九 壬申年

一 相川會津町そて老母に孝行の趣相聞下戸濱町せん姑に眞實に仕へ石扣町六郎右衛門下代與右衛門主家を大切にいたす趣相聞るに付銘々御役所え呼出鳥目を遣す

一 去年分御年貢米壹萬五千六百九拾三石大坂御廻米になる

一 船津村田地の中に横死人有之趣二月六日訴出るに付檢使遣す處中興村百姓にて尺八を吹き歩行候ものよし相手不知

一 佐州に而相用候榭前々仕來りにて相川長坂町番匠松村七郎兵衛と云もの一手にて仕立國中え賣出候處町奉行掛合の上江戸表樽與左衛門手附にいたし榭仕立方傳達を受榭屋極印の榭賣出候積り

一 相川町人共の内願の上鹿伏村の内に於て鍋鑄立國中え賣出す

一 田畑屋敷地請の節一筆限り相立有之境を崩し又は道を附土手等築き一筆の内を引分け有之分は繪圖面を以申立以來境を崩し又は引分け度類有之におゐては繪圖面相添可願出旨爲觸知

一 去未年嚴敷御儉約被仰出當申年より五ヶ年を限り御入用請取物の内二割以上減方を附候様被仰渡候處佐州の儀は可減廉無之候得共尙取調可及掛合旨掛御勘定奉行達し置

一 近年浪人躰の者所々え大勢罷越村方の手に及び難く令難儀の段相聞候間以來右躰のもの有之は不移時日召捕可申旨土井大炊頭殿御書付御渡有之

一 澤崎村久五郎西三川村清次郎兩人共父母へ孝行の趣相聞に付御役所え呼出鳥目を遣す親共存命中老養扶持を渡す

一 青盤鳥越兩間歩共去秋冬は少々取直候處當春に至り鏈引薄目に成青盤は兩三年以來の見合に格別減方も無之候得共鳥越之方損所等有之十日分鏈代百三拾目ならては無之永續の程無覺束青盤間歩は一ヶ月出方筋金拾六匁灰吹銀四百貳拾目餘の出方に相成候間假番所鍛冶小屋等補理候旨江戸表へ申上る

一 岡松八右衛門四月朔日御暇にて同月十六日江戸表出立同廿三日越後寺泊より赤泊湊え渡海翌廿四日相川御役所え着金澤瀬兵衛交代し同廿六日相川出立

一 金銀山出方寛政の頃迄は本途御入用にて稼候間歩五ヶ所にて山出金銀上納高三萬兩餘より壹萬八千兩餘宛有之候處追々間歩數相減青盤鳥越二ヶ間歩に相成出方四千兩餘より三千兩程ならては無之古來不承及不盛に付市中は勿論在方迄も困窮におよひ就中上相川の義は以前家數三百軒程の處當時三拾軒餘に成度々救の義願出候に付上相川最寄雲子間歩本口享保五子年迄出方稼有之洪水にて廢候場所取明其外青柳間歩手近く鏈引も有之候に付右場所取明人足上相川町の者雇入諸品等も右町内より買上の取續方御救に相成若不遠鏈附追々本途稼も相立候得は上相川の困窮眼前に立直り山出金銀上納高も相増兩全の義に付去未九月よりせんさく御入用繰合兩間歩取明に掛り候處上相川の者共一同入はまり格別抄取青柳間歩は一ヶ月三百目餘の出方に相成雲子間歩も五拾間程取明古來の稼所へ至り追々代銀賣立候様罷成可申處



青盤鳥越兩間歩鏈引薄目に相成損所等も有之餘程御入用相掛り可申躰に付青柳雲子御入用繰合相成兼候間當申年より三ヶ年の間御金藏除金請取遣拂の積り牧野備前守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 佐州西五十里村金北山權現神主大崖出雲より同社別當吉祥寺へ掛り神職出入一件寺社奉行え引渡の義掛合候處脇坂中務大輔へ引渡候様申來るに付町同心貳人宰領附一件のもの一同江戸表へ出す

一 吹分所吹炭内外海府村々引請御林炭燒立候處去去年より御林炭試燒始り候に付右の内山吹銀吹分炭にも相渡候積り

一 去去年分山出金千六百貳拾四兩貳分灰吹銀六拾貳貫九百七拾七匁御藏移金五千兩國役金貳百六拾四兩貳分御傳馬宿入用金三拾壹兩壹分銀拾壹兩七厘五毛役人橋本權太夫小崎忠太宰領し六月廿七日相川出立出方御入用差引金六百九拾兩永八拾七文五分御損に成る江戸詰橋本權太夫須田半右衛門御勘定仕上る

一 同年分山出銅四千九百六拾七貫六百目此金積り千四拾三兩三分永百三拾文六分鉛四百七拾三貫五百目此金百貳拾八兩三分永貳百貳拾四文貳分

一 相川市中料理屋髮結追々相増古躰を失ひ候に付有來人數を定毎月役銀爲差出以來人數不相増積り極る尤銘々鑑札渡置

一 近年上品の菓子類新製いたし賣弘候者も有之無益の事に付飴菓子の外白砂糖にて製候菓子賣出間敷旨觸出す

一 江戸表より角力取來り下寺町圓德寺境内におゐて願の上足固地取いたす

一 御役所内町方番所協地所引け込古井戸出る

一 銅床屋仕事師の内困窮の者有之岡松八右衛門手元より救出す

一 組頭阿久澤彌平次御用に付江戸表へ可能出旨牧野備前守殿御書付を以被仰渡候段九月三日申來る同日相川出立

一 廣間役石井三郎右衛門病氣に付御暇相願

一 十月四日夜西風強小木町神明小路より出火番所役家四軒人家七拾軒類燒におよぶ

一 是迄在中所々において市場有之交易辨理宜敷賑ひ候場所も有之趣に付相川市中へ一ヶ月一度つゝ市立差免場所の義は相川羽田町より札ノ辻赤川通り羽田濱へかけ毎月十日市日に相定來ル十一月十日より交易の積り反物荒物諸道具穀物類都て何品に不限持出し可令商賣旨觸出す

一 目付役頭取井上儀右衛門廣間役當分助申渡

一 古着古道具古かね商人とも八年已前丑年人數取極鑑札渡置無鑑札のもの商賣不相成旨觸置處今般市中市場取立に付賑のため質屋とも内質流し古着古道具古かね等市場え持出し賣出度旨願出候者は市場鑑札相渡市日に限り賣買差免す趣觸出す

一 岡松八右衛門當秋より浮腫の病ひにて療養を加ふといへとも驗し無之十一月四日より病躰至て重し

一 入川村鉛山出方不進にて去る寅年迄請負人相納候鉛直段より高直に相當り候へ共自國の産に付當申年より引續稼方申付候旨六月中申上置候處如前の請負稼に申付候方出方も可相進事に付右の趣相含取調可申旨十一月中牧野備前守殿御書取御渡有之

一 青盤間歩松太郎間切水障りにて切延候義成兼候間同間歩德兵衛敷へ立替ル



- 一 阿久澤彌平次江戶表え出府の上十月六日御代官被仰付十一月十六日評定所留役町奉行吟味物調役横山七左衛門佐渡奉行支配組頭被仰付
- 一 近年古銅を買取眞鍮に吹直候もの有之由大阪銅座へ相廻候古銅追々相減不取締に付向後眞鍮地銅一本針鉦銅トありとも銅座より職人え爲吹立仲買を立置爲買取可申旨御觸有之
- 一 十二月八日夜材木町定吉宅より出火兩隣類焼におよぶ
- 一 諸國出鉛近年拂底の由にて直段高下有之趣に付向後國々鉛山方より大坂銅座え一手に買入御用に相成候外は同所より望のものへ可賣渡旨御觸有之
- 一 廣間役助淺見彌右衛門廣間役石井三郎右衛門跡申渡廣間役當分助井上儀右衛門廣間役助申渡
- 一 去末年大坂銅座え相廻候去ル巳年分山出荒銅代金五百八拾三兩三分銀四匁八分八厘三毛申正月十八日蓮池御金藏へ上納
- 一 當申年大坂銅座へ相廻候去々午年分山出荒銅代金八百貳拾兩銀九分三厘六毛九月廿六日右同斷

文化十癸酉年

- 一 去年分御年貢米壹萬三千貳百五拾五石大坂御廻米に成る
- 一 岡松八右衛門病氣差重り二月六日跡目願書江戶表へ差立ル組頭兩人の節は御役所え晝夜壹人つゝ詰切候處此節杉浦庄左衛門壹人勤に付御下知狀庄左衛門御役宅に所持いたし日々御役所え罷出廣間役壹人つゝ御役所詰切出火の節御藏々へは廣間役出役の積り

- 一 二月七日岡松八右衛門病死に付組頭より賃宿送御用狀金澤瀬兵衛方え届ル
- 一 岡松八右衛門遣骸二月十一日下寺町大安寺へ葬ル
- 一 岡松八右衛門家來の内用人給人壹人つゝ残り外一同二月廿五日相川引拂
- 一 入川村鉛稼引請望のもの無之最是迄鉛山請負稼等には無之近年まで相川町人共の内他國鉛買入相納候處請負人損分相嵩請負差免候義に付鉛山稼請負等は差望不申旨牧野備前守殿へ申上ル
- 一 關村へ流鯨有之
- 一 姫君様御誕生孝姫君様和姫君様奉稱候旨金澤瀬兵衛方より申來ル
- 一 三月二日組頭横山七左衛門越後出雲崎より小木湊へ渡海翌日新町に止宿同四日相川へ到着
- 一 御徒士頭伊東長兵衛三月八日佐渡奉行被仰付候旨同廿四日申來ル
- 一 金澤瀬兵衛三月十五日御暇にて同廿六日江戶表出立信州路通り四月五日越後出雲崎へ着同十日小木湊へ渡海翌十一日相川御役所え着
- 一 岡松八右衛門元家來兩人四月十三日相川引拂
- 一 岡松八右衛門佐州におゐて病死に付養子八次郎え銀拾枚御手當被下候旨牧野備前守殿御書付佐渡奉行え御渡有之
- 一 四月廿五日清次間歩煙貫大切山吉助間切貫合
- 一 盲人共渡世の藝無之親許一本元に罷在又は武家に被抱他の稼不致ものは格別他の稼いたし候もの檢校の支配たるへき旨安永五年相觸候處近來座中へ不入盲人多く心得違の者も有之趣に付武家陪臣の子弟にても



藝業に携候ものは檢校の支配可受旨御觸有之

一 青盤間歩臺通りえ穿下り次第に水替御入用相増候に付以來東西え廣ヶ穿込候積を以成丈ヶ臺稼は相止水替御入用減の分を以穿鑿御入用へ振向流用遣にいたし候趣牧野備前守殿え申上ル

一 江戸水替の内御構場所所有之もの佐州に於て平人伺の義町奉行え問合候處追て他國出相願候節御構の地へ立入間敷旨申渡他國出爲致候得は差支無之旨申來ル

一 青盤間歩筋金山にて要用の場所に有之十分穿割候は、新規の稼所取出し可申候得共當然鏈引顯し不申地山を御入用にて切開キ候義強て難申立趣を以地役人廣間役ヲ始定役並役人數百六拾人餘先年被下切に相成候出目錢四千貫文程差出し望の場所穿鑿いたし度旨申立中尾間歩以前盛穿いたし候場所に候處當時御休山に相成居候に付相川市中より一ヶ年錢八百貫文つゝ五ヶ年の間差出可申旨願出候間兩様とも早速爲取掛候趣牧野備前守殿へ申上ル

但使役町同心水主は出目錢出錢に不及

一 姫君様御誕生浴姫君様と奉稱候旨御奉書到來

一 中尾間歩取明御普請六月四日より取掛ル

一 羽田町市立定日の外七月十二月は盆暮爲用意別段二日つゝ市立の儀市中より願出候處十二月は定日の外兩日市立の積申渡

一 松平友松殿六月三日逝去の旨六月十三日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨觸る

一 去ル亥年伺の上御金藏除金貳千九百五兩金銀山御仕入として御渡在町のものへ貸渡元金貳百九拾兩

貳分つゝ年々御藏え返納利錢山師かなこ共へ貸渡候處當酉年迄元金皆濟十ヶ年分利錢五千五百貫文餘山師かなこへ年々貸渡稼方取績罷在候處連年不盛打續市中は勿論在方迄渡世營方難儀に付尙又來成年より來ル末迄十ヶ年賦元利濟崩の積を以金貳千九百五兩御貸渡一ヶ年利錢五百五拾貫文餘宛せんさく御入用へ打合出方相進候様取計ひ且十ヶ年以前山師かなこへ貸渡置候分は連年の不盛に而鏈代御手當少く早急返納成兼候間追て相應の出方に相成候節追々取立別段除置後年の手當に取計候積牧野備前守殿へ相伺候處伺の通被仰渡山師かなこえ貸渡候分は何れにも來成年末相應の割合ヲ以取調可相伺旨被仰渡

一 去申年分山出金千四兩三分灰吹銀五拾七貫七百貳拾六匁御傳馬宿入用金三拾壹兩壹分役人安田良助

山下仁兵衛才領にて六月廿七日相川出立出方御入用差引千九拾壹兩壹分永貳百拾四文貳分御損に成安田

此金直貳千拾七兩貳分永貳拾參文七分

良助仙田小左衛門江戸詰にて御勘定仕上ル

一 同年分山出銅五千貳拾九貫目此金積り千七拾五兩永貳百貳拾貳文壹分鉛三百六拾貳貫七百目此金九拾七兩永九拾七文五分

一 組頭横山七左衛門村々廻村檢地兼合八月五日相川出立檢地の節は廣間役平野仁左衛門地方掛り頭取地方掛り相越七左衛門同月廿二日歸着

一 城腰村長右衛門父重右衛門百歳の齡ひにて健強に付御役所え呼出鳥目を遣す

一 村々破免檢見有之組頭杉浦庄左衛門廣間役飯田清七郎地方掛り頭取地方掛り出役

一 郷村繪圖改候積りを以山林田畑屋敷書分ヶ檢地帳一筆限り境付いたし山野海邊明細に認め人家の多少隣村入會村形方角寺社堂塔御役家古城地郷藏御林秣場川筋沼地溜井用水道橋堤川除名有高岩山鷹ノ巢



其外藥草生立場所海邊嘯湊石濱砂濱鹽畑岩組の有無一村限り相仕立地方役所へ可差出旨觸出ス

一 正明寺村名主五郎左衛門村方小前百姓ともを救ひ奇特に付御役所へ呼出白銀貳枚遣す

一 青盤間歩中尾間歩取明穿割爲入用地役人ならひに市中のもの共より出錢いたし候よしに付佐州除金の内より金五百兩御下金相成候間取明方抄取候様取計可申旨牧野備前守殿御書取を以被仰渡

一 金銀山不進とは乍申全躰山を穿盡し候抔と申譯には曾て無之畢竟御損益の思慮掛引の順逆に寄候筋に付御稼入用彼是差略いたし取明御普請地山穿割等専ら爲取計候積り候處秋末より少々つゝ出方取直し冬季に至り一十日貳貫目以上の出方に相成候に付様子宜敷七ヶ年以前卯年より貳貫目以上の出方無之處全穿鑿の驗も顯候に付天明年中より寛政の始迄の出方に立戻り候様専ら爲相勵候趣牧野備前守殿へ申上る

一 十月晦日御簾中様御安産若君様被遊御誕生十一月六日竹千代様と御名被進候旨十一月十八日御奉書到來

一 竹千代様御誕生に付赦可被仰付間寶曆の格に可書出且格別の御祝儀に付當時在牢の者赦免の儀主殺親殺等逆罪の者は不申及密夫人殺の類赦に難成ものは相除其外は赦免可被仰付 但其内にも罪科重く全難被免ものは死罪は遠島遠島は追放と申様に一段ツ、も軽く可被仰付本人赦免の上は引合のものは不及咎當時吟味中にて右躰赦に可成程のものは委細不及吟味右は出格の儀を以可被仰付候間早々取調可差出旨松平伊豆守殿御書付御渡有之

一 中尾間歩取明普請入用最初積り高三千九百貫文餘にては引足り不申凡五千貫文餘も増入用相掛り可

申趣に付市中より差出可申哉と相尋候處難義には候得共是迄取明入用無益に相成候ては年來の存念も届兼候に付差出可申候得共此節出錢いたし兼候間最初申立候五ヶ年に割合可差出分相濟候上引續市中御拂米高に割合可差出旨申立ル

一 來戌年中尾間歩水替入用六千貫文餘相掛り候積に付三千貫文中え相渡水替人足爲差出此度取明入用五千貫文餘の内半分此節可差出哉と相尋候處水替入用半賃錢を以市中引請の義難義には候得共元來市中より取明相願候義に付來成年一ヶ年に限り水替入用半賃錢市中より相納可申取明増入用は年末差出兼候間來三月迄に可差出旨申立ル

一 青盤間歩源兵衛間切の内に稼所十ヶ所程有之候處享保五年洪水の節雲子間歩より水落込柄山に埋り候得共難捨置場所に付延享年中取明に掛り候處火灯方障り有之見合に成候處當時雲子間歩取明追々成就に付風廻りも出來火灯り方差支も有之間敷候間金銀山爲御仕入御下金五百兩を以源兵衛間切取明御普請申付候趣牧野備前守殿へ申上ル

一 金銀山出方閏十一月初旬より一十日鏈代貳貫目以上の出方になり十二月に至り貳貫五百目以上の出方相成候趣牧野備前守殿へ申上ル

一 仙洞閏十一月三日崩御の旨十二月廿七日御奉書到來普請鳴物五日停止の旨を觸ル

文化 十一 甲 戌 年

一 正月廿三日相川下戸濱え小船一艘流れ寄長壹丈六尺程巾五尺程深貳尺餘にて槽船主驛奴萬臆と文字



彫付有之焼印も相見朝鮮漁船にても可有之哉二月五日焼捨ル

一 去年分御年貢米壹萬貳千五百拾四石大坂御廻米になル

一 入川村鉛山請負稼望のもの無之に付御勘定奉行え掛合の上大坂表より鉛買入の積りを以手本鉛取寄取調候處是迄直段より下直に付入川村鉛稼差止大坂より鉛千貫目御廻米船に積入來亥年差下已後買入高は金銀山出方の様子に應し候積り御勘定奉行え掛合

一 紫石英寛政五丑年江戸表へ差上候處尙又此度三斤差上候様御膳番より申立御側衆より伊東長兵衛え談の旨申來る上品中品の内にて相納候様いたし度趣に付上品貳百七拾目中品百目御膳番え達ス

一 二月廿九日伊東長兵衛御持弓頭被仰付御納戸頭水野藤右衛門佐渡奉行被仰付

一 宿根木村より錢貳千貫文外村々の内重立候もの九人より錢貳千百貫文中尾間歩取明入用市中え振替の積りを以出錢の儀申出ル

一 矢柄村四郎左衛門村方小前のもの共を救ひ平日心掛もよろしき趣に付白銀貳枚遣す

一 水野藤右衛門信之四月朔日御暇にて同十三日江戸表出立同廿九日越後寺泊より赤泊湊え渡海五月朔日相川御役所え着金澤瀬兵衛交代し同四日相川出立同十日小木湊出帆

一 水野藤右衛門巡村として五月十八日相川出立外海府より海岸通り國仲筋相廻り西濱通りより六月二日歸着

一 唐藥和藥共組合藥種屋の外脇々にて直引請一切不相成旨御觸有之

一 去酉年分山出金千四兩壹分灰吹銀七拾八貫四百六拾九匁御傳馬宿入用金三拾七兩三分銀七匁七分七

此金直貳千七百四拾貳兩壹分永貳百四拾壹文六分

厘八毛役人伊澤久三郎九田藤左衛門宰領し六月廿九日相川出立出方御入用差引金千五百七拾六兩三分永貳拾壹文壹分御損に成伊澤久三郎小宮山佐左衛門江戸詰にて御勘定仕上ル

一 同年分山出銅四千七百三拾三貫九百目此金積千四拾七兩永貳百拾七文六分

一 七月廿四日水野藤右衛門金北山へ登ル

一 七月廿一日夜孝姫君様逝去普請鳴物御構無之旨牧野備前守殿大目付へ御口達の由江戸表より申來ル

一 遊行上人此度渡海の旨七月朔日役僧御役所え相届同八日遊行上人相川彌十郎町大願寺へ着同十七日

出立

一 奥州半田銀山御代官竹内平右衛門申立去ル辰年より佐州吹大工壹人つゝ年々遣來候處寺西十次郎支配になり半田吹方のもの相増手廻候に付吹大工出役差止候義御勘定所え申立候趣重次郎より申越ス御勘定奉行よりも掛合有之

一 國仲筋村々悪水拔普請目論見見分として組頭杉浦庄左衛門廣間役飯田清七郎地方掛り頭取地方掛り町同心等七月廿二日相川出立

一 御男子様御誕生御名松平銀之亟殿と稱候旨御奉書到來

一 竹千代様御不例の處御養生不被爲叶八月廿六日末ノ下刻御逝去の旨九月八日御奉書到來普請五日鳴物十日停止

一 唐船持渡の藥種荒物類近年賣買を危踏融通不宜趣に付手廣に可令賣買旨御觸有之

一 諸國御年貢米並大豆石代金納に相用候相場毎年十月十五日より同晦日迄國々町場市場等の相場書え



御代官領主役人奥印いたし差出し御勘定所にて吟味の上相場相極候處私の作略を以相場書出し候場所も有之趣相聞不埒に付明和の度相觸候趣堅ク可相守旨御觸有之

一 十月四日高波にて相川海邊附所々損所有之

一 於西丸姫君様御誕生御名達姫君様と奉稱候旨十一月八日御奉書到來

一 下八幡村紋右衛門土藏へ盜賊忍入衣類六十八品被盜候旨訴出に付遂詮義候處八幡村半三郎といふもの疑敷相聞候に付召捕相川え可差出積りを以夜中郷藏へ入置番人附置候處小用を辨し候躰にて駈出し近邊にて縊死に及ぶ

一 濁川町源助娘とめ三町目濱町善太郎老年の親ともへ孝心に仕ふ趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す

一 地役人保科季右衛門先祖遠州濱松におゐて御奉公仕罷在其後佐州地役人に相成代々御奉公相勤候に付爲冥加來亥四月中日光御宮參詣仕度旨相願候旨金澤瀬兵衛より牧野備前守殿へ書面進達の處來四月は御神忌に付參詣不相成五月より末參詣可致旨被仰渡

一 廣間役平野仁左衛門御用に付江戸表へ罷出候様牧野備前守殿御書付を以被仰渡十二月十九日佐州へ申來ル

一 國産煎茶近年高直に付他國出差留ル

一 諸國荒鉛拂底にて直段高下有之趣に付向後國々の鉛大坂銅座へ可相廻旨去々申年相觸候處追々出方相進下直相成候間如以前勝手次第手廣に可令賣買旨御觸有之

一 組頭杉浦庄左衛門實子惣領杉浦百太郎藝術爲修行江戸表え差出庄左衛門妻並三男娘共相歸度旨相願

候趣牧野備前守殿へ伺候處願之通被仰付

一 素讀指南の醫師兩人え申付毎月三日宛書院におゐて經書講釋始ル

一 去酉年大坂銅座へ相廻候去ル末年分山出荒銅代金千拾壹兩壹分銀八匁七分四厘三毛戌正月廿六日蓮池御金藏え上納

一 當成年大坂銅座え相廻候去々申年分山出荒銅代金九百四拾七兩三分銀拾貳匁三分貳厘戌十二月廿六日日前同斷

文化 十二 乙 亥年

一 去年分御年貢米壹萬四千四百五拾七石大坂御廻米になる

一 當四月十七日神祖二百回御忌に付山之神教壽院東叡山へ罷登るに依て正月十七日山之神於御宮御法事相勤水野藤右衛門始組頭諸役人參詣

一 正月廿一日公事方役堀口市太夫廣間役當分助申渡ス

一 信州安曇郡稻扱村半兵衛と云もの去年より佐州え來り西五十里村大瀧間歩といふ銀山を試稼いたす處正月廿四日小屋場え雪なたれ押掛り即死に及ぶ

一 正月晦日山之神におゐて有章院様百回御忌御法事教壽院相勤ル是又出府に依て正月勤ル

一 去ル亥年御藏御圍糶五千俵餘の内千俵糶の儘他國拂になる

一 中山峠往來の旅人寒暑風雨等凌ぐため八百屋町庄七と云もの御役所え申立家作取立煮賣を始ル



一 二月十七日御簾中様御安産姫君様被遊御誕生候旨御奉書到來  
一 鹿伏村神明社人佐々木伯耆下男彌市數年奉公實跡に勤主人え貞信に仕ふ趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す

一 村々におゐて紛敷榭相用る趣も相聞に付爲榭改樽與左衛門手附御普請所棟梁番匠松村七郎下代國中  
え爲相廻趣御役所え觸出す

一 廣間役平野仁左衛門正月五日佐州相川を出立二月廿五日火ノ番被仰付

一 二月廿八日儔姫君様逝去の旨三月十一日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨觸ル

一 西三川金山連年不景氣にて永續難計候間去秋中字四貫目平の内試普請申付置金砂引も相見候趣に付  
爲見分水野藤右衛門三月九日相川出立同十二日歸着見分の趣江戸表え申上ル

一 組頭杉浦庄左衛門伴百太郎其外家内江戸表へ引越願の通相濟候に付三月廿八日相川出立赤泊湊より  
渡海

一 金銀山爲御仕入御金藏除金より五百兩御下ケ金の分を以青盤間歩源兵衛間切取明追々稼所取出候得  
共手廣の場所にて御下金計にては取明出來兼候間穿鑿御入用等の内繰合引續御普請の積り土井大炊頭殿  
へ申上置

一 銀山内善兵衛老母へ孝心に仕へ家内睦敷近邊小前のものを勞り候趣相聞御役所え呼出し鳥目を遣す

一 他國旅人の内醫師逗留相願候はく佐州醫師肝煎之ものを爲改候上外々療治爲致候積り極る

一 越後國三島郡島崎村勘兵衛と云もの來り金銀山御入用鉛百目に付代銀壹匁五分つゝに賣上冥加とし  
て鉛千貫目に付拾貫目つゝ無代にて運用鉛可相納旨申上ル

一 四月十五日酒井讚岐守殿連判の列被仰付同十六日大久保加賀守殿所司代被仰付候旨同月廿九日御奉  
書到來

一 金澤瀬兵衛四月朔日御暇にて同廿三日江戸表出立越後寺泊より五月三日赤泊湊へ渡海翌四日相川御  
役所へ到着水野藤右衛門交代して同六日相川出立同八日小木湊より出帆

一 六月八日小普請方手代千賀多兵衛佐州廣間役被仰付

一 中尾間歩取明の義先達て市中より相願ひ此節文太郎敷惣太郎敷鏈引取出候趣市中のものへ申聞ル

一 清次間歩長作敷寶曆の頃迄相稼候得共風廻り不宜火灯り不申候に付稼相止近邊大切山吉助間切に延  
候得は煙貫に相成候趣に付十八年以前午年より切延候處去々酉年長作敷へ貫合候に付切廣ヶ等爲致試稼  
致し候處追々出方相進當時一ヶ月鏈代壹貫五百目程つゝ出來立引續様子もよろしく候に付青盤鳥越兩間  
歩同様本途稼の義牧野備前守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 西三川砂金山字立殘山南北柄山取捨川床盤地山堀割土居瀬下いたし候はく砂金出方可有之趣に付御  
入用金百貳拾兩程せんさく御入用の内より相拂候積りを以御普請來三月迄四分通出來跡六分通は出來形  
の様子に應し御入用追々御渡の積り牧野備前守殿へ申上る

一 廣間役淺見彌右衛門御金藏定番役申渡ス廣間役持格にて是迄取來り役扶持貳拾人扶持其儘被下候旨  
牧野備前守殿御書付を以被仰渡

一 廣間役助井上儀右衛門廣間役申渡ス廣間役當分助堀口市太夫廣間役助申渡ス小木番所定番役長島小



右衛門廣間役當分助申渡ス

一定役の内年老のもの四人廣間役次席申渡ス

一 去戊年分山出金八百八拾六兩壹分灰吹銀九拾壹貫八百六拾貳匁御傳馬宿入用金三拾六兩壹分銀拾貳匁此金直し三千貳百拾兩貳分永七拾六文九分勿貳厘四毛役人渡邊七郎右衛門熊木茂左衛門宰領にて六月廿九日相川出立出方御入用差引金貳千八拾五兩貳分永拾八文九分御損に成渡邊七郎右衛門坪井傳之亟江戸詰にて御勘定仕上る

一 同年分山出銅三千七百六拾九貫九百目此金積八百六兩永四文六分

一 下戸町惣助源七小前のものを勞り病難死別等にて難義のものを見繼遣し奇特の趣聞ルに付御役所へ呼出金子を遣す下戸村長右衛門同様奇特の趣に付鳥目を遣す

一 奉行所吟味引合等にて在方のもの呼出候節江戸宿飛脚賃錢の義に付御觸有之

一 中尾間歩の義市中より願に依て取明相成追々手廣に相稼候に付尙又出方相進候ため來子年より五ヶ年の間金百兩つゝ御拂米高に割合差出シ候積り市中のもの願に依て取極る

一 八月十日より清次間歩本途稼始る

一 佐州に是迄學問教諭所無之寛政年中より町會所におゐて醫師の内兩人つゝ素讀指南爲致候處水野藤右衛門在勤中改て御役所御圍内空地え素讀所取立金澤瀬兵衛存寄ヲ加へ普請成就の上掛り役人を極十月朔日より日々素讀指南始る

一 姫君様御誕生琴姫様と奉稱候旨八月十四日御奉書到來

一 村々檢地有之組頭杉浦庄左衛門地方掛頭取地方掛り九月十四日出立同十八日歸着

一 佐州御役所向其外御入用筋の儀骨折候に付組頭杉浦庄左衛門銀拾枚横山七左衛門同五枚廣間役飯田清七郎井口吉左衛門益田丹右衛門同五枚宛今井忠兵衛淺見彌右衛門同三枚つゝ井上儀右衛門同貳枚御褒美被下候旨牧野備前守殿御書付を以被仰渡十月十四日佐州におゐて申渡火ノ番平野仁左衛門先役中斷御褒美江戸表におゐて被下

一 御男子様御誕生御名久五郎殿と稱候旨御奉書到來

一 近年金銀山不盛打續一統潤助を失ひ自然と市中商賣も薄く難儀におよひ候に付當亥十一月より十ヶ年の間市中小役銀半減又は三分二三分一等夫々品物に應し免除の積り江戸表え伺の上被仰付

一 佐州船手役辻吉兵衛年來御奉公筋厚く見込家業無油斷相勵候段奇特の事に付御譜代被仰付其身一代佐州廣間役次に可罷在且爲御手當年々金五兩つゝ被下候旨十月廿四日土井大炊頭殿御書付を以被仰渡

一 十一月廿日相川海中より飛龍天昇し烈風にて所々屋根小羽板卷上ヶ五郎左衛門町金毘羅樓門吹倒ス

一 彌十郎町大願寺貸家熊右衛門と云もの貧窮の中にて兩親え孝行の趣聞へ御役所え呼出し鳥目を遣す

一 姫君様御誕生仲姫君様と奉稱候旨御奉書到來

一 中尾間歩取明の義市中のもの共頻而相願ひ候に付去々酉年六月御普請取掛り去秋迄に出來鏈引も備り一ヶ月灰吹銀壹貫三百目餘出來立候得共穿鑿御入用繰合相成兼候間永續の程無覺東趣在中のもの承および宿根木村勘四郎庄兵衛其外十九ヶ村にて人數貳拾壹人のものとも相川市中え助力いたし錢四千五百貫文差出し市中のものより年割にて濟崩の積りを以中尾間歩手入の義願出市中のもの共よりも休山に不相成様相願ひ候に付當秋以來格別穿鑿爲致候處追々出方相進一ヶ月鏈代三貫目程つゝ出來立候様相成御



益も相見候に付本途稼の積牧野備前守殿え相伺候處翌子年二月伺の通被仰渡

一金銀山間歩々々所多に穿鑿いたし候處相川山にて一十ヲ日鏈代三貫七百目餘の出方に相成屏風決彌十郎間歩をも打合候得は一十ヲ日四貫目以上の出方にて追々様子よろしく一十ヲ日四貫目以上の出方は寛政十二申年以來無之趣牧野備前守殿え書面進達

一金銀山御備肝要は間切切山不怠に切延候義に有之處近年打續出方衰微に付當然の義に被追間切切山御入用届兼懸りのものも鏈引無之處空敷穿込候事故御入用掛捨に可相成哉と相恐れ當然の凌而已に成行候に付町方並浦方番所にて取立候小役物十分一運上錢の内三分通請取間切切山御入用にいたし度旨牧野備前守殿へ伺候處伺の通被仰渡

文化十三 丙子年

一 去年分御年貢米壹萬三千百七拾貳石大坂御廻米になる

一 坂下町八平夫婦とも元地役人の内に奉公致し今以元主人え忠義を盡し候趣相聞御役所え呼出銘々鳥目を遣下京町虎右衛門母え孝心に仕ふる趣に付是又鳥目を遣す

一 金銀山出方不進の節は安鏈多く出候故粉成吹入用多く相掛り年々足入用多く外廉御入用より流用いたし來敷内より穿出候鏈石さへ右の躰に付川通海邊等に捨り候金銀氣有之士砂は尙更御入用に難引合候間流レ捨り無本意事に付差當り本途出鏈足拂補ひ方も可有之哉と相糺候處是迄の仕法汰物目形五百目程を山吹銀壹枚に吹立來り候分を十倍程一度に吹立山吹銀取上ケ候は、吹立御入用引合可申旨吹大工の内

申立候者有之吹稼候處山吹銀揚り方相増御入用相減シ候に付相川南澤町明屋敷人家も隔り火方安心の場所え大吹床屋並勝場とも新規御普請仕越取掛り候旨牧野備前守殿え書面進達

一 酒井讚岐守殿事若狹守と改名の旨二月廿一日御奉書到來

一 去ル申年上相川町御救旁青柳雲子二ヶ間歩取明の義相伺青柳は早速取明雲子は手廣の敷所にて抄取兼去亥十二月迄延長九百九拾間餘取明穿鑿いたし候處一ヶ月鏈代壹貫五百目程出來立一ヶ年百九拾兩餘御益も有之積りに付本途稼に申付惣間歩大工御改高貳萬人にては不足可致哉に付取調申上候積り牧野備前守殿へ伺候處當子年より來る辰年迄五ヶ年之間本途稼申付年季明の節尙又可相伺旨被仰渡

一 筋見岩佐定八養母へ孝行の趣に付金子を遣す壹町目裏町とめ元主人え忠信を盡す趣に付御役所え呼出し鳥目を遣す

一 大吹の仕法取立に付是迄稼捨置候古間歩揚ヶ柄山場所等取明相稼候は、渡世にも可相成義に付望のものは其筋え可申出旨觸出す

一 大吹所面筋金百目取揚御入用金拾四兩貳分山吹銀百目御入用金三兩貳分の積り掛り役人役扶持役金雇のもの吹方もの給米給錢被下方上納金百兩つゝ年々納方の義牧野備前守殿へ伺候處伺の通相心得諸渡方等の義年々取調申上候様佐渡奉行可申達旨服部伊賀守承付上ル

一 佐州山方役渡邊七郎右衛門銀山方御勘定仕上江戸詰御用出府罷在候處中風相煩奥御醫師杉本仲温療治請罷在候得共全快可致躰無之に付歸國相願候處末々御勘定仕上相濟不申候に付佐州え申遣し代りのも爲差登願の通歸國爲致候積り三月中酒井若狹守殿え在府水野藤右衛門申上ル



一 中尾間歩本途稼伺済に付三月七日番所役以下雇のもの人数を極ル  
一 市中願に依て中尾間歩取明追々出方相進ミ本途稼にも相成候に付初發より骨折候町年寄町役人とも御役所え呼出褒賞として銀子鳥目を遣す

一 金澤瀬兵衛夷湊湖邊地形見分として三月廿八日相川出立組頭杉浦庄左衛門地方掛り頭取壹人隨身四月二日歸着廣間役は夷湊御廻米出役より兼る

一 大吹の仕法申立候孫吉事大吹師と唱へ雇入申付ル

一 五郎左衛門町とめ夫死後姑え仕へ方能く一人の働を以子供をも養育いたす趣に付姑存命中手當を遣す積り

一 御金藏御充實の趣を以金壹萬三千兩江戸御藏移の積り牧野備前守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 四月二日就吉辰勅使中宮使東宮使登營公方様右大臣御轉任大納言様右大將御兼任之宣旨御頂戴御作法無殘所相濟御喜悅不大形候由且大納言様從同日右大將様と可奉稱旨四月十日御奉書到來

一 江戸詰役人渡邊七郎右衛門病氣に付代り今井新右衛門四月廿一日相川出立出府の上入代り七郎右衛門歸國

一 水野藤右衛門四月十五日御暇にて同廿九日江戸出立五月十三日越後寺泊より赤泊湊え渡海翌十四日相川御役所へ着金澤瀬兵衛交代して同十六日相川出立同廿日小木湊より出帆

但金澤瀬兵衛初在勤以來青柳雲子兩間歩取明其外諸間歩品々御仕入にて廢絶同様の金銀山再興有之市中産業を得候趣を以相川出立の時市中のもの多人數窪田村迄見送りに出る

一 國仲筋村々悪水拔普請五月廿三日より始ル廣間役地方掛り頭取地方掛り等出役

一 材木町たま夫死後姑を厚く勞り候趣に付姑存命中手當を遣す

一 相川市中惣代として町役人の内五人江戸表え出て金澤瀬兵衛在勤中廢れたる銀山を興し窮民を救ひ莫大の厚恩をうけ水野藤右衛門も同様に付兩人共當分佐州勤役を不立離様被成下度旨訴訟を五月廿五日寺社奉行内藤豊前守屋敷え差出候處筋違の願筋に付願書差戻し相成候處六月廿一日御用番土井大炊頭殿御登城の砌駕籠訴いたし候に付寺社奉行阿部備中守え御引渡に成筋違の願に付御取上に難成旨を以銘々心得違の趣申立歸國いたす

一 金銀山古來盛衰の運ひ取調六月七日牧野備前守殿え進達

一 西五十里村の内屏風澤彌十郎間歩穿鑿稼立置候處一ヶ月鏈代壹貫六百目餘に成出方御入用差引御益も有之候に付本途稼の義牧野備前守殿え相伺候處先兩三年は去亥年の振合を以穿鑿稼爲致彌引續出方相進候は、其節相伺候様被仰渡

一 水野藤右衛門西三川金山並に田切須村牛之助間歩見分のため六月廿二日相川羽田濱より小早御船にて乘廻り翌廿三日歸着

一 紙屋町巳之助養母え孝行の趣相聞御役所え呼出し鳥目を遣す

一 去亥年分山出金千七拾五兩壹分灰吹銀八拾貫百拾八匁御藏移金壹萬三千兩御傳馬宿入用金貳拾八兩壹分銀拾匁壹分四厘壹毛役人早川太右衛門山中又四郎才領にて七月六日相川出立出方御入用差引金貳千三百八拾七兩三分永百九拾三文四分御損に成今井新右衛門山中又四郎江戸詰にて御勘定仕上ル



- 一 同年分山出銅三千五拾貫三百目此金積り六百七拾貳兩壹分永貳百三拾九文五分
- 一 諸色直段引下ヶ方の義に付町觸出す
- 一 雲子間歩年限本途稼八月二日より始ル
- 一 金澤瀬兵衛七月廿四日長崎奉行被仰付候旨八月二日御奉書到來
- 一 御藏御圍糶御拂に可相成分商人共の内六人にて買請に極り候事を市中難義に存し寺院等え寄合彼是混雜にも可及趣相聞市中惣代の趣申成頭ヲ取候もの共吟味および候處同類より町々え爲觸知八月十八日羽田濱へ多人數集會夫より御役所門前え出強訴に類し甚々以騒ヶ敷夜に入糶買受候商人とも宅へ多人數押掛ヶ家財道具等打碎き翌十九日澤根村曼茶羅寺へ多人數相越狼藉に可及趣に付役人同心等遣し取鎮る是は曼茶羅寺住持も糶買受の内仲間たるよし風聞によつて狼藉に可及企と聞ゆ都て此騒動の起りを按するに糶摺立市中へ相拂候得は小前の者助けにも成り來りし處商人共一手え相拂候得は市中難儀は必定之事也乍去小前惣代とて頭をとり混雜を起せしものも元來商人にして銘々自己の利を計らんか爲騒動を引出し實に小前の爲を思ふにも非ず是によつて糶は市中え爲買請混雜を起せし者咎申付事鎮る
- 一 小早御船貳艘造り替八月廿八日水野藤右衛門乗初をなす
- 一 青盤間歩敷内水道並留棚仕越御普請伺の通被仰渡以來地震其他不時の破損等暫くも難捨置危急の義は格別此度の如く年數等相立難捨置場所は前廣より心付伺の上取掛可申旨牧野備前守殿御書取を以被仰渡
- 一 外海府邊村々の内破免檢見入有之組頭杉浦庄左衛門廣間役地方掛り頭取地方掛り等間八月十日出立

同廿七日歸着

- 一 金銀山稼所七ヶ間歩に相成穿鑿御入用引足不申候間寛政以前の通り御藏錢相場違ひ増納錢御益の内五分通り請取金穿大工御入用の儀も如元貳萬五千人に御引戻し銅稼の分は別段五千人まで仕掛け候積り且銀山内川通り拾ひ石粉成吹入用も外吹金銀御買上代別段請取候節の振合に立戻し本途穿鑿御入用の外に御渡被下度旨五月中牧野備前守殿え書面進達の處追々御入用相掛ヶ在町出錢等を以取開候古敷數ヶ所におよひ様子もよろしく候處是迄の御入用にては難立行往々相廢候様にも可至よし無餘義相聞候間試のため先ッ當子年より五ヶ年の間伺之通御藏錢相場違増納錢御益の内五分通請取仕拂銀山内拾ひ石粉成吹御入用も外吹稼金銀代請取候節の姿に立戻り本途せんさく御入用の外請取並金穿大工人數も元のことく貳萬五千人に致し銅山稼別段五千人仕掛け候儀は近來諸山出銅も相進候間先つ人數相増候にも不及是迄の姿に居置其外伺之通可取計旨土井大炊頭殿青山下野守殿酒井若狹守殿御連名の御奉書間八月廿四日御日附にて九月十三日水野藤右衛門在勤先え到る
- 一 銅稼出鏈水車扣にいたし人力を省き候積りを以水車場取立候旨江戸表え申上ル
- 一 水戸宰相殿間八月廿三日逝去の旨九月四日御奉書到來普請三日鳴物七日停止
- 一 九月九日夜下寺町正法寺自火にて焼亡におよぶ
- 一 徳川民部卿殿九月四日逝去の旨同十一日御奉書到來普請三日鳴物七日停止
- 一 他國のもの神社佛閣參詣等に來り住居相願候もの承届來り候得共近來國中人數も相増候に付親類身寄のもの養子相續等の外は他國のもの住居容易に難相成趣觸知らす



- 一 十月廿三日未ノ上刻御簾中様御安産姫君様被遊御誕生候處未ノ中刻御逝去の旨十一月四日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸ル
- 一 御勘定吟味役篠山十兵衛十月八日佐渡奉行被仰付候旨十一月四日御奉書到來
- 一 五拾石以下積石の船他國通ひ差留ル
- 一 去ル申年より格別の御儉約被仰出諸向一同心附方よろしく御入用減方も有之御満足被遊候當年にて年限相滿候に付來年よりは申年以前の通たるべく乍然御勝手向立直り候には無之尙又追て被仰出品も可有之旨土井大炊頭殿御書付御渡有之
- 一 去亥年大坂銅座え相廻候去ル酉年分山出荒銅代金九百三拾八兩銀拾六匁壹分七厘六毛子三月十八日蓮池御金藏え上納

文化十四 丁 丑年

- 一 御男子様御誕生松平信之進殿と稱候旨二月二日の御奉書同十六日到來
- 一 去年分御年貢米壹萬四千貳百貳石大坂御廻米になる
- 一 二月二日朝大風吹募り御修復場所其外人家吹潰候も有之陣屋御役所向並組頭御役宅をはしめ吹所の内床屋並銀山中尾間歩番所大風にて吹傾け起直しも成兼候に付仕越御普請の義青山下野守殿え伺候處伺之通被仰渡
- 一 水野藤右衛門國仲筋川々御普請場見分並夷湊邊見廻として二月十七日相川出立同廿日歸着

一 國仲筋村々惡水拔普請出精相勵候に付組頭杉浦庄左衛門え銀五枚廣間役飯田清七郎同貳枚定役三人え金三百疋つゝ並役壹人え金貳百疋同心壹人金百疋被下候旨土井大炊頭殿御書付を以被仰渡三月八日佐州におゐて申渡ス

- 一 去ル未年御儉約嚴敷被仰出翌申年より五ヶ年を限り御入用請取物の内二割以上減方を付差出候様被仰渡候處佐州御入用の義は寛政年中度々減相立近年海邊御備向に付臨時御入用相掛候得共繰合増御入用不申上此上減方可相立廉無之段兼而御勘定奉行えも達置年々御入用吟味詰候得共何分可相減廉無之御鐵砲玉鉛の儀は二割相減請取候積り青山下野守殿へ申上ル
- 一 佐州御藏元書御拂米の義年々御拂高取極も無之候に付寛政九巳年取調寶曆四戌年より寛政八辰年迄四十三ヶ年平均一ヶ年一萬六千九百九拾石餘に相成候に付有餘を見込壹萬七千石に取極閏月有之年は割合を以相増候積り申上候處四拾三年平均の内には閏月分籠り有之候間閏月を除き候得は壹萬六千四百七拾九石餘に相當り候に付右高を目當にいたし閏月有之年は一ヶ月分相増候積り取極置候様被仰渡候處一萬六千九百九拾石餘の分は閏月を除候割合にて石數相減候ては拂方差支候得共一旦御下知濟に付買受方相減來候處追々金銀山間歩數相増し大吹所等も出來雇入のもの共市中高直の飯米買請候ては難義に付壹萬六千九百九拾石餘を目當にいたし閏月有之年は割合を以一ヶ月分相増候様仕度旨青山下野守殿え伺候處伺之通被仰渡
- 一 篠山十兵衛初在勤に而不案内之義に付定例四月下旬交代の頃合より早メに佐州え相越し金銀山取扱の義共同役より得と演説を受け尙又評議の上取計申度去子十月中御役被仰付支度の有餘も數月有之候に



付三月中旬迄に御暇被下候様仕度旨松平伊豆守殿へ御内慮伺進達の處當年は三月中旬御暇被下に而可有之旨御書取を以被仰渡

一 三月廿日書院におゐて役人の内學問心掛ヶ候ものへ經書講釋並素讀其外武術等を試る

一 篠山十兵衛正景三月十一日不時御序有之御暇被下同廿二日江戸表出立兼而願之上日光御宮御靈屋參詣奥州通り越後寺泊え出津四月七日赤泊湊え渡海翌八日相川御役所え到着水野藤右衛門交代して同十一日相川出立同十三日小木湊より出帆

一 諸山荒銅去ル末年より百斤に付銀五拾目つゝ直増有之候處市中銅直段下落に付銅座廻り高も相増候に付直増銀差止候旨御勘定奉行より達有之ル

一 金銀山稼方追々伺の上穿鑿御入用有餘にも相成候に付無油斷爲相勵候處近年の出方よりは上納高相増候積りの旨水野藤右衛門歸參の上土井大炊頭殿へ書面進達

一 篠山十兵衛足痛に付巡村見合秋頃に至り農業障りに不相成頃合見合巡村の積り江戸表え申上ル

一本五月廿四日  
去月廿四日仲姫君様逝去普請鳴物御構無之旨御奉書到來

一 淑姫君様病氣の處御養生不被爲叶五月廿九日御逝去の旨御奉書到來普請五日鳴物十日停止

一 地役人江戸詰のもの旅宿手狹にて差支候に付宿代増方之義青山下野守殿へ伺候處伺之通被仰渡

一 青盤間歩の義は筋金山に而出方相進候得は上納高相増し市中の潤ひにも相成候處近年出方不進に付今般相川町々のもの一同錢五千貫文年割出錢可致候間當時稼所の外別段の場所穿鑿の義願出去ル酉年糺の上臺通り稼方引取候處源兵衛廊下取明にて落水有之敷々溜水附取に相成候間市中願の通出錢申付年わ

り年限中除金の内より振替相渡置年々出錢を以除金の廉え返納の積り青山下野守殿へ相伺候處伺之通被仰渡

一 大吹所御入用御元錢貳千五百貫文年々請取年末に至り相納猶又翌年分請取候積り青山下野守殿へ伺候處伺之通被仰渡

一 去子年分山出金千六百九兩灰吹銀百九貫五百貳拾五匁御傳馬宿入用金三拾兩貳分銀拾匁六厘九毛役人井口新次郎金光治兵衛才領し六月廿八日相川出立出方御入用差引金貳千三百三拾六兩壹分永貳百拾七文七分御損に成井口新次郎加藤斧八江戸詰に而御勘定仕上ル

一 同年分山出銅三千三百九拾七貫六百目此金積六百八拾四兩三分永三拾六文三分

一 信之進殿六月十七日逝去普請鳴物御構無之旨御奉書到來

一 篠山十兵衛夏中より病氣の處七月廿三日より病牀重く飯食通せず

一 村々破免檢見入組頭横山七左衛門廣間役飯田清七郎地方掛一同八月十七日出立

一 篠山十兵衛佐州におゐて病氣相勝レ不申來年四月交代時節迄御用向取計無覺束旨水野藤右衛門え申越候に付渡海相成次第交代の積りを以八月中には御暇可相願來四月に至り定例の通交代可被仰付義と奉存候旨水野藤右衛門書面八月十二日酒井若狹守殿へ進達

一 八月廿二日篠山十兵衛病氣差重り跡目願書江戸表え差立ル依之御下知狀並宿次御證文等組頭え引渡ス

一 篠山十兵衛病氣養生不相叶八月廿三日辰の刻死去の旨用人より組頭え届に付其段諸役人其外へ申達



シ江戸表え組頭より御用狀差立ル

一 廣間役壹人つゝ晝夜御役所に詰切

一 篠山十兵衛遺骸八月廿七日山之神曹洞宗總源寺へ葬ル

一 篠山十兵衛家來の内兩人は水野藤右衛門參着迄居残り其外一同佐州引拂

一 水野藤右衛門八月廿七日江戸表出立三國路通り九月四日越後寺泊え着同十九日小木湊え渡海翌廿日新町村に止宿同廿一日相川御役所着

一 十月廿一日京都におゐて御即位有之候段同廿九日御奉書到來

一 金銀山水替安永七戌年以來無宿もの被遣寛政の頃迄小屋内人數百六七拾人より貳百貳拾人位まで有之在町のもの雇入御入用相減候處近年町奉行より引渡人數少ク小屋内六拾九人に相成差支候に付來寅年健成もの百人餘も御差下し御座候様仕度旨伺書江戸表え出す

一 大吹所近邊南澤町川上水掛りも宜く候に付水車取建大吹所鏈石扣粉にいたし人力を省き候積り取計ひ候旨江戸表え申上ル

一 去子年大坂銅座え相廻り候去ル戌年分山出荒銅代金六百三拾兩三分銀拾三匁四厘三毛丑六月廿八日蓮池御金藏へ上納

佐渡年代記卷之十四 終

佐渡年代記 卷之十五

文政元 寅年

四月廿二日改元

一 去年分御年貢米壹萬三千貳百拾七石大坂御廻米に成ル

一 御役所向其外御入用掛廣間役今年より始ル

一 金銀山敷内鏈石穿取候節御入用の鑽今年より鍛ひ鑽を用

一 鳥越間歩明和二酉年間切にて鏈に切當追々新規の稼所出來出方連綿いたし來候處文化年中より及衰微に候得共臺通取明候は、出方も可有之趣に付御除金の内より千三百四拾七兩三分御渡取明御普請の儀青山下野守殿え伺候處伺の通被仰渡

一 金銀山吹所御用炭御普請所江戸水替等御入用筋改方廣間役目付役立會見廻り等の凡例其外定勘定役所規定極ル

一 相川中京町七兵衛夫婦共老母え孝心に仕貳町目濱町長兵衛養母を厚孝養いたし妻も同敷貞實に仕へ貳町目伊十郎夫婦共母え孝心に仕ふる趣に付御役所へ呼出銘々鳥目を遣す

一 浦方爲御備相川より役人六人使役貳人同心五人年々出役申付候處近年人少に付役人三人出役相止右



代り使役壹人同心貳人手傳出役申付候事に極ル

- 一 二月八日西九御納戸頭高橋三平佐渡奉行被仰付貳百俵高に被成下候旨同月廿二日御奉書到來
- 一 灰吹銀其外潰銀類銀座の外他所にて賣買致間敷銀箔は銀座より下かね相渡京都職人共打立世上え賣出他國にて紛敷下かねを以銀箔打立候事は難成旨先年より度々御觸の處近年猥りに相成候趣に付以來急度可相守旨御觸有之

一 組頭杉浦庄左衛門十ヶ年餘在勤いたし候に付外遠國勤の振合を以當度御用透見計ひ爲伺御機嫌出府相願度次男千次郎病氣に付江戸表え召連療治爲致度旨願書出に付青山下野守殿え相願候之處願の通被仰渡候に付四月十五日佐州におゐて申渡

- 一 御勝手方御用向青山下野守殿水野出羽守殿月番にて御取扱の積り御沙汰の旨江戸表より申來る
- 一 近年引續御儉約被仰出就中去ル申年より去々子年まで嚴敷御省略も有之候處彼是不時の御物入等莫大にて思召の外未御勝手向御繰合も不被行届候に付猶又當寅年より來々辰年迄三ヶ年の間改而御儉約被仰出候に付銘々役所限りの出精を以御定高をも可成丈相減候様取計ひ惣而御政事向に付御差支無之ため御儉約に候得は下々のもの可及難儀品は御趣意に相肖候之間右の心得を以御儉約行届候様可致旨青山下野守殿御書付御渡有之
- 一 國産煎茶高直に付他國出差留置候處下直に相成るに付一ヶ年壹萬六千斤程澤根夷水津三ヶ所より他國出を免す
- 一 金丸村百姓九郎左衛門齡九十四才におよび養子九右衛門困窮の中にて孝心に仕ふる趣に付父子共御

役所え呼出鳥目を遣す

- 一 金銀山御入用鍛冶炭一ヶ年大工貳萬人に付炭壹萬貳千俵宛請負村方より納來候處去々子年より大工五千人相増炭六千俵餘不足の分増買入代錢直段違の分向々より増代取立候積り取極る
- 一 新町村濱におゐて四月十八日大筒町打有之水野藤右衛門見分に相越組頭横山七左衛門並打方の者出役

- 一 小判所筋金燒金夜燒始ル
- 一 一定免切替村々爲見分在方掛廣間役地方掛を出す
- 一 世上通用のため貳歩判金吹立被仰付候間右歩判二を以金壹兩の積り通用可致旨御觸有之
- 一 高橋三平重賢四月朔日御暇にて同十九日江戸表出立三國路通り越後寺泊え出津同廿八日赤泊湊え渡海翌廿九日相川御役所え到着水野藤右衛門交代して五月二日相川出立翌三日小木湊出帆
- 一 金銀山稼方の儀に付近年品々御仕入も有之に付追々様子宜相成去秋より相川市中のもの出錢を以青盤間歩穿鑿いたし候處當春以來一十ヲ日にて鏈代壹貫目餘出來立候様相成候趣青山下野守殿え書面進達
- 一 佐州の儀は離島の國柄に付土地のもの質素儉約を守衣類其外麤品を用ひ來候處三四十年前より追々近國商人とも立入吳服物其外諸道具等上品の品持來賣捌候に付自然と華美に移り候間近國商人共不立入様申渡候趣水野出羽守殿え書面進達
- 一 組頭杉浦庄左衛門五月十一日相川出立赤泊湊より大小早御船に乗組越後出雲崎え渡海同廿七日江戸表え出府六月廿日御目見被仰付



一年號改元有之爲文政の旨四月廿一日於京都被仰出候に付五月四日於江戸表御弘メ有之候段御奉書到來

一 高橋三平巡村のため五月十八日相川出立大間濱より乗船にて外海府通り海岸相廻國仲筋え掛西濱通より六月二日歸着

一 此度吹立被仰付候貳分判六月十日より通用可致小判金年久敷相成瑕金多く世上難儀の趣に付五分以上の切金は勿論其以下の瑕金にても差別なく無代にて引替可遣候間後藤三右衛門役所を始引替所え差出可申貳分判切貨壹分判同様に相心得不相當の儀致間敷旨御觸有之

一 御男子様御誕生表向被仰出無之松平陽七郎殿と奉稱候旨御奉書六月十一日到來

一 去丑年分山出金千六百拾壹兩此金直四千五兩貳分永百八拾九文四分灰吹銀百拾四貫六百拾貳匁御傳馬宿入用金貳拾九兩三分銀壹匁九分九厘六毛山方役人奥田勘左衛門御藏方役人淺見彌吉宰領にて六月廿六日差立る出方御入用差引貳千百拾三兩壹分永貳百三拾七文七分御損に成奥田勘左衛門野上理兵衛江戸詰にて御勘定仕上る

一 同年分山出銅貳千八百三拾八貫四百目此金積四百六拾六兩壹分永五拾壹文八分

一 國々におゐて貳分判の形を相辨居不申候は、若似せ金を拵新吹の貳分判と偽兩替等いたし候者有之節のため遠國奉行所御代官所御預所等え兼て貳分判渡置候様水野出羽守殿被仰渡候間貳歩判四枚御勘定奉行より佐州え差越兩替取引いたし候者共え相渡代り小判壹分判の内取立可差遣尤貳歩判四枚にては兩替屋共銘々え行届申間敷候間兩替手廣にいたし候もの共え相渡仲ヶ間不洩様爲見置候様にも申渡候方に

可有之哉の旨御勘定奉行より達有之に付大積地方御藏方兩替屋仲間え一宛相渡代り金取立相返す

一 村々の内六月中旱損にて難儀の趣申出ル

一 七月廿三日酒井若狹守殿御懇の以上意右大將様え被爲附其上御腰物被下候旨八月朔日御奉書到來

一 佐州山出金享保度より延享の頃迄延金にて江戸表え相廻候由の處諸雜費相掛候由にて通用金に吹立上納有之候處諸雜費何程相掛差支の有無否可申越旨御勘定奉行より掛合の處諸雜費等掛り候儀は無之候得共七十ヶ年餘も通用金に吹立來候處延金にて上納に成候ては出來高目當附兼<sup>弛の誤か</sup>駝みにも相成御失墜も出來可申哉甚以無覺束追て山出筋金相増以前の通に成候は、延金に取交候ても差支有之間敷先是迄の通通用金に仕立上納致度旨相答ル

一 姫君様御誕生表向被仰出無之喜代姫君様と奉稱候旨八月十日御奉書到來

一 八月二日水野出羽守殿大久保加賀守殿御懇の以上意連判の列被仰付松平和泉守殿御懇の以御誕所司代被仰付出羽守殿奥向御用竝御入用掛り只今迄の通り可相務旨被仰出候段八月十日御奉書到來

一 相川羽田町榮次郎祖父伊助八十六才に成父熊次郎二十年來病氣母も相煩ひ父母とも死去いたす處病中看病心を盡し孝養いたし祖父の看病怠りなき趣相聞家大工の身分にて困窮の趣に付祖父存命の内爲手當毎月鳥目を遣す

一 大工町五兵衛倅萬五郎親ともえ孝心に仕ふる趣に付御役所え呼出鳥目を遣す

一 組頭横山七左衛門廣間役飯田清七郎地方掛大浦村破免檢見入として八月廿五日相川出立横山七左衛門即日歸着其餘は外村々地所見分に廻る



一 金銀吹方に用ゆる炭の儀前々は請負又は買上にいたす處近年御林木直焼の方直段下直に相當候趣にて追々焼立渡來候處炭和らかにて金銀吹解方不宜長吹になり吹炭は勿論合種鉛欠減多萬一金銀揚方にも響可申哉に付高直に候共以前の姿に立戻り買上炭用ひ可然哉定問吹所におゐて吹様可申旨申渡

一 諸間歩鍛ひ鑽利方も宜入用減相立夫丈ケの分敷内え餘慶相掛候得は自然と稼方の一助相成辨利の事に付此末共心を用ひ取扱候様申渡

一 地役人竝使役町同心水主等節儉申合の事に付書取渡

一 小川達者兩村より鳥越間歩水替に罷出候もの共え爲手當別御拂米貳拾石宛渡

一 御年貢金錢其外都て納渡の度々御役所内町方番所え箱を出置納人請取人の名印月日を記し箱え入泊番廣間役取出翌日掛りの同役え引渡候事に極ル

一 銀山方月番廣間役御用多に付添月番始ル

一 石花村より北片邊村え掛<sup>一本字いり坪</sup>ケ字いら坪はや窪されいとく唱ふる野山石花村持のよし申立北片邊村にては入會の趣申し去ル亥年及出入見分のもの出役隣村の者取扱右場所四分通は石花村持にいたし六分通は兩村入會に取極其外山肴と唱年々北片邊村より鰯拾七貫五百目宛贈來處以來拾三貫目遣す積を以內濟いたし論所境引分を取掛候處双方歩通り多少を争ひ決兼候に付假極の積取計置候處右内濟の通にては混雜におよひ何分治り兼候趣石花村より訴出に付吟味の上論所地元は石花村と心得北片邊村入會稼にいたし前々の通山肴は拾七貫五百目宛北片邊村より可相贈旨裁許の上双方屈伏いたす

一 江戸水替とも平人申付他國出いたし再無宿になり被召捕候もの多く此末人數多く平人申付候儀は勿

論他國出爲致候儀は難相成様成行候ては望を失ひ歎ケ敷事に付改正いたし心得違無之様山方役水替掛りより申論候様申渡

一 雲子間歩敷内出方不進に付青盤間歩敷所相稼追々に鏈引取出候に付十一月初十日より代銀賣立雲子稼と申名目にて取計ひ候様申渡

一 鳥越間歩え當十一月中十日より年内中一十ヲ日に付大工百人分宛仕掛當年中増方而已に不拘來卯年より出方壹貫目以上連綿いたし衰微におよはざる様可取計旨申渡

一 村々社人共の内近年大宮司大神主等受領爲官金名主長百姓共を頼小前百姓共迄割付同様にいたし官金爲差出趣粗相聞不埒の事に付大宮司神主等吉田家より免許の添簡願出候ても不取上百姓共勸化相願候者共於相聞吟味の上急度可申付旨社人竝村々え觸ル

一 組頭杉浦庄左衛門出府中疝癢にて腰痛足痛等差發引込候程の儀には無御座候處出來不出來有之御醫師半井策庵藥相用ひ罷在候内佐州え御暇可相願頃合に趣候處全快の上出立爲仕度今暫在府爲仕不苦儀に御座候哉佐州におゐて組頭壹人勤にても差支の儀無御座候に付御内慮奉伺候旨九月三日土井大炊頭殿え書面進達の處在府爲仕不苦旨即日伺の通被仰渡在府いたし候處十二月に至り御暇爲相願出立可爲致處全快にも無之其上渡海惡敷時節に付來春迄在府爲仕渡海宜時節に至り出立爲仕度旨大久保加賀守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 貳歩判の儀御年貢竝諸家上納金は勿論諸問屋拂爲替納遠國爲替等も貳歩判取交可申皆貳分判にても勝手次第世上通用差滯申間敷旨御觸有之



一 金銀掛合候分銅寛文中改以前の古分銅潰直段を以後藤四郎兵衛方え爲買請目輕き古分銅内々にて賣買致間敷旨度々相觸候處今以西國竝長崎筋にては古分銅多致賣買用候由相聞候に付四郎兵衛より分銅改役人相廻紛敷分銅取上候筈の旨御觸有之

一 佐州羽茂郡小比叡村蓮花峯寺儀九年目參府御禮相務來當寅年九ヶ年目に付參府御禮相勤可申處當夏以來病氣に付參府延引仕度段十一月廿六日佐州御役所え願出るに付當夏頃にも可願處此節に至り申出候旨如何の儀相糺候處是迄參府延引の儀無之に付江戸表役寺え當八月問合の書狀差遣處役寺より寺社奉行え相伺長崎表に右の例有之其所の奉行所え可願出旨差圖有之右往答手間取延引相成候旨申立右參府延引の儀願の趣承届置可然哉の旨寺社奉行え及問合候處願の通聞届置快氣次第追て相願候様可申渡旨水野左近將監挨拶有之

一 瑕金引替の儀以來小判壹歩判貳朱判は不相渡皆貳歩判を以是迄の通無代にて瑕金引替可遣旨御觸有之

一 佐州山出金延金の儘江戸表え相廻候儀先達御尋の處初發元和七酉年鎮目市左衛門伺の上筋金にて江戸表え爲差登小判此方へ取寄候事海上無心元候間後藤庄三郎手代此方え呼寄小判に仕立させ候様可仕哉の旨相伺候處同年七月廿日伺の通被仰渡庄三郎手代共佐州え被遣年々小判に仕立元祿八亥年より同十四巳年迄元ノ字金吹替に付燒金にて江戸上納に成右代り年々御下金有之元祿十五年より寶永七年迄佐州にて小判仕立正徳元卯年より同四年迄金銀吹替に付燒金にて上納正徳五末年より享保九辰年迄佐州にて小判仕立享保十巳年より延保三寅年迄燒金延金にて上納に成延保四年より文政元寅年迄佐州にて

小判に仕立來延金の儘にて上納相成候ては小判何程出來立候哉目當無之先々吹散候金氣取盡候手業届兼候様にも相成候間通用金に仕立江戸上納の方可然旨水野出羽守殿え書面進達の處先是迄の通可取計旨被仰渡

一 去丑年大坂銅座え相廻候荒銅掛改候處多分の缺減有之右の内山石交りの分も有之に付山石交りは佐州え積廻の積御勘定奉行より掛合に付相糺候處吹方未熟の吹大工共有之石砂等交候に付吹方改正いたし嵩多の分片分石砂土等籠不申様吹立候に付素銅同様に相見可申候へとも再絞の上銀氣絞候銅には無之旨御勘定奉行え掛合

一 諸役人の内定役格の者多人數に成座順混合に付以來役順に定ル

一 金銀山の内青盤間歩春頃より景氣宜中尾間歩秋末より壹貫目已上に相成鳥越間歩初冬の頃より早急出方取直一十ヲ日鏈代貳貫目餘に相成十二月初十日に至諸間歩鏈代六貫貳百目餘に相成御益も相進二十三年以前寛政八辰年以來無之出方に相成候趣水野出羽守殿え書面進達

一 去丑年大坂銅座え相廻候去ル亥年分山出荒銅代金三百八拾三兩銀五匁五分六厘九毛寅十月六日蓮池御金藏え上納

文政二 己卯年

一 達姫君様御病氣の處御養生不被爲叶去寅十二月廿四日逝去の旨正月廿二日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る



- 一 相川壹町目嘉十郎平日心立宜敷身元相應に暮なから節儉を守り小前艱難の者共見繼遣趣に付御役所え呼出金子を遣上横山村名主庄兵衛村方取治方宜小前百姓共を勞り濱川流引請人八太郎手附仕事師北右衛門五十六年來手業功者にいたし八太郎祖父代より家業相續いたす處實意に相勵馬町佐太郎儀母え孝心に仕ふる趣相聞銘々御役所え呼出鳥目を遣す
- 一 寺社除地の内元祿の度一國檢地以後寺社人共限にて空地新開いたし畑屋敷を田地に切開候處も有之趣に付相替候場所は爲申立寺社帳え其譯記置此後新開田畑成畑田成等致候は、時々可申出旨觸置
- 一 元紙屋町金之助元炭屋町元松熊次郎先年不届の筋有之所拂申付處去亥年東照宮二百回御忌御法會に付赦免被仰付旨御役所え呼出申渡
- 一 去年分御年貢米壹萬貳千九百八拾四石大坂御廻米に成
- 一 去寅年大坂廻荒銅三千三百四拾壹貫目餘の内山石交の分八百三拾四貫目餘有之去々丑年分山石交の分一同當春御廻米船え積入差戻の積御勘定奉行より掛合有之三月十八日積來る
- 一 先達而伺の上鳥越間歩取明御普請去寅年五月より取掛當二月迄に皆出來兼而伺濟の通御金藏御除金の内より千三百四拾七兩餘請取相拂候趣青山下野守殿え申上ル
- 一 西坂通り風烈の砌通行の者難儀に付松苗を植立ル
- 一 加茂村近邊七ヶ村近來惡犬多く入込野飼の牛馬喰殺趣訴出に付夷湊番所え申遣近邊野山犬狩いたす
- 一 姫君様御誕生表向被仰出無之永姫君様と奉稱候の旨二月八日御奉書到來

一 金銀山出鏈粉成場所寛政十一末年迄は十二軒有之處同年類焼の砌金銀山不盛に付五軒補理置此節相増差支候間拾貳軒可取立處先三軒相増床屋の儀も手狹にて差支候間建繼の積仕越御普請の儀青山下野守殿え申上ル

一 鳥越間歩の内取明御普請御用出精相勤候に付組頭横山七左衛門え銀拾五枚廣間役壹人同五枚定役三人金貳兩宛並役五人金五百疋宛被下候旨青山下野守殿御書付御渡に付佐州において申渡

一 禁裡御袍瘡御酒湯被爲召候に付爲御祝儀二月廿五日江戸表におゐて惣出仕被仰出候旨三月十八日御奉書到來

一 組頭杉浦庄左衛門去寅五月出府御目見相濟候處足痛に而旅行相成兼追々日延相願此節快方に付御暇被下置候様三月廿三日土井大炊頭殿え在府水野藤右衛門申上候處四月朔日御暇被下金壹枚時服貳被下置候處同月廿六日御廣敷番之頭被仰付

一 水野藤右衛門四月朔日御用の儀有之登城可仕旨土井大炊頭殿御奉書到來の處三月十三日より病氣に付登城可仕無御座旨申上ル

一 雲子間歩去冬以來新規の鏈引取出出方連綿いたし候に付褒置

一 素讀所附書籍上るに付場所手狹に有之南え建繼

一 越後出雲崎湊は前々より佐州えの渡海場に付爲御手當年々拜借米七百石並最寄三十二ヶ村助郷も有之處近來寺泊宿より渡海多相成難澁のよし申立出雲崎同様御手當の儀再應願出候へ共難取上筋に付以來風順に寄無據適寺泊え着岸は格別成丈先前の通出雲崎に限渡海の積相成候而も敢而差支有之間敷哉の旨



御勘定奉行服部伊賀守より掛合の處近來迎も寺泊より渡海多分に相成候儀無之併佐渡奉行先前仕來にて下り掛ケは三國路通寺泊より渡海いたし來候間往返共出雲崎渡海に相成候而は差支無之共難申旨及挨拶候處寺泊願筋難相立儀に有之上は出雲崎共譯違ひ困窮の場所に付佐渡奉行風待等の節成丈宿方諸雜費不相増様勘辨の儀御勘定奉行村垣淡路守より掛合に付於佐州差支候筋無之旨及挨拶

一 異國船旗印の圖并横文字和解書付青山下野守殿御渡の旨堀田攝津守殿より服部伊賀守え御渡佐渡奉行へ可相達旨被仰聞候由にて巡達に付寫取返却におよぶ

一 水野藤右衛門四月十五日御暇に而同廿八日出立の積申上置候之處組頭御役替にて御用向も有之惣身腫物出來七八日も藥用仕度廿八日出立延引仕度旨水野出羽守殿え同席を以伺書進達の處伺の通被仰渡

一 元相川貳町目定助先年不届の筋有之越後出雲崎を構ひ佐州一國拂申付處去ル亥年東照宮二百回御忌御法會に付赦免被仰付旨佐州え呼戻申渡

一 飯岡村字堀切河原新開を發

一 水野藤右衛門閏四月七日江戸表出立同十五日寺泊より赤泊湊へ渡海翌十六日佐州御役所え着高橋三平交代して同十八日相川出立翌十九日小木湊より出帆

一 小普請方改役小川勇八閏四月九日佐渡奉行支配組頭被仰付候旨同廿六日申來ル  
一 青盤間歩稼方治定不致に付かなこ取除手稼の積に成

一 文化年中金銀山衰微におよひ八年以前申年より御除金御渡方等申上出方連綿いたし候へ共敷々鏈引穿鑿場所并通行筋留山修復等當然假手當の場所も有之間敷々風貫其外水道筋年久敷手入届兼當時重に相

稼候鳥越中尾兩間歩風貫手狹にて繁々火灯兼水道筋も要用の場所に付御金藏御除金の内より貳千五百兩御渡方の儀水野出羽守殿え伺候處伺の通被仰渡

一 諸間歩出方先年景氣宜節も春夏の間は出方少き方に有之處當年は初春より引續出方宜青盤間歩鏈代一十ヲ日壹貫三百目鳥越間歩貳貫五百目中尾間歩壹貫六百目餘出來立清次雲子兩間歩出方打合候得は一十ヲ日分に而鏈代五貫九百七拾目出來立近年引續金銀山御仕入御手厚に相成候に付景氣取直追々御益も相進候様可被成乍去五ヶ間歩とも慶長より天和の頃迄開發に而穿下候に隨ひ出水操捨臨時御入用相掛候趣水野出羽守殿え書面を以申上ル

一 牛込村寡女はな艱難の中にて老母え孝心に仕ふる趣に付御役所え呼出鳥目を遣す

一 上相川大山祇社脇澤下岡山より新切山一ヶ所取建ル右入用は市中より出す

一 江戸詰役人奥田勘左衛門浮腫相煩江戸表にて病死いたす

一 六月十四日水野藤右衛門二見浦目付所大筒臺場見廻に罷越す

一 去寅年分山出金貳千貳百六拾八兩壹分灰吹銀百四拾貫百三拾目御傳馬宿入用金貳拾八兩壹分銀拾四匁三毛山方役人内江清兵衛御藏方役人前田重郎兵衛宰領して六月十八日相川出立出方御入用差引金八百

五拾九兩永貳百貳拾九文六分御損に成内江清兵衛田中從太郎江戸詰にて御勘定仕上ル

一 同年分山出銅千九百九拾九貫四百目此金積三百兩永百四拾九文九分

一 地役人奥田稻次郎父勘左衛門爲御用江戸表え罷出病死に付銀三枚爲御手當被下候旨阿部備中守殿御書付を以被仰渡



- 一 金銀山爲御仕入伺の上金貳千五百兩御渡に付青盤鳥越中尾三ヶ間歩間切々山七月初十日より始ル
- 一 水野藤右衛門西三川砂金山爲見廻七月二日相川羽田濱より乗船にて相越同四日歸着
- 一 御男子様御誕生表向被仰出無之松平直七郎殿と奉稱候之旨御奉書七月八日到來
- 一 六月初旬より照續七月中旬に至繁々雨天有之同十八日曉より四時頃迄大雨に而相川邊山水夥敷押出防之手段に及び兼下戸番所傾き門土塀等流失大吹所水車川通石垣掛樋金銀粉成所用水路山崩川々往還板橋小橋とも二十ヶ所流失牢屋敷石垣欠崩れ川添町々の内所々溢にて往來筋え土砂を押し出別而南澤筋水嵩夥敷流末塞り門前町筋え洪水押出潰家破損家數十軒に及び往來筋土砂にて埋り人家出入成兼羽田町邊湛水にて往來差支下戸町邊人家え水押込家財を損し土藏を破り稀成變事にて御役所より一本夫金夫食等を施し遣す須灰谷下戸御米藏後通山崩にて破損海府番所橋流失三郡村々の内も田畑山崩川欠砂入出來追々注進申出候分九十六ヶ村に及び取わけ相川近郷破損地多く百姓家も流失におよひ候趣に付追々見分出役遣す相川御修復場并門前町筋通行差支候に付早速仕越御普請取掛候趣江戸表え申上ル
- 一 役人の内水難火災等に逢候者は日數十日宛出勤見合の積り極る
- 一 組頭小川勇八六月廿九日江戸表出立信州路通り越後出雲崎え出津七月廿八日小木湊え渡海翌日新町ニ止宿八月朔日相川え參着
- 一 下戸番所水損の處是迄敷地手狭に付近邊人家引移し地面手廣に取建ル
- 一 當卯年分諸間歩鏈代銀貳百六貫目を目當に作立候積り兼て山方役申立候處八月初旬迄九拾貫目程ならては出來立不申候間爲勵山方役番所役鏈代手當ならひに銀山減物山別にて割賦の積り極る

一 小判壹歩判元文の度吹替の儘にて年久敷相成輕目金も多く有之に付此度吹直被仰出疵金等無之ため厚めに吹立被仰付候間世上無滯通用可致旨御觸有之

- 一 組頭横山七左衛門去寅年五月以來十五ヶ月壹人勤に付御褒美銀拾枚被下十月十一日佐州におゐて申渡 但常躰の節は銀七枚宛被下來し也
- 一 佐州山出灰吹銀出方御入用差引に相用ひ候金直凡例元文三千年佐州元印銀江戸表にて吹様被仰付百目に付正味銀三拾六匁餘有之文字銀に吹立候へは七拾目餘に而此金參兩壹分永貳百四拾五文に成代り候積りを以金銀山出方御入用掛引仕來候處當時専ら南錄銀に通用いたし文字銀とは位も違ひ可申候に付佐州灰吹銀南錄銀に吹立候積を以出方差引に相用ひ候へは是迄御損に相成候場所も御益に成敷内薄鏈海川石砂の内よりも金銀取揚出方も相増候儀に付御勘定奉行え及評議候處佐州灰吹銀は是迄御細工方御用并金の差銀等御渡方に相成候得共貳朱判割合を以凡例に相用ひ候儀は伺濟の上候は、成代割合可申聞旨相答候間金直凡例相改度旨水野出羽守殿え相伺候處伺の通被仰渡
- 一 小判壹歩判吹直方被仰出候ては佐州山出金元文度の通引替御用相濟候迄延金に而江戸表え相廻候様には相成間敷哉左も難相成候は、引替御用相濟候迄佐州に積置可申哉の旨御勘定奉行より掛合有之候處右納金取扱振合替候ては金銀山稼目當くるひ候に付引替御用相濟候迄於佐州貳歩判吹立右納には相成間敷哉の旨及問合候之處御勘定奉行より水野出羽守殿え伺の上佐州において貳歩判吹立の儀は難被及御沙汰山出金の分は佐州に積置候様被仰渡候趣達有之
- 一 近年米直段下直候處諸色直段は高直に付此以後は米直段に准し可成丈諸色直段引下可申最直段引下



候而も品柄劣らせ候様にては無詮事に付諸事正路に賣買致候様仕入元を始問屋仲買等夫々商賣方の者共へ申付其上にも猶直段不引下候は、其筋の僉儀をとけ急度曲事に可被仰付旨御觸有之右に付而は佐州の儀も町々賣買直段は勿論仕入元并問屋仲買等えも得と申付可成丈直段引下ヶ候積り取計候様御勘定奉行よりも相達可申旨水野出羽守殿被仰渡候間可然取計候様達有之

一 諸色引下ヶに付廣間役始掛り役人を始商人共を呼出し仲間合猥に無之様定ル

一 鳥越間歩出鏈山元一手粉成同様申渡

一 村々檢見檢地有之組頭横山七左衛門在方掛廣間役益田丹右衛門地方掛頭取地方掛等八月廿三日出立九月朔日歸着

一 鳥越間歩出鏈銅氣強吹解兼候趣を以本途大荷吹床壹挺南蠻絞り床壹挺取立ル

一 九月廿四日西風吹募り海上高波に而攝津國大坂竹屋多郎兵衛船拾四人乗四日町村沖合に而及破船乗組の内四人游き揚拾人溺死に及ふ

一 諸間歩出鏈一手粉成申渡大吹所にて吹立筋氣多の分は本途床屋にて吹立候様申渡

一 近年打續米價下直に付御藏米取の面々別而可爲難儀と思召候に付格別の譯を以當冬御切米御役料共御金渡の分百俵に付張紙直段に金五兩宛増の積を以可相渡間可得其意旨御書付出るに付寫相達候旨御勘定奉行印狀到來

一 此度吹直被仰付候小判壹歩判若似せを拵兩替等いたし候もの有之節のため遠國奉行所御預り所等え新金渡置兩替取引いたし候ものへ渡置候様水野出羽守殿被仰渡候間吹直小判四枚壹歩判四枚差越候間替

金取立可遣旨御勘定奉行より達有之候に付則吹直金は掛屋兩替屋等へ相渡替金五兩御勘定奉行え返却

一 先達而於西丸御男子様御誕生被爲在候得共思召有之表向御弘不被遊候處近々御弘可被仰出御名の儀は嘉千代様と被進御簾中様被遊御養候趣九月十五日於江戸表被仰出先達て御名被進候通り嘉千代様と可奉稱旨十月朔日江戸表において被仰出候之旨同十一日御奉書到來

一 廣間役飯田清七郎江戸表え罷出候様申渡妻子等も召連佐州引拂可申旨水野出羽守殿御書付を以被仰渡候に付十一月十四日於佐州申渡候處同廿四日相川出立

一 來辰正月より諸間歩大工千七拾人鏈代五貫貳拾目の積り

一 諸間歩出方初春以來引續景氣宜一十ヲ日鏈代五六貫目程宛の出方連綿いたし十一月に至り青盤間歩壹貫七百目鳥越間歩五貫貳百目中尾間歩壹貫七百目清次間歩八百目雲子間歩壹貫七百目餘都合鏈代拾貫目以上の出方に相成候趣水野出羽守殿え申上ル

一 兼而被仰渡候佐州御備の儀來辰年溝口伯耆守順番に付心得罷在候旨家來寺田吉次郎届出高橋三平屋敷へ出ス

一 去寅年大坂銅座え相廻候去ル子年分山出銅代金四百三拾九兩壹分銀貳匁五分壹厘三毛卯五月十八日蓮池御金藏え上納

文政三 庚辰年

一 去年分御年貢米壹萬三千九百八拾三石大坂御廻米に成



- 一 相川壹町目濱町源次郎四町目濱町吉助親ともえ孝行の趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す
- 一 江戸より佐州え差下の無宿越後出雲崎逗留中あはれ騒候に付指籠入にいたし置度旨御代官佐藤忠右衛門より御勘定奉行え申立の趣掛合に付存寄も無之旨水野藤右衛門高橋三平より御勘定奉行え及挨拶
- 一 佐州灰吹銀南鐐銀に吹立候積を以凡例に相用候様伺濟に付割合の儀御勘定奉行え及掛合候處佐州灰吹銀百目に付上銀九拾八匁六分三厘六毛と成此吹立貳朱判四兩貳分永貳拾文八分三厘三毛の内壹分貳朱永百五文五分五厘壹毛は吹方其外諸入用を引殘四兩永四拾文貳分八厘貳毛に相當候旨申來に付今年より右の割合を以出方御入用差引に用ル
- 一 去々寅年分山出荒銅八百三拾四貫目大坂より差戻に付子丑兩年分四百八拾貳貫目の分一同吹直來已年爲差戻候積り御勘定奉行え掛合
- 一 廣間役飯田清七郎正月十三日支配勘定被仰付候旨二月十七日申來ル
- 一 諸間歩出鏈正月より三月迄の分山別粉成いたし山吹銀壹貫目に付九拾五貫文を目當に御直同様引請試粉成に成
- 一 二月廿日夕方歌代村安照寺本堂天井より火燃出庫裏納屋共燒失におよひ候旨訴出ル
- 一 畑方畑本郷兩村紺屋共の内國産葉藍製法始ル
- 一 右大將様御疱瘡御様躰御輕恐悅の旨二月廿六日御奉書到來
- 一 御普請役河島才右衛門佐渡奉行支配與力格廣間役可申渡旨御勘定奉行え被仰渡候間可申談旨二月十五日水野出羽守殿御書付御渡の旨同廿六日佐州え申來

- 一 山出灰吹銀金直伺の上相改出方御入用仕立候節相用平常稼方は元文以來の金直を目當に掛引いたし候積り極る
- 一 右大將様御疱瘡御快然二月廿二日御酒湯被爲召候段同晦日御奉書到來
- 一 山出金佐州に積置候様被仰渡候處筋金の儘積置候ては金性分り兼候に付是迄の通小判所におゐて燒詰文字金の位に仕立後藤三右衛門役人共目利爲致目形四五百目程宛に吹合置佐州御金藏積置候積に付後藤三右衛門え申渡候様御勘定奉行え掛合候處則申渡候の旨申來ル
- 一 長崎表え立入候無宿共寛政年中の振合を以佐州金銀山水汲人夫として差越度旨間宮筑前守より掛合に付差支も無之旨及挨拶候處筒井和泉守間宮筑前守伺の上無宿貳拾人餘差越候積阿部備中守殿被仰渡候旨達有之
- 一 三月七日夜壹町目江戸澤鹽竈明神社燒失に及ふ
- 一 金銀山御普請御用出精相勤候に付組頭横山七左衛門え銀拾五枚廣間役貳人え銀五枚宛定役六人え金貳兩宛並役九人え金五百疋宛被下候旨水野出羽守殿御書付御渡に付三月十四日佐州におゐて申渡ス
- 一 山方より出し候和藥種は問屋に不限何方に而成共勝手次番賣買可致旨御觸有之
- 一 去卯年御年貢小物成諸運上金貳千九百五拾六兩銀八匁四分七厘壹毛錢貳萬六千貳百三拾貳貫七百拾三文今年三月中皆濟
- 一 三月八日高橋三平松前奉行被仰付三百俵に被成下越前守と受領同月廿七日御奉書到來
- 一 御納戸頭田澤政次郎正道三月十七日佐渡奉行被仰付候の旨同月廿七日御奉書到來



- 一 嘉千代様御不例の處三月十九日午ノ刻被遊御逝去候旨同廿七日御奉書到來普請五日鳴物十日停止を觸る
- 一 相川町々水損場所其外御普請御用出精相勤候に付組頭小川勇八え銀五枚廣間役千賀多兵衛え銀一枚定役五人え金三百疋つゝ並役四人え金貳百疋宛御褒美被下候の旨水野出羽守殿御書付御渡に付四月十五日佐州におゐて申渡す
- 一 金銀山仕掛大工初春より多分に仕掛夏中迄には御改高請取切に可相成様子に付銀山掛廣間役の内間歩々々掛り合を極る
- 一 廣間役河島才右衛門厄介とも四月廿七日卯ノ刻小木湊え着船新町村に止宿翌廿八日相川え着
- 一 一橋殿被叙從一位候旨四月廿一日被仰出候段同廿九日御奉書到來
- 一 田澤政次郎佐州御役所え發足の儀定例四月中旬頃江戸表出立の處御役被仰付日合も無之支度等行届不申候間少々猶豫いたし五月上旬出立の積り阿部備中守殿え申上ル
- 一 去年分諸間歩出鍵引受粉成にては不締の趣を以山方一手粉成に取扱度旨申立冬氣に至俄に景氣取直候趣申立増代銀いたし吹仕切に至り多分の吹不足相立御入用多御費に相成候始末に至り候趣を以金銀山え掛り候役人始山師下方の者夫々答申付
- 一 公事方役西川藤兵衛廣間役當分助申渡
- 一 田澤政次郎四月朔日御暇にて五月四日江戸表出立三國路通越後寺泊より五月十二日赤泊え渡海翌十三日相川御役所え到着水野藤右衛門交代して同十五日相川出立小木湊より出帆

- 一 諸間歩出鍵買石とも引請試粉成になる
- 一 金箔并下金類取締後藤三右衛門一手に申付候間金座の外にて賣買いたし間敷旨御觸有之
- 一 雲子間歩御直山の儀并せんさく御入用の儀相場違ひ増納錢御益の内五分通請取方外吹稼金銀御買上代本途大工貳萬五千人分請取方去ル子年相伺候處爲御試同年より當辰年迄五ヶ年の間伺の通被仰渡年限相立候に付引續是迄の通り被仰付右の内吹稼御買上代三段有之揚柄山出から山御買上代は以來請取不申拾ひ石鍵御買上代の儀は本途薄鍵御買上代と銘目御改替の儀水野出羽守殿え相伺候處來已より酉迄五ヶ年の間伺の通被仰渡ル
- 一 金北山權現堂雪消の節別當見廻り候處及大破候旨訴出候に付見分のもの遣候處相違無之に付仕越御普請の儀水野出羽守殿え申上ル
- 一 田澤政次郎村々巡村可致處麥作收納最中稻作手入等にて農業繁き時節に付當秋に至り頃合見計巡村の積り大久保加賀守殿え申上ル
- 一 御男子様御誕生表向被仰出は無之御名の儀は松平恒之亟殿と稱候旨六月二日御奉書到來
- 一 保之亟殿元服官位被仰出被稱徳川式部卿殿と候旨六月十五日御奉書到來
- 一 湊町仁吉老母え孝心に仕ふる趣相聞御役所え呼出し鳥目を遣す母ひま存生の内別段手當遣す
- 一 諸役人の内老年のもの五人泊番を免す
- 一 金銀の儀元文の度吹替の儘にて小判壹歩判は先達而吹直被仰付候處銀の儀も年を経折銀燒銀等多く有之候間此度吹直被仰付候旨御觸有之



- 一 廣間役井口吉左衛門病氣に付願の通御暇申渡候旨土井大炊頭殿へ申上ル右替り廣間役助堀口彌右衛門申渡候旨同人へ申上ル
- 一 廣間役當分助長島小右衛門廣間役助申渡
- 一 山方役番所役請取候鏈代御手當去年中より山別出方に應し割賦いたし減物同様取計候處以前の通鏈代御手當は平等に割合減物請取候儀は差止度旨申立に付右代として定式手當金相渡候事極ル
- 一 去卯年分山出金延金にて九貫六拾貳匁分佐州御金藏に積置小判に積り貳千五百七拾三兩永貳拾七文に成
- 一 灰吹銀百九拾四貫九百八拾目御傳馬宿入用金貳拾六兩貳步銀八匁四分七厘壹毛山方役人柴野平兵衛御藏方役人岩間半左衛門宰領にて七月三日相川出立出方御入用差引金百六兩三分永百三拾七文三分御損に成江戸詰役人柴野平兵衛藏田茂三兵衛御勘定仕上ル
- 一 銅貳千七百五拾五貫六百目此金積り四百三拾七兩貳分永貳百貳拾四文九分
- 一 田澤政次郎巡村として七月廿七日相川出立柴町濱より乗船にて外海府通り海岸相廻り國仲筋より西濱え掛り八月十一日歸着
- 一 當辰年三郡村々畑方銀納千三百拾七貫文七月四日皆濟
- 一 御勘定奉行より新銀手本到來に付御金藏え丁銀壹枚小玉銀一地方役所へも同様渡し置市中兩替屋仲間え丁銀貳枚小玉銀二相渡
- 一 窪田市野澤瀧平三ヶ村新田畑檢地有之組頭小川勇八出役可致處病氣に付横山七左衛門在方掛廣間役

地方掛頭取地方掛り出役

- 一 貞章院様逝去に付鳴物八月廿三日より三日停止普請は不苦旨江戸表におゐて御書付出候旨九月二日申來に付鳴物三日停止を觸ル
- 一 金丸村落合橋掛替有之畑本郷下組百姓新右衛門と云もの渡初
- 一 九月十六日於馬場諸役人砲術足並ヲ試る
- 一 九月十九日夜高波にて相川下戸邊破損有之磯邊にありし獵船數十艘沖合え引出し破船に及ぶ翌廿日曉雲子間歩建場焼失に及ぶ怪我人有之
- 一 此度吹直被仰付候銀の義尙七月廿日より引替始り有來銀の義も當分新銀取交通用いたし引替銀は丁銀小玉銀無差別取取引替の積り御觸有之
- 一 花火の義家込の場所は勿論海手川筋にても大造の花火流星等立申間敷處近來相圖の火同様の花火立候ものも有之由心得違に付前々相觸候通り堅無用の旨文化年中相觸候處近年又々相圖の火に類し候花火建候義も相聞如何の事に付向後左様の義有之におゐては及沙汰候品も可有之旨御觸有之
- 一 御金奉行の義元方拂方一圓被仰付諸向金銀納渡手形元方拂方の無差別御金奉行一同連名の積り納渡定日の義は毎月納日六日十四日廿六日渡日朔日十日十八日廿四日の積り是迄庭帳と唱へ納渡前日月番御金奉行宅に而翌日納渡取調候處已來御金藏におゐて取調候積り但し右定日前日々に相定候間佐州金銀上納方請取方も右の心得を以支配向えも申渡爲取計候様御勘定奉行より達有之
- 一 組頭小川勇八病氣全快可致躰無之若病死いたし候は、實子惣領勝助え跡式被下候様十月九日願書出



ス

- 一 十月十日曉小川勇八病死いたし候旨忤勝助申聞候段横山七左衛門届書出ス
- 一 當正月より六月迄の諸間歩出鑛十月中旬迄に吹仕切濟寄候に付七月以來の分は買石共引請粉成にて來四月初旬迄に吹仕切候積り
- 一 小川勝助家族十月廿四日相川引拂十一月廿三日小木湊より出帆の處出戻り十二月十四日渡海
- 一 御男子様御誕生表向被仰出無之御名松平民之助殿と稱候旨十月廿四日御奉書到來
- 一 銀山向御繰替高相嵩八萬貫文餘に相成候に付返納方取調に掛る
- 一 江戸水替共多人數申合十月晦日御役所へ駈込訴いたすに付山元え追返し夫々答申付ル
- 一 近年引續御儉約被仰出候處累年御入用相増其上御縁邊向打續難被捨置御普請等も打重り不容易事に付來已年より末年まで三ヶ年猶又御儉約被仰出候間諸役所御入用可成丈ヶ相減候様取計此上萬一非常御入用有之節御備御手當無之候而は不相濟義に候間行届候様出精可致旨水野出羽守殿御書付御渡有之
- 一 前同斷に付面々えも彌儉約相用猥に願ひヶ間敷義無之様可致旨御書付御渡有之
- 一 衣服諸道具家作并祝義事振舞其外節儉守り方の義に付享保天明兩度被仰出の趣彌無違失相用候様御書付御渡有之旨御目付森川金右衛門廻狀廻ル
- 一 十一月朔日東通海岸村々高波に而所々破損に及び夷湊番所役虫崎浦目付所役家打崩赤泊番所波除石垣等缺崩
- 一 諸間歩とも追々かなことも引請稼に成ル

一 金銀山御入用年々相嵩候に付返納方取調來春よりの稼方を改大工六千人程も相減候積りを以出方掛引廣間役評議の上極ル

- 一 諸間歩敷内遣ひ鑽古來の通り晝夜焼にいたし候様申渡其外銀山吹所向萬端復古いたし候積りを以夫々掛り役人等極るといへとも時勢におゐて難被行事多し
- 一 紅毛鉛直段長崎奉行え及問合候處落札直段高下有之三ヶ年平均百目に付百五拾八文程に相成越後鉛と差引高直の旨申來ル
- 一 佐州におゐて眞鍮四文錢鑄立の儀申立候者有之に付山出荒銅再絞の上鑄立候様相成可申哉の旨御勘定奉行え問合におよひ候處鑄錢の儀は容易に御沙汰有之筋にも無之山出荒銅直捌の儀は先年御書付にも振候事に付相伺候共可相濟事とも難申旨答有之
- 一 金銀山出方前年見合を以爲相稼候處大概去年同様の出方に相成尤去年は閏月有之右割合丈ヶは灰吹銀相劣り可申候得共當年筋金山出方宜に付燒金高は却而去年より相増候積り然る處近年米價下直別て當年直段引下ヶ金錢納方相劣り御繰合不宜候に付近年の振合を以金銀山相稼候而は御入用差支可申躰に付御稼方手を詰可申處左候而は山出金銀次番に相劣り近年折角御仕入の詮も無之様被成可申候間追而取調申上候積り水野出羽守殿え書面進達す
- 一 御作事下奉行大原吉左衛門十一月十七日佐渡奉行支配組頭小川勇八跡役被仰付候旨十二月八日申來
- 一 十一月中江戸詰役人旅宿湯島三組町類焼ニ及ぶ
- 一 諸間歩出鑛七月より末の分買石共引請粉成入用減方ヲ申立ル



一 去卯年大坂銅座え相廻候去ル丑年分山出荒銅代金四百九拾壹兩銀壹匁貳分貳厘辰六月十八日蓮池御金藏え上納

文政四 辛巳年

- 一 浦方交易手廣に可取計ため仕入錢融通等の儀を極ル
- 一 姫津浦目付所交易有之場所に付問屋に准候者三四人申付二月より九月迄地方掛壹人出役外囁湊同様商ひもの取引始ル
- 一 無名の張訴捨文は可燒捨事に付先年よりも觸置候之處近來無名の張訴多く或は虛名を取拵へ封目には古印等押候類も有之多分は私の勝手筋を以人に難儀を可相掛ため歟は異説等申立虛に可乗ための巧事に相聞奉行所の威光にも障り候に付無名無印の分は見當り次第其場において直様やきすて候事に極ル
- 一 相川下戸濱町定次後家ちへ七十以上の兩親え孝心に仕ふる趣相聞奇特に付御役所え呼出鳥目を遣す
- 一 他國旅人の内吳服物并古着類商人共不立入様去ル寅年申付置處當國日用の品も儘差支不辨利に付前々立入候商人共以前の通渡海爲致花美の品は差留候積申渡右の趣水野出羽守殿え申上ル
- 一 田安殿御息女銳姫舊臘十七日逝去の旨二月七日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸ル
- 一 御船手役辻吉兵衛惣領吉太夫病死に付孫將之助嫡孫承祖願の通被仰付候旨土井大炊頭殿被仰渡二月十七日佐州におゐて申渡
- 一 長江村百姓孫左衛門矢柄村嘉四郎六次郎稻鯨村太郎兵衛長江村季左衛門河原田諏訪町紋平娘さき親

ともへ孝行の趣相聞鷺崎村市右衛門下男重太郎主人え忠心の趣に付何れも御役所へ呼出鳥目を遣

- 一 相川市中米穀多き節は別御拂米買受相止候分一ヶ年貳三百石程浦々交易の方へ買受置候積り極る
- 一 二月頃より雲子間歩稼所少々宛見直大工壹人拾匁當にて仕掛ル
- 一 組頭大原吉左衛門二月廿六日江戸表出立信州通三月七日越後出雲崎え着同廿四日小木湊え渡海同廿七日相川へ着
- 一 二月中より三月えかけ風邪流行に而勤仕のもの無人に成銀山吹所仕事師等至て人數少にて代銀減少敷内水仕上ル御役所向其外え施藥致ス
- 一 大坂表諸家藏屋敷拂米の儀に付御觸有之
- 一 中山備前守領分常陸國多賀郡横川村の内大金田坪和光山と云所銀山の様子爲見分佐州山方役江戸詰のもの相頼度旨在府水野藤右衛門え申聞に付水野出羽守殿え相伺候處無用に可致旨被仰渡
- 一 青盤間歩臺通穿鑿場所去冬より様子宜敷追々出方渡になる
- 一 二月廿三日松平肥後守え元姫君様御引移即日御婚禮相濟候旨三月二日御奉書到來
- 一 當春分諸間歩出鏈様吹出來方青盤吹歩五割餘中尾拾三割八分九厘清次九割壹分貳厘雲子四割餘鳥越七割貳分五厘になる
- 一 去年分御年貢米一萬千三百拾石大坂御廻米に成
- 一 諸間歩鑽晝夜やきに而は不辨利に而御入用も相増候に付廣間役より申立晝夜燒差止ル時勢に寄古法も被行かたき事多く猥に仕來の法動し難し



- 一 阿佛房妙宣寺來午年江戸表におゐて宗祖正像其外開帳願出に付寺社奉行え添翰遣す
- 一 道中筋通行の節取締の義岩瀬伊豫守石川主水正より内談有之
- 一 御船手役辻吉兵衛跡嫡孫承祖將之助え被下候旨水野出羽守殿御書付御渡有之
- 一 金北山權現社え三寶院門跡より意願有之幕提灯寄付被致旨其筋役人添簡を以別當眞光寺願出に付寺社奉行え問合の上什物に致置候様申渡
- 一 四月十二日書院におゐて諸役人武術を試る
- 一 見立村字小濱と云所にて鹽焼を試る
- 一 陽七郎殿四月十日逝去の旨四月廿二日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸
- 一 上相川新切山を止甚五間歩源太郎間切え移す
- 一 水野藤右衛門四月朔日御暇に而同廿三日江戸表出立越後寺泊より五月二日赤泊え渡海翌三日相川御役所え着田澤政次郎交代して五月六日相川出立同八日小木湊より出帆
- 一 佐州米價下直に而御收納金錢相劣御金藏御縁合不宜候間近年山出金銀相増候成代として五ヶ年の間金五千兩宛江戸表より御下之儀水野出羽守殿え相伺候之處不被及御沙汰候間此上御收納に引當都而の御入用省略いたし若諸渡方差支候は御除金の内より繰替相渡候様被仰渡
- 一 六月十日江戸水替共多人數御役所えかけ込願に罷出候節嘉左衛門町元水替吉三宅外七軒え立入及狼籍候處吉三手附の水替共立向ひ争亂に及ふ趣に付山方役始メ追々駈付取鎮吟味の上張本人死罪其以下夫々御仕置申付ル

一 本途銅稼え秋田鉛相渡是迄の鉛直段より下直に付金銀代の内を減本途山吹銀壹貫目に付錢九拾六貫五百文に成

一 六月朔日より大雨降續山水夥敷押出村々田地多く損地有之旨追々注進申出相川町々銀山内往還道橋川々梓類押流石垣等所々缺崩候に付仕越御普請の積り水野出羽守殿え相伺候處可成丈定高の内を以遣合實に遣合難成候は別段御入用に相立候様被仰渡

一 灰吹銀潰銀等銀座の外賣買停止候處近年狼に相成櫛筈きせるたはこ入かな物等無益成翫の品迄銀を用ひ候段不埒に付相背もの有之は其品取上急度可申付旨御觸有之

一 新金銀追々出來に付古金銀所持のものは彌引替所え差出可申追々古金銀は通用停止可被仰付江戸京大坂え國々より相廻候諸商物代古金銀を以請取度旨相望候荷主も有之由畢竟遠國新金銀不引渡儀に付御代官領主地頭に而世話いたし一般に引渡候様御觸有之

一 去辰年分山出灰吹銀百七拾三貫貳百三拾壹匁此金直六千九百九拾九兩永拾八文九分御傳馬宿入用金貳拾貳兩三分銀拾三匁四厘六毛江戸詰役人山西八左衛門小崎六左衛門宰領して六月十四日相川出立出方御入用差引金四百六拾三兩壹分永六拾貳文九分御損に成山西八左衛門松永藤吉御勘定仕上ル

一 去辰年分山出燒金文字延金にいたし九貫九百三拾六匁佐州御金藏に積置此小判貳千八百貳拾壹兩永百貳拾五文壹分

一 同年分山出銅貳千四百貳拾貳貫貳百目此金積四百五拾三兩貳分永五拾八文

一 エゲレス船頭ハルと申ものユツトル壹本柱にて長サ八九間位の船をいふといふ小船にて北ノ方の地北亞墨利加及びカムシカハト邊といふを周回



いたし候由自然御國の地方え寄候儀も可有之哉の段咬咄吧表におゐて風聞有之趣頭役共より内々申越尤エゲレス國何レの地より仕出候と申儀は不申越旨かひたんやんこつくぶろむほふ申出候に付長崎通詞石橋助左衛門馬場爲八郎未永甚左衛門和解いたし候書面并添書共水野出羽守殿より在府田澤政次郎え御渡有之

一 八月十八日書院におゐて町同心とも捕手を試

一 諸秤手前にて衡並鍾緒等取替申間敷旨御觸有之

一 相川より十五里程北ノ方鷺崎村は北の出崎にて近年御備遠見番所取建有之に付右出崎内外海岸通り村々見廻として水野藤右衛門八月廿六日出立九月二日歸着其段大久保加賀守殿え書面進達

一 佐州御金藏御繰合の儀に付當六月伺書差上候處不被及御沙汰候間御入用省略いたし御繰合相復候様之仕法取調可相伺旨被仰渡候處佐州御入用は寛政年中悉ク省略いたし此上鳥越中尾青盤等水貫間切にても取立出水吐捨候は、御入用も可相減候得共定式御入用さへ差支候砌に付水貫等は難行届金銀山稼過半手を引候より外は致方無之左候而は御損分も相嵩候に付御年貢大坂御廻米の内八千石佐州において以前の通賣捌御金藏御元入にいたし尤佐州は冬春風波烈敷急に拂米取捌兼夫迄の内御手薄に付此度限金三千兩御差下の儀水野出羽守殿え御内慮相窺猶又御金藏有高并振替の儀に付田澤政次郎より別紙書面を以進達いたし其外金銀山稼方御損益の儀書取御勘定奉行え達置候處内間合等も有之夫々贈答の上御廻米の儀は是迄の通取計江戸御金藏より金三千兩御渡に付佐州御金藏え相納御繰合の元入に可致旨二月廿五日水野出羽守殿被仰渡

一 江戸水替の内伺之上平人申付候もの共去ル寅年より他國出差留置候處折角平人に成親族の對面も不相成儀に而は全ク改心の者迄も出精の詮無之に付伺之上他國出さし免す

一 元姫君様逝去の旨九月六日御奉書到來鳴物七日停止普請は不苦旨をふれる

一 佐州御入用御繰合六ヶ敷來午年御稼方差支可申躰に付伺置候趣御下知濟迄の内山方稼は三分通減大吹所水車等は七分通も減勝場床屋等も夫々減方相立來年差支に不相成様取計方廣間役え申含取調青盤外三ヶ間歩は大工壹分通り相減鏈代は是迄の通中尾は大工拾人相減鏈代百三拾目増銅稼は大工三拾七人減大吹所入用七分通減粉成吹方省略都合に而三百五拾兩餘當年中御藏出相減候積り

一 阿波國徳島藍玉商人源助預り金并所持の分共三百八兩餘小木湊問屋大坂屋六郎右衛門方におゐて九月十九日夜紛失いたし候趣同所番所え訴出一通り相糺候得共相分兼候趣申立に付相川御役所え呼出シ吟味中越後無宿要藏といふもの其頃小木湊に罷在右の金子盜取越後高田邊え持行買物いたし候風聞有之に付町同心兩人召捕に遣候處榊原遠江守手え召捕有之金子等も多分取集引渡有之に付十月廿七日佐州え到着吟味の上一件御仕置相伺

一 十月五日見立村出火有之社堂貳ヶ所百姓家九軒納屋小屋三拾軒船小屋八軒船貳艘類焼におよぶ

一 青盤間歩地水替入立方引請に極臺通取後れ水汲捨ル

一 御用に付道中往來の面々人馬割其外都而道中往來のもの宿々に對しかさつ成儀無之荷物貫目御定の通可相守旨御觸有之

一 眞鍮錢吹立先年被差止候處遠國の内に而はいまた拂底の所も有之趣に付猶又此度吹増被仰付候間國



々におゐても彌無差支可致通用旨御觸有之

- 一 御男子様御誕生松平松兼殿一本松菊と稱し候旨十一月九日御奉書到來
- 一 在町寺院共不律不如法の儀無之様觸出ス

一 近年江戸表より無宿とも人數少に差下有之水替人足差支候間大坂表に無宿もの有之候は、御廻米積船差向候便に相廻候様大坂町奉行え及掛合候處大坂表無宿もの多く江戸表同様水替人足に差越申度専ら取調罷在御城代え伺書差出候積りの處松平左京大夫殿在府に付直に伺書差出吳候様頼にて伺書江戸表え差越に付十一月十五日於御城松平左京大夫殿え田澤政次郎より差出長崎無宿佐州え差越候例書をも添ル

一 佐州銀山爲水替江戸表より引渡有之者の内十ヶ年未滿に而他國出申付候ものは前以元掛え掛合の上取計更に他國出難成程のものは最初より其段可相達旨評定所一座より掛合有之候處更に他國出難成もの引渡有之候而は佐州到着の節申渡置候掟にも背キ如何様の惡事仕出シ可申哉難計旨及挨拶候處向後他國出難成ものは水替に差越不申積り申來ル

- 一 諸役人え御拂米の内浦々掛りえ引渡候に付米屋共右を申立直段格別引上候而は小前のもの可及難儀に付其節は買置米より相當に拂遣候積極る
- 一 青盤間歩清吉敷模様宜相見候間増代銀いたし本途大工御改高の内千貳百人減の内より大工仕掛ル
- 一 御役所支關通行の規矩を定ル
- 一 鳥越間歩吉之取切山鏈引取出に付出方渡に成同所薄身切山様子宜銅稼にて増荷數造立ル
- 一 佐州御備當巳年柳原遠江守心得罷在候處來午年牧野備前守順番に付則相送候旨遠江守使者を以在府

田澤政次郎宅え書面出す

- 一 去辰年大坂銅座え相廻候去ル寅年分山出荒銅代金三百七拾四兩銀九匁五分六厘六毛巳四月十四日蓮池御金藏え上納

- 一 當巳年大坂銅座え相廻候去々卯年分山出荒銅代金六百六拾貳兩壹分銀六匁八分九厘六毛巳九月十四日蓮池御金藏え上納

文政五 壬午年

- 一 正月廿一日青盤間歩建物雪なたれにて押潰建場守のもの即死におよぶ
- 一 夷町市右衛門澤崎村名主吉三郎相川下戸炭屋濱町幸次郎大間町佐與助銘々孝心又は奇特の趣相聞御役所え呼出鳥目をあたへ褒賞に及ぶ
- 一 廣間役當分助西川藤兵衛廣間役助申渡
- 一 江戸表よりの御下金江戸詰山西八左衛門宰領に而十二月三日江戸出立の趣正月廿八日申來に付越後出雲崎におゐて請取出役御船手役差向ル
- 一 貸金銀賣掛等の出入訴出候節公事馴候ものを親類或は召仕と申成し差出又は相手方え得と懸合も不遂訴出其外貸金を愚昧貧窮の所え附込質物の積り證文取置又は小作の銘目に直候族も有之哉相聞不埒に付右牀の儀無之様御觸有之
- 一 閏正月五日鳥越間歩敷内冠通りより豎貳間横五間ほと石廣戸の内え落右の響キにて猶又豎六間横



四間程の石落重り五六尺以下の石夥敷落積り留棚拾間餘打破り水替樋場突埋近邊に居合候銅稼大工貳人留棚より落打庇にて氣絶いたし其餘水替人足金穿大工等は奥の方稼所に罷在其筋掛り役人三人敷下り稼所見廻罷在候に付幸ひ無難には有之といへとも通行筋塞り候處終日絶食に而夜に入落石暫く相止候透間を見計落重候石の間を涉逃れ出諸間歩より助合掛り役人附張假手當いたし同七日より稼入候處翌八日又々堅九尺横四間程の落石有之假手當の留棚不殘打折通路塞り候に付一圓御稼引取種々手當の上同十三日より御稼相立右の趣水野出羽守殿え御届并佐州役人勤方他向に類例無之危急存亡の場所へ立向ひ身命を抛相勤候趣等をも別紙申上且仕越御普請取掛御入用積り金五百四拾兩餘可相掛趣をも申上る

一 相對雇の人馬にても貫目改所にて相改都而宿繼荷物貫目に應人馬賃錢請取人數の多少不抱旨道中奉行より達有之

一 田澤政次郎閏正月下旬より於江戸表相煩旨申來る

一 佐州相川町々并銀山内其外雜太郡村々の内去巳六月大雨出水にて損所御普請御入用定式御改高は遣切に付別段御渡方の儀水野出羽守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 禁裡御水痘御酒湯被爲濟候旨御奉書到來

一 三月朔日就吉辰勅使院使大宮使准后使登營公方様從一位左大臣御轉任内府様御任槐の宣旨御項戴且又御臺様從二位御簾中様從三位勅許御作法無殘所相濟右大將様内府様と可奉稱旨三月十二日御奉書到來

一 去年分御年貢米壹萬三千六百拾三石大坂御廻米に成

一 三月七日水野藤右衛門八幡辰巳兩村御林并河原田御藏見廻り即日歸る

一 金銀山水替人夫追々相増候に付先例に任せ村々高掛り人足差出方の儀地方頭取出役の上相尋候處人足差出候而は難儀に付當午年より來ル子年迄七ヶ年出錢致度旨願出に付割合を定出錢致させ人足差出候儀は止る

一 諸間歩出錢買石共引續引受粉成の積金銀代減方をも申立ル

一 田澤政次郎病氣快方には候得ともいまた暁と無之に付御暇願延引の儀三月廿五日青山下野守殿に書面上る

一 江戸詰役人山西八左衛門砲術執心にて親代より田付四郎兵衛門弟に有之候處同人儀鎌倉において大筒町打被仰付罷越候に付佐州御備のため大筒遠飛の業傳達請候積を以彼地え差遣度旨青山下野守殿に相願候處海岸御備筋にも被成候儀に付願之通り被仰付以後の例には難相成旨被仰渡

一 借金銀出入奉行所に而裁許申付候員數より不足に差出間敷旨御觸有之

一 四月廿八日田澤政次郎二九御留守居被仰付跡御役同日御納戸頭泉本正助忠篤被仰付貳百俵高に被成下候之旨五月十二日御奉書到來

一 五月二日四日町濱において大筒町打爲致水野藤右衛門見分に相越

一 長崎奉行伺之上佐州金銀山水汲人夫に遣候無宿もの二十七人差添兩人四月六日彼地出帆の上五月廿一日澤根湊に着船に付翌廿二日請取相川銀山内小屋場え入る

一 井口茂十郎廣間役格にて山方役申渡忤吉之助取來御切米を以御抱替申渡

一 越後無宿要藏去巳五月晦日越後國高田梅川屋小兵衛方え忍入金錢反物類盜取賣拂酒食に遣捨又々同



年九月十七日夜小木町大坂屋六郎右衛門方え忍入旅人の金子三百八拾兩餘盜取右の内貳拾兩餘は酒食に遣捨候に付伺の上大久保加賀守殿御指圖に依て五月十八日死罪

- 一 上中興村百姓三右衛門農業出精上納物無油斷質朴の趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す
- 一 六月十三日松平直七郎殿尾張中納言殿御養子被仰出候旨同廿五日御奉書到來
- 一 地方掛頭取永井四郎兵衛廣間役當分助申渡す
- 一 近年の内日光山御宮御參詣可被遊旨被仰出候趣水野出羽守殿御書付到來
- 一 於西丸御男子様御誕生之處五月廿七日卯ノ下刻逝去普請鳴物御構無之旨申來る
- 一 佐州御金藏御有高御手薄に付先達而御下金も有之遠境の場所臨時御備方等御手薄相成候儀は不容易事に候間御繰合等相復候様之取計ひ勘辨可致旨水野出羽守殿より泉本正助え御書取御渡有之
- 一 泉本正助忠篤五月十五日御暇にて六月九日出立の積り候處御用向取調に而同十四日江戸表出立三國路通り越後寺泊え出津同月晦日赤泊湊に渡海七月朔日相川御役所え着
- 一 喜代姫君様酒井雅樂頭養子與四郎え御縁組被仰出候旨七月朔日御奉書到來
- 一 廣間役益田丹右衛門年來出精眼氣も不宜に付泊番在方掛差免山方役井口茂十郎廣間役助申渡同人悴井口新次郎新規御雇入山方役申渡
- 一 七月四日陣屋馬場におゐて諸役人砲術見分
- 一 水野藤右衛門交代相濟七月五日相川出立同九日小木湊より出帆
- 一 江戸水替并長崎水替六拾四人七月六日夜小屋場拔出逃去に付即刻人數差出村在中追々召捕候處杉野

浦村海邊迄逃去候もの之内拾四人渚に有之獵船貳艘引出乗逃いたし行衛不相知候に付阿部備中守殿え申上町奉行御勘定奉行長崎奉行等へも達

- 一 松平徳之佐殿事松原右近將監賀養子被仰付候旨七月十二日御奉書到來
- 一 七月十三日夜中尾間歩惣太郎敷地山崩れ込出方稼差支に付仕越御普請の積り水野出羽守殿え申上ル
- 一 組頭横山七左衛門參府の上御機嫌伺御目見願之通被仰付七月十四日相川出立同廿八日小木湊より出帆兼而は女とも召連信州路通行の積にて御關所手形請取候處小木湊風待中月切に成候に付奥州路え廻八月十三日着府
- 一 房川渡中田御關所當人改にて被通候様寶曆十辰年伊奈半左衛門申聞候に付以來當人改に而別段相達不申積り御勘定奉行え達ス
- 一 土井大炊頭殿七月七日卒去の旨同十七日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸ル
- 一 去已年分山出灰吹銀百九拾貳貫貳百六拾目御傳馬宿入用金貳拾五兩壹分銀八匁八分壹厘八毛江戸詰役人井上甚五郎渡部甚助率領に而八月三日さし立文字延金八貫三百三拾壹匁小判積り貳千三百六拾五兩壹分永百六拾七文壹分之分佐州御金藏に積置出方御入用差引金四百八拾六兩三分永四拾三文貳分御損に成江戸詰役人井上甚五郎桑山五左衛門御勘定仕上る
- 一 同年分山出銅千六百五拾八貫五百目此金積り三百拾五兩永百拾五文
- 一 泉本正助例年より佐州え到着相後れ田方蒞入等にて農事繁多の時節に付來春に至り巡村之積り江戸表え申上る



- 一 水油直段高直に付國に遣用之外餘分の油は大坂油問屋え相廻外賣致間敷旨御觸有之
- 一 上納銀宰領のもの荷物過貫自有之板橋宿に而改の上宰領召連候もの之儀に付御代官平岩右膳より申立候趣石川主水正より内掛合有之以來取締方極る
- 一 池田仙九郎御代官所羽州御年貢米千百九拾九石餘攝州大坂淡路屋次郎兵衛船え積入江戸御廻米に可相成分七月下旬鷺崎村沖合に而破船に及ふに付廣間役始出役遣吟味の上浦手形渡ス
- 一 佐州御金藏に積置候燒金江戸表え爲差登候様水野出羽守殿御書取御渡に付去ル卯辰巳三ヶ年分燒金貳拾七貫三百貳拾九匁貳分小判に積七千七百五拾九兩餘御藏方役人兩人宰領爲致八月廿三日相川差立ル
- 一 寛政年中より金銀山稼方省略の上御有餘金七萬三千兩餘追々江戸御藏移に相成候に付出方衰微及び寶曆八寅年より天明二寅年迄二十五ヶ年分山出金銀五拾八萬九百貳拾五兩餘と寛政六寅年より文政元寅年迄二十五ヶ年分出方拾七萬五千八百八拾九兩餘と差引四拾萬五千七百兩餘出方相減其上御藏御繰合差支候に付三千兩宛御足拂として三ヶ年の間佐州御金藏御元入被成下是迄繰替拂貳千九百兩餘の分は出方御入用差引御益之分を以年々割合相戻り候様仕度旨水野出羽守殿え御内慮伺候處當年も先金三千兩御渡に付去巳年の振合を以取計來未年より御繰合方は猶勘辨いたし可成丈ヶ御元入に不及様取計是迄假渡に相成候分金貳千九百兩餘御益金を以戻り入候儀は無用にいたし一時に戻方難出來候は、此上諸入用等の内省略いたし右を以割合戻入候積り取調相伺候様被仰渡
- 一 前貸所元錢以前之通り壹萬貫文の高に引直度旨水野出羽守殿え御内慮伺候處是迄振替拂七千貫文餘は寛政度の振合を以一旦前貸所元錢え加當午年分年限を以返納方取極候様被仰渡候に付得と取調追而相

伺候積り猶又申上る

- 一 地役人伊澤佐兵衛山西八左衛門親代より砲術出精に付田付四郎兵衛より佐州砲術稽古取立方免許の趣掛合に付阿部備中守殿え申上是迄の役儀に而佐州鐵砲方兼帶申渡
- 一 七月六日夜逃去候水替無宿とも役人出役の上追々召捕發頭人貳人死罪に行殘の者共夫々仕置申付る
- 一 八月廿二日野浦村囁掛の廻船破船に及ふ溺死人有之
- 一 泉本正助國仲筋より夷湊邊見廻に付八月廿六日相川出立同廿八日歸着
- 一 中尾間歩一十ヲ日の代銀貳貫目以上に相成候に付酒肴を遣し大吹所御益金も多く有之に付褒美におよぶ

- 一 金銀粉成吹方取扱掛廣間役を極る
- 一 無宿共在中え逃去候節小比え村蓮花峰寺領内取締方行届趣に付褒置
- 一 地役人岩間半左衛門祖父舊功の由緒を以身分格式を直す
- 一 地役人田中從太郎書院におゐて論語講釋を始る奉行始組頭廣間役以下聽聞す是より外役人の内經義志のもの追々出るなり
- 一 九月十六日書院におゐて諸役人町同心等武術試る
- 一 御男子様御誕生松平富八郎殿と被稱候之旨九月十二日御奉書到來
- 一 松平和泉守殿連判之列被仰付内藤紀伊守殿所司代被仰付候旨九月十九日御奉書到來
- 一 鳥越間歩吉之亟敷薄身袋取明る



- 一 本途買石共仕切境殘し置候粉成物を以出來銀八貫目餘吹立る
- 一 江戸水替とも小屋内取締方規定書付渡ス
- 一 泉本正助西三川金山並國仲筋見廻に付九月廿七日相川出立同廿九日歸着
- 一 中尾間歩再興の儀市中のものとも願出此節出方も相進候に付酒肴を遣す
- 一 相川市中米價高直に而も御藏元書直段は下直に書出し内々高直に賣出小民の難儀に及び御收納方も減少に付別段買入米の主法を始米價高き時は下直に而賣渡且は貧賤のもの救ひ米にも備る
- 一 十月十二日青盤間歩前川通におゐて新製の龍越樋試方見分として泉本正助登山銀山掛廣間役以下相詰ル
- 一 乗逃無宿壹人松平加賀守御預所の内え漂着いたし候之旨家來の書狀足輕を以組頭大原吉左衛門宛差越に付便船次第佐州え可差送旨及返答其後右無宿牢死いたし候段猶又申越す
- 一 相川壹町目濱町志ゆん貳町目定八郎坂下町わさ下戸町彌市南澤町銀次與助貳町目濱町直吉小六町はや南澤町熊太郎大床屋町惣右衛門米屋町榮次郎諏訪町梅次郎味噌屋町鐵次郎下戸濱町權之助南澤町彌次兵衛次助町巳之助羽田町久三郎父母祖父祖母等え孝心に仕ふる趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す
- 一 買上穀を以相川市中貧賤の者百九拾貳人え救米を遣す
- 一 正明寺村におゐて荏桐苗多く蒔付させ追而銀山御入用油に絞り候積り
- 一 諸間歩出鏈追々相進候に付酒肴を遣す
- 一 御下金三千兩十月十日江戸御金藏より受取燒金宰領出府のもの兩人御下金宰領同十二日江戸出立十

二月十八日相川御役所え到着御藏納に成宰領の者江戸表において御手當銀三枚宛被下

- 一 金銀吹分所加泊始る
- 一 青盤間歩敷内急破有之
- 一 十一月廿七日組頭横山七左衛門御裏御門切手番之頭被仰付右跡元松前奉行支配吟味役並森覺藏被仰付候旨十二月十七日申來ル
- 一 大坂表并大坂町奉行支配國內に而輕罪のものとも其品合に寄佐州金銀山水替人足に遣度旨大坂町奉行伺之通被仰付候間猶大坂町奉行より追々掛合等も可有之旨御城代松平右京大夫殿より在府水野藤右衛門え書取御渡有之
- 一 佐州在町より雇入候地水替共飯米に差支候に付賃錢の内五分通米渡に相成候は、自然と人數も集賃錢減方も可有之候間青盤鳥越中尾三ヶ間歩とも米錢取交來未年より五ヶ年の間御試之積り水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡
- 一 青盤甚五兩間歩え地水替一手に入立中尾え江戸水替入立候積り極る
- 一 十二月中十日中尾におゐて千荷以上の鏈作立候に付舊例に任せ酒肴を遣す
- 一 當午年分大坂銅座え相廻候去々辰年分山出荒銅代金四百拾六兩三分銀三匁五分壹厘午九月廿六日蓮池御金藏え上納

文政六 癸未年



一 正月二日青山下野守殿御證文を以差立候呈書同十二日渡海之節高波に而越後出雲崎囁口において及破船乗組の内溺死人も有之御證文は出雲崎にて取揚先例の通切解干立候上繼送候旨出雲崎所役人より江戸表え申立候旨在府水野藤右衛門より大久保加賀守殿に申上ル

一 青盤間歩敷内中冠留山東西三拾間餘去十二日中俄に破損柄山押出夫より貳拾丈程下は稼所に而多人數立込逸散に落込候而は人命にも拘り候に付早速手當いたし水道龜助尻も破損におよび至而危く相成水路塞り候而は御稼差支候に付仕越御普請御入用金七百六拾五兩餘を目當に取掛り候之趣水野出羽守殿え伺候處伺之通被仰渡

一 北狄村百姓與次右衛門小前のものを勞り品々奇特成取計も有之に付御役所え呼出金子を遣す澤根町中使五兵衛人馬繼送方無油斷骨折候に付鳥目を遣す

一 民之助殿御事千三郎殿と被成御改候段正月廿三日御奉書到來

一 鳥越間歩御普請御用相勤候に付組頭大原吉左衛門え銀五枚廣間役堀口彌右衛門え同貳枚定役貳人え金三百疋宛並役五人え同貳百疋宛御褒美被下候旨阿部備中守殿御書付御渡に付正月廿五日佐州におゐて申渡す

一 二月十七日泉本正助下戸村御林より屏風澤百枚銀山見廻る

一 五十里外五ヶ村檢地有之組頭大原吉左衛門廣間役地方掛等二月廿五日相川出立翌廿六日歸着

一 金銀山出鏈粉成場所是迄八軒有之候處去年分出鏈格別相増粉成方手張り當秋頃迄も可相掛様子に付以前之通り粉成場十二軒可取立處先ッ貳軒相増出鏈入置候場所も手狭に付引移取廣候積り仕越御普請

も何れ仕來り相止不申様仕度旨水野出羽守殿え相伺候處追而御沙汰有之候迄は佐州御藏に積置候様被仰渡

一 金銀山敷内灯油前々より在桐油用ひ來候處寛政六寅年大林與兵衛在勤の節より魚油用ひ來臭氣に堪かね晝夜働のもの及難義殊に魚油拂底にて他國より買入候節獸の油迄取交來金銀鏈有之敷内不祥の至りに付以前の通在桐油相用ひ候積りを以爲試候處魚油壹升の所え在桐油八合に而相濟請負方相改却而御入用も相減第一は年來の惡弊を除人命をも補ひ候事に付以來在桐油相用候積り水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡

一 佐州御作事方御入用御改高に而は不足の分諸職人取立錢より融通仕來候處取立錢は一圓御藏納にいたし不足の分別段受取方の儀水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡

一 佐州金銀山往古より時々興廢有之候得共人力により多分の出方も有之候處文化年中衰廢窮候に付追々御仕入之上近年模様宜敷別而去年出方多く二十八年來の初而の御益に相成御仕入方に寄人力を盡し候はゞ次第に盛山にも相成可申處日夜穿下り候に隨ひ水汲人夫御入用多相掛御差引にも響き候様罷成候間出水繰上方辨利の器物製法をも申シ相試候處人夫を省キ御入用も相減候へ共往々水貫無之候ては何れ年々御入用相増候筋に付相糺候處青盤鳥越兩間歩共水貫の目當は有之候へ共急卒の取調に至り兼差當中屋間歩字前立合の内に古來の水吐間切有之土砂にて埋り候へ共六十間餘は明キ所も有之此順より當時の稼所え中石七拾五丈餘切貫候はゞ惣數の水一時に引落可申趣に有之一旦御入用は相掛候へ共永久取續の儀に付水貫間切被仰付候様水野出羽守殿え相伺候處佐州の取計を以追々繰合御普請等出來候様今一應勘



辨可申上旨被仰渡

一 江戸水替共十ヶ年未滿に而他國出申渡候節元掛りえ一應掛合之上取計候様去々已年評定所一座より達有之候處一跡金銀山水替前々より自國之者雇入來候處安永六酉年江戸表に近來無宿者多ク候に付無罪の無宿は佐州金銀山人足に可被遣趣追々御沙汰も有之候へ共元來惡黨もの共に付取扱方もおよび兼國風をも損候儀に付頻而差支の譯申立候處先つ追而之儀は格別爲試可被遣趣にて心底直候者は相返候様被仰渡是迄因循致來候處近來犯罪のもの多く其上病身もの引渡有之小屋内扶助の御入用も相増候に付健成ものえ申合敷内艱難の業爲致夫丈褒貶無之候而は取扱方も届兼候間十ヶ年未滿にても無怠慢出精の者は平人申付候積り評定所一座え掛合の上差支も無之旨挨拶に付十ヶ年未滿の者は十人平人伺候處伺之通被仰渡

一 青盤間歩敷内急破御普請正月初旬より取掛り嶮難危急の場所無滯出來立目論見外の水揚樋共丈夫に出來の旨水野出羽守殿え書面進呈以上進達の書面は泉本正助交代前於佐州取調歸參の上追々進呈

一 廣間役の内銀山間歩々々持切掛り勝場掛りを極ル

一 安永五申年日光御社參御留主中勤方書付諸向より差出候様可相達旨松平和泉守殿堀田攝津守殿被仰渡候旨大目付御目付より達に付高尾孫兵衛依田十郎兵衛伺濟之通書面寫朝比奈河内守金森甚四郎柴田三左衛門え達ス

一 組頭添田一郎次八月廿九日越後出雲崎より小木湊え渡海九月朔日新町に止宿翌二日相川え到着

一 江戸大坂長崎より追々來候無宿共の内七月三日夜八月十四日夜兩度に中尾間歩敷内より逃去候に付

其度々尋方人數差出召捕候處七月三日夜逃去候内拾三人八月十四日夜逃去候内拾九人今以行衛不相知旨町奉行はしめ掛り々々え申達其段申上置

一 江戸水替科有之者中尾間歩敷内え追込置候處差籠入にいたす

一 江戸水替共逃去其度々海邊を心掛乘逃致ものも有之浦方船具取片付方等不締に付捕方手配り合圖等極置候様浦方へふれる

一 山之神御靈屋御修復有之

一 青盤間歩敷内急破其後御普請御用相勤候に付組頭大原吉左衛門え銀七枚廣間役當分助永井四郎兵衛え銀三枚定役貳人金壹兩宛並役六人金三百疋宛御褒美被下候旨水野出羽守殿御書付を以被仰渡候に付九月廿七日佐州におゐて申渡

一 十月七日書院において諸役人武術を試

一 近年引續御儉約被仰出候へ共累年御入用も相増御縁邊向御普請御修復等にて御用途折重候に付去々已年より當末年迄嚴數御省略有之候處未御勝手向不被行届候に付來申年より子年まで五ヶ年の間猶又御儉約被仰出候間諸事去ル辰年御書付之通可相心得旨水野出羽守殿御書付御渡有之

一 阿部備中守殿病氣に付願之通御役御免雁之間席被仰付候旨十月廿日御奉書到來

一 紙漉方心得候町人有之漉方始ル

一 湊町寡女すわ元主家え忠心を盡す趣相聞御役所え呼出鳥目を遣す

一 水替無宿共三拾八人御役所えかけ込願いたし候に付山元え引渡主役吟味中狼藉に及び候に付六拾五



人召捕牢内え遣し夫々仕置申付る

- 一 鴻上村の内に温泉有之爲試來年に至り湯治場取建候積り
- 一 徳川式部卿殿え御領知拾萬石被進候段十一月十六日御奉書到來
- 一 西三川金山の内字虎丸立殘山取明御普請有之
- 一 清次間歩數内釜ノ口繕ひ替有之
- 一 諸間歩出方追々相進候に付酒肴を遣す
- 一 金銀山出鏈粉成場所當時十軒有之候處粉成方手張追々月數相延候而は跡々差支にも相成候に付新勝場壹軒取建候積りを以仕越御普請取掛りの儀水野出羽守殿え相伺候處伺の通被仰渡
- 一 西丸御書院番松平外記相番を及及傷候始末被遂吟味の處相番とも常々嘲弄ケ間敷仕方も有之差迫致亂心様子相聞變事の期に至り候而は立向ひ候もの無之不覺悟の事前々被仰出候趣等閑に相成古番のもの權高に而我意を立如何の次第に付向後御番方は不及申何れの向に而も非常の事有之時勤方相互に致和熟御奉公筋專一に心掛候様松平和泉守殿御書付大目付より達有之
- 一 松平右京大夫殿連判之列被仰付候旨十二月廿八日御奉書到來

文政七 甲 申年

- 一 鹿伏村の内に藥園を取建追々藥草を植る
- 一 町醫師内田玄仙後家ちよ夫死後舅姑え能く仕へ貞節を守り上横山村名主助右衛門下新穂村權三郎兩

の儀水野出羽守殿え申上る

- 一 銅銀勝場床屋とも天明五巳年より一町目濱町に有之處五年以前より北澤水車場地續に勝場取立吹所は大吹所最寄え引移し勝場床屋懸隔引離れ不辨利に而銀銅取揚方にも障り候に付巳前の通り一町目濱町え引移候段水野出羽守殿え申上る
- 一 泉本正助巡村に付三月七日相川出立外海府より海岸通り國仲筋相廻り西濱通より同十六日歸着
- 一 通商方元金取替一ヶ年分凡千兩程に極る
- 一 去年分御年貢米の内壹萬三千六百石大坂御廻米に成
- 一 京都東本願寺門跡越後三條え下向之趣に付右宗門の内參詣願出ルものは高外出判ヲ渡す追而本願寺より使僧を以謝禮申越す
- 一 水野藤右衛門三月十八日堺奉行被仰付候旨三月廿五日御奉書到來遠江守に任せらる
- 一 御男子様御誕生松平紀五郎殿と被稱候旨三月廿五日御奉書到來
- 一 三月廿四日御先手勝桓兵衛正朝佐渡奉行被仰付候之旨四月六日御奉書到來
- 一 山之神御宮御修復皆出來四月十三日正遷座御鳥居も建直し有之
- 一 組頭森覺藏三月中旬江戸出立の趣に付御船手役壹人目付役一人越後出雲崎迄迎ひとして差遣候處出立延引之趣承り歸り來ル 但御船手役若年に付目付役一人差添しなり
- 一 六年巳前寅年より小判所燒金夜燒にいたし來る處不取締に付古法之通り極朝燒入其日中に取上ケ候事に極る



- 一 勝桓兵衛御役被仰付日合無之に付五月下旬出立の積り水野出羽守殿え申上る
- 一 四月三日准后薨去に付同十三日より十五日迄江戸表におゐて鳴物停止普請は不苦旨御觸有之旨同廿五日御奉書到來に付同日より鳴物三日停止を觸る
- 一 溶姫君様松平加賀守え御縁組被仰出候旨四月廿五日御奉書到來
- 一 來々酉年四月日光山御宮御參詣可被遊旨被仰出候段四月廿五日御奉書到來
- 一 組頭森覺藏四月廿一日御代官被仰付安房上總御備場御用に依て布衣被仰付本高百俵に被成下勤候内百五拾俵高に御足高御役料三百俵被下候旨水野出羽守殿被仰渡候趣五月二日申來
- 一 水替御入用省方主法を調廣間役三人取扱を極る
- 一 相川羽田濱に倉庫取立役所を構へ米價常平之法を行ひ通商の術を弘るに付組頭を始在方掛り廣間役三人地方頭取貳人取扱を極る此倉の名を廣惠倉といふ
- 一 是まで相川市中商法猥りに而他國商人に利潤を被奪る趣に付相川町人の内身元生質慥成もの五人相撰通商物價の法を定る
- 一 勝桓兵衛正朝四月十五日御暇に而同廿四日江戸表出立三國路通り越後寺泊え出津六月三日赤泊湊え渡海翌四日相川御役所え着泉本正助交代して六月七日相川出立同十一日小木湊より出帆歸府道中筋川支に而日數相掛り延着之段同廿九日歸參之上松平和泉守殿え申上る
- 一 六月二日留役御勘定添田一郎次佐渡奉行支配組頭被仰付候旨同十五日申來る
- 一 六月十六日見立村百姓家拾六軒焼失す

- 一 六月十七日大坂無宿到着
- 一 雲子間歩敷内道中筋字中瀬六月十九日夜急破有之
- 一 勝桓兵衛爲巡村六月十九日相川出立外海府通り鷺崎村迄通行の節風烈に而御船廻着無之鷺崎村に臨時一日逗留夫より海岸國仲等相廻り西濱通りより七月四日歸着
- 一 和姫君様松平大膳大夫嫡孫保三郎え末姫君様松原安藝守嫡子勝吉え御縁組被仰出候旨七月四日勝桓兵衛巡村先え御奉書到來澤根町より呈書差立ル
- 一 七月三日夜中尾間歩敷内差組水替無宿共貳拾人申合役目の者を縛り置在中え逃去り乗逃いたす
- 一 青盤間歩源兵衛廊下の内急破有之
- 一 去年年分山出灰吹銀貳百六拾貫八百三拾壹匁御傳馬宿入用金三拾三兩壹分銀拾匁三分八厘三毛江戸詰役人原田次郎右衛門淺見彌吉宰領して七月十四日相川差立る山出金文字燒金拾壹貫六百五拾貳匁五分此小判積り三千三百八兩壹分永貳百三拾九文五分之分佐州御金藏に積置出方御入用差引千三百拾貳兩貳分永九拾七文三分御益になる
- 一 同年分山出銅貳千三百七拾六貫九百目此金積四百七拾五兩壹步永百三拾文
- 一 相川表御藏元書御拂米直段格別下直に而諸物の價に見合不釣合に有之右元書に而諸石代金納も相定候事故下直に而は御收納も相減候に付越後邊相場をも相糺候上御藏出米の節之相場見計買置不相當之儀無之様取計候處去々已年御拂米代諸石代納金壹萬九拾貳兩餘と差引四千七拾兩餘御藏納相増候間以來右之趣を以市中米直段高直之節は安直段を以右買置米拂ひ遣し又は小村等え爲替の主法等も取計有餘を以



孤獨の窮民救ひ方奇特のもの褒美等手當方に引當高を成し候得は非常凶災にも備候積りを以相川濱倉廩を取建正實に爲取扱且相川市中已前は身元宜敷廻船持共も相應に有之他國通商も差支無之候處山方不盛に隨ひ及困窮候故他國商人立入利を貪候様相成候に付去ル寅年より他國商人差留候處自國の奸商虛に乘し買等の害も生し當用の品も不自由に付又々巳年より他國商人爲立入其度々無據事共に付先爲立入自國の内通商専ら取行候積りを以相川町人共の内舊家にて身元慥成もの五人相撰浦々々他國商船到着の節無用の玩物等相除キ有用の品買入方爲取扱自國の産物を以重に交易爲致候積り水野出羽守殿え書面を達一 前々より御收納の内地拂米と唱へ畑方石代平均直段壹斗五升高に而村々御手當并金銀山稼に付候諸入用品請負候相川町人共爲買受代金御藏納に相成寛政之初迄は一ケ年貳千石有餘も買受申付來候處同三亥年より買受方相減他國拂に申付賣出錢別廉にいたし金銀山御遣方に差向候之様御沙汰の向も有之由の處別廉除置候分も無之地拂米年々手詰にいたし當時壹ケ年千四百石有餘相渡來候處金銀山不盛の砌は差支無之候得共追々出方相進候上は寛政巳前地拂米三千石目當に取計候義全相當に付當末年より三千石を目當にいたし先達而御下知有之候前貸錢千兩餘は寛政度の振合を以七ケ年に割合返納いたし残り千九百兩振替拂の分は水替入用減方取計候分等彼是打合十ケ年に割合返納仕度旨水野出羽守殿え相伺候處伺の通被仰渡

一 去ル卯年より巳年迄の燒金江戸表え相廻し候様御沙汰に付去秋江戸御藏納相成候處此後年々江戸上の納に相成佐州に而小判吹立候義相止候事と心得候而は目當を失ひ先々吹散候金氣取盡候業も届兼言外の御失費にも可相成哉に付前々仕來之通り佐州におゐて爲吹立候様仕度時合の義は追而御差圖有之候と

燭有之旨訴出同廿三日下寺町法然寺本堂床下より火燃出翌廿四日同寺納屋より出火有之其外市中郷中の内所々附火有之六月廿五日相川門前町水戸口より怪敷躰のもの出候趣訴出に付町同心其外多人數遣し及穿鑿怪敷もの行方しれすといへとも其後は夫々締をなしおのつから穩になる

一 六月六日夜甚五間歩敷内より水替無宿共貳拾四人逃去河原田海邊に有之獵船に乗沖合へ漕出候處役目の水替とも追掛召捕來に付夫々仕置申付る去年中度々多人數にて逃去皆々小船に取乗越後路迄逃延又は多人數狼籍等におよひし處此度召捕後は惡事をなす事稀也

一 夏頃より秋へ至り麻疹流行

一 山之神教壽院山上御宮御修復六月十八日より始る

一 佐州御金藏御有高の内古金千五百九拾八兩江戸詰役人宰領爲致江戸表え差出新金に引替歸國のもの宰領に而佐州え差送候積り水野出羽守殿え伺候處伺之通被仰渡

一 去未年分山出金文字燒金拾壹貫七百拾七匁八分小判に積三千三百貳拾七兩永三拾文壹分佐州御金藏に積置灰吹銀貳百貳拾六貫五百六匁御傳馬宿入用金三拾三兩貳分銀六匁七分六厘九毛古金千五百九拾八兩江戸詰役人山西八左衛門古藤重之助宰領六月廿八日差立る出方御入用差引金貳千六百五拾九兩永貳百拾八文御益に成江戸詰山西八左衛門早川太右衛門御勘定仕上る

- 一 同年分山出銅三千貳百拾九貫七百目此金積り五百九拾三兩三分永貳百三拾壹文七分
- 一 畑本郷上組外八ヶ村より小倉村え掛山論出入裁斷に及ぶ
- 一 雲子間歩取明普請當春より始六月迄に皆出來



- 一 壹朱判四枚爲手本金江戸表より來る代り金御勘定奉行え達す
- 一 七月廿四日大風高波にて東通海岸村々所々難破船有之哥見村にて羽州庄内三瀬村彌兵衛船拾九人乗破船におよひ拾壹人溺死
- 一 七月廿五日夜戸中村出火有之百姓家五拾五軒堂貳軒燒失
- 一 佐州山出金去々午年去未年分此節江戸御金藏え相納候様水野出羽守殿御書取御渡に付午年分燒金拾壹貫六百五拾貳匁五分未年分燒金拾壹貫七百拾七匁八分八月六日御藏方役人岩間半左衛門藤木定之進宰領に而佐州差立る
- 一 浦目付之内多分は三月より九月迄場所々々え相詰其後は相川御役所向爲相勤候積り
- 一 海邊附村々田畑風損有之旨追々訴出ル
- 一 八月十一日小木町阿彌陀院より出火におよひ人家過半類燒定番役々家も一軒延燒に及ふ
- 一 八月十五日大風に而夷湊河崎水津邊囃掛の廻船破船におよふ溺死のものなし
- 一 大小早御船造替有之
- 一 戸中村小木町類燒に而困窮もの可爲難儀に付廣惠倉圍米の内より兩所え米百貳拾俵與ふる
- 一 引替新金閏八月二日到來
- 一 閏八月十一日泉本正助御宮御普請場見廻り銀山え相越其朝銀山内字甲坂岩山崩れ落通行際川通板枿六間打碎く
- 一 廣惠倉廻船壹艘新規造ル

- 一 多田村通商方始る
- 一 善知鳥明神祭禮の日御役所休日に成る
- 一 御宮御普請成就九月二日上棟同五日正遷宮有之
- 一 夷町醫師遜卿醫業の暇近邊町人共行跡慎方など申教困窮の中に而舊友の孤を引取養育いたす類品々奇特之趣相聞に付其身一代苗字を免す
- 一 學問所教諭所取建に付廣間役貳人地方頭取壹人え爲取扱十月朔日より目論見にかゝる其段江戸表へも申上る

佐渡の國たる府尹は年々交代して組頭の在勤限りありて風教一轍に出ることを得す吏人や、もすれは阿諛辨佞の風に陥り政に害あり引て農工商に及ふ是を移すに文學を以正直に歸せすんはあるへからず今昇平の澤海隅におよひて性善に歸するの基ひを生し邦國の善政是に過たる事やあるへき誠に清世の美事といふへし是を要務にあらすといふものあらは治を知る人といふへからず

- 一 鶴子澤川流始ル
- 一 御宮御普請成就に付十月十日奉行組頭始役人ならひに雇ひのものに至迄參詣
- 一 中尾間歩水道筋取明場所十月中旬字五兵衛通え取合十一月二日より前立會水貫間切に取掛ル
- 一 御用炭役所取立ル
- 一 十一月廿六日泉本正助鶴子澤見廻ル
- 一 雲子間歩敷内釜ノ口繕ひ替ル



- 一 十一月廿九日御年貢金納高千四百四拾兩餘有之一日の中千兩餘納りし事稀なり
- 一 廣惠倉起本米價物價平準の法を本とし御藏米買入方主法をも立都而は一國の利を起し害を除き廣く惠み救ふ事を本意となす旨觸しらす
- 一 相川市中の内困窮難儀のもの貳百人餘え廣惠倉貯米の内四拾七石救米を遣す
- 一 諸間歩とも當秋以來出鍵相進候に付酒肴を遣す
- 一 佐州相川金銀山東南北とも高山に而中央にも岩石聳え麓は左右とも澤合にて川水流れ川端に道筋有之數十ヶ所間歩々々え通行いたし地中にも水道切貫有之處字甲坂落石に而川通の板梓打拔水道え土砂落込間歩々々水路塞り候に付仕越御普請の積り水野出羽守殿え伺候處伺之通被仰渡
- 一 來酉年日光山御參詣被仰出候處關東筋打續出水に而難儀の趣被及聞召來酉年御延引來々戌年四月御參詣可被遊旨被仰出候段御奉書到來
- 一 去未年大坂銅座え相廻候去ル巳年分山出荒銅代金貳百五拾六兩壹分銀拾貳匁壹厘八毛申正月廿一日蓮池御金藏え上納

### 佐渡年代記卷之十五 終

人とも老母え孝心を盡し村方交りも宜趣相聞御役所え呼出褒賞におよぶ

- 一 正月廿日高波にて松ヶ崎湊波除柵大筒臺場等流失す
- 一 中尾間歩水貫の儀去年中泉本正助より申上候處御普請御入用高を以取調何れ佐州の取計ひを以追々繰合御普請等出來候様今一應勘辨可申上旨水野出羽守殿被仰渡候處兼而申上候通り江戸御移金等にて佐州御繰合不宜候間水貫御入用積金七千九百兩餘の内千九百兩餘佐州除金の内を以追々仕拂其餘六千兩餘は先づ御取替金の姿にて追々江戸御金藏より御渡返納方は水貫出來の上水替御入用減を以年々返納可仕旨二月十二日水野出羽守殿え書面進呈
- 一 五十年勤仕の役人四人褒美に及ぶ
- 一 大野村根本寺住持日守質直成出家にて品々奇特の行も有之趣相聞御役所え呼出褒賞に及ぶ
- 一 二月七日朝相川壹町目海岸え鯨流れ寄る
- 一 雲子間歩敷内通行筋潰込候處元來柄山の内を取扱候場所故度々破損有之永續無覺束趣を以甚五間歩取明銘目は雲子と唱へ以來甚五より通行番所も引移普請出來
- 一 貳朱判年來相立手摺等にて極印文字も相分兼紛敷見候分も有之趣に付此度吹直被仰付目形重く平日持運にも嵩張難儀の旨相聞遠國え遣候には猶更の儀に付壹枚に付目形七分宛相減吹直申付候間兩替等は迄の通可相心得旨水野出羽守殿御書付御渡有之
- 一 去未年金銀山水貫の儀申上候書面の内青盤鳥越二ヶ間歩も水貫無之候而は相成間敷哉の旨相聞中尾間歩水貫出來の上引續申上候見込に候哉中尾間歩の義は差向難捨置候へ共外貳ヶ間歩はまづ其儘差置候



哉見込承知いたし度旨御勘定奉行より泉本正助へ掛合有之候處中尾水貫成就の上は引續青盤鳥越水貫の儀も申上候心得に有之御入用積りの義は鳥越間歩金五千四百兩餘青盤間歩金七千兩餘相掛り候積り挨拶に及ぶ

一 三月七日矢柄村磯邊え鯨流れ寄る

一 去年分御年貢米九千三百八拾石大坂御廻米になる

一 中尾間歩湧出水多く其上度々けたへに而火灯り兼是非水貫無之候而は不相成儀故種々評儀の上稼相續可相成様勘辨いたし御普請申上候得共御取替金未々御時節柄不容易筋に付御普請廉々の内字石坂煙貫御入用金四百九拾壹兩餘盛太郎同斷千八拾兩餘字前立合水吐口取明入用六百七拾六兩餘合貳千貳百兩餘は佐州御除金之内を以仕拂候積り先づ取掛候様仕度水貫間切御入用五千六百兩餘取掛の儀は追而の御沙汰に相成候とも煙貫の手當相後レ候而は上納高相減可申旨御普請廉々内譯書付相添三月十六日水野出羽守殿え泉本正助より書面進呈の處中尾間歩惣太郎敷水貫御普請の儀は難被及御沙汰煙貫水吐口取明御入用金貳千貳百兩餘佐州御除金の内を以伺之通御普請取掛候様四月十一日被仰渡

一 長崎無宿立込候以來船方功者に付關東筋無宿をも申進め小屋内騒動を引起し其虛に乘し乘逃いたし候儀有之長崎無宿差廻の儀は差止候様掛合候積り大久保加賀守殿え伺書進達の處相止候儀は難被及御沙汰旨被仰渡

一 水替無宿とも一旦佐州逃去候もの又候江戸大坂長崎等より引渡無之様向々え掛合候積り大久保加賀守殿え伺候處御仕置筋相改候儀も可有之候間諸向え掛合候儀は見合可申旨被仰渡

一 勝桓兵衛佐州より歸路の節日光御宮御靈屋拜禮願書大久保加賀守殿え泉本正助より進達之處願之通被仰渡

一 此度吹直被仰付候貳朱判三月廿一日より追々引替有來貳朱判追而沙汰およひ候迄は取交通用可致旨御觸有之

一 四月二日勝桓兵衛八幡村塚崎御林見分相越即日歸る

一 組頭添田一郎次爲廻村四月七日相川出立同廿二日歸着

一 春頃より一般に風邪流行し金穿大工水汲人夫に差支市中不時雇入を以湛へ水汲捨稼後レの代銀は追而屬埋ル

一 諸間歩水道筋急破有之所々危急の場所も有之に付仕越御普請の儀水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡

一 貳朱判目形七分相減吹直被仰付候に付而は佐州金銀山出方御入用差引に相用ひ候金直凡例改度旨水野出羽守殿え相伺候處伺之通取計貳朱判割合は御勘定奉行え可申談旨被仰渡候に付則御勘定奉行え掛合候處佐州灰吹銀百目に付上銀に直九拾八匁六分三厘六毛に成吹立貳朱判六兩永百三文壹分三毛の内貳歩永九拾貳文七分五厘吹方諸入用引残り五兩貳分永拾文三分五厘三毛の納高に成候趣村垣淡路守館野忠四郎より挨拶有之

一 泉本正助四月朔日御暇に而同廿一日出立の積有之處風邪に而延引の儀申上同廿九日出立五月七日越後寺泊より佐州赤泊え渡海翌八日相川御役所え着勝桓兵衛交代して同日相川出立同十三日小木湊より



出帆奥州路え掛り日光御宮御靈屋拜禮の上歸參

一 長崎廻り俵物代前金渡の儀兼而伺濟にて來酉年分前金七百兩江戸表において受取御藏方役人歸參のもの宰領して歸る

一 買石とも引請金銀代直増の儀申立候へ共不及沙汰鉛代違ひは相渡候積り

一 大坂無宿拾九人五月十六日澤根湊え着岸出役のもの受取來る

一 廣間役の内四人銀山間歩々々出方を爲取扱四人は吹所向え掛る

一 於西丸御男子様御誕生表向被仰出無之御名の儀は松平政之助殿姫君様御誕生米姫君様と奉稱候旨五月廿六日御奉書到來

一 此度世上通用のため壹朱の歩判金新規吹立被仰付候間右歩判十六を以金壹兩の積り無滞通用可致旨御觸有之

一 中尾間歩水道普請五月より取掛に付組頭廣間役其外掛役人を極る

一 佐州延命院事羽黒村正光寺同様取扱にいたし度旨上野執當より内々問合有之處教壽院正光寺は御宮并末寺も有之延命院事新延寺は末寺も無之貳ヶ寺の振合には難成候得共延享の度出入の節眞言宗十二坊共祭禮之儀に付而は新延寺下知を可請旨寺社奉行裁許に而配下も有之に付出禮疊目は勘辨いたし候積り及挨拶

一 帶刀坂新道附替是迄の道筋は吹所向圍ひ際にて不締に付夜中は木戸へ切通行を止る

一 五月廿八日夜本途床屋外通屋根より火燃出六月廿二日夜下寺町妙輪寺地中物音し本堂庫裏屋根に紙

佐渡年代記 卷之十六

文政 八 乙 酉年

一 初春の内諸並役以前の通繼上下を用ゆへき旨を令す

一 金箔並下金取締後藤三右衛門一手に被仰付候間他所において直賣買いたす間敷旨御觸有之

一 相川壹丁目清七同所濱町覺助同人妻さつ同所與四郎貳町目中濱町季兵衛彌十郎町佐吉同人妻まさわし崎村藤助夷町吉郎右衛門湊町傳之助澁手付彦左衛門宮浦村庄兵衛同人妻さん孝心奇特の趣相聞に付御役所え呼出鳥目を遣す

一 浦方番所浦目付所取締方條目を渡す

一 中山道中筋普請有之

一 二月十九日青盤間歩敷内急破有之働の者貳人落石に被打即死に及ぶ

一 古金銀通用當二月限の處遠國等未だ不行届候に付當七月限り不殘引替可申旨御觸有之

一 古御金藏一棟教諭所敷地え引替書庫に用ゆる

一 田安中納言殿四男郁之助殿御事徳川兵部卿殿御養子被仰出永姫君様御縁組被遊候段被仰出候旨二月



廿六日御奉書到來

一 松平右京大夫殿病氣養生無御叶二月十六日卒去之旨同廿六日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨觸る

一 異國船之儀に付前々より被仰出有之文化之度魯西亞船之儀に付改而御觸も有之處イキリスの船於長崎表及狼藉近來所々え小船にて乗寄薪水食料を乞去年に至り候而は猥りに上陸いたし或は廻船の米穀島方の野牛等奪取迫々横行の振舞其上邪宗門勸め入致方も相聞旁難被捨置一舨いきりすに不限南蠻西洋之儀は御制禁邪教の國に候間以來何れ之浦方に於ても異國船見請候は、其所に有合候人夫を以不及有無一圖に打拂逃延候は、追船等不及差出若押而致上陸候は、搦捕または打留候而も不苦浦々備手立の儀は土地相應實用專一に心掛手重過不申永續可致便宜を考へ存分に可申付唐朝鮮琉球などは船形人物も可相分阿蘭陀船は見わけも成兼可申候へ共萬一見損し打誤候とも御察度有之間敷旨御觸有之

一 國々の廻船漁船海上におゐて異國の船に相親み候儀前々より御法度に付嚴重に可相守若相背候ものは可被處嚴科旨御觸有之

一 異國船國々え渡來の節向々より届出多分荒増の儀而已にて内實之事情は不相分儀も有之候間以來浦方末々迄も不相包有舨可申出旨御觸有之

一 相川市中組合を定諸色直段引下之儀申合日々直段の高下帳面に記し差出す

一 國中社人とも京都吉田より官職免許添簡願出候もの追々多人數になり元來百姓にて農業の怠りと可成事に付三代連綿受領之者の外は添簡不致積極る

一 先達而於西九御男子様御誕生被爲在候得共思召有之表向御弘不被遊處御簾中様御養被遊御弘被仰出若君様と可奉稱旨二月廿七日被仰出誠以目出度御儀不可過之旨三月十六日御奉書到來

一 教諭所普請三月廿四日より初鉦

一 村方檢地有之組頭添田一郎次在方掛り廣間役地方掛り等三月廿六日相川出立四月七日歸着

一 松平肥後守領分のもの去年中佐州哥見村沖において難船におよひ候節出役のものえ贈物差越に付伺の上受用爲致候様松平和泉守殿被仰渡

一 大小早御船貳艘皆出來に付四月朔日泉本正助乗初

一 壹朱判の儀御年貢并諸向上納金其外爲替等取交可申皆壹朱判に而も勝手次第通用可致旨御觸有之

一 大坂無宿引渡の儀取調候筋有之に付追而及掛合候迄見合候様大坂町奉行え相達候處大坂表より惡黨とも引渡土地の風儀も立直候處萬一引渡差止に成候而は取締方難行届候間差止の取調無之様いたし度旨可及掛合旨御城代松平周防守殿御差圖も有之旨申越に付來成年より五人歟又は隔年に拾人宛是迄の通り引渡有之様差含可申旨及挨拶

一 泉本正助歸路の節日光御宮御靈屋拜禮願之通被仰付

一 去年分御年貢米壹萬千貳百石大坂御廻米になる

一 教諭所取建に付廣間役貳人定掛りとし學問精熟のもの壹人教諭所預りとなし勤番頭取壹人書籍預り壹人學頭貳人目付役貳人掛りとす醫學所をも取建に付醫師之内四人世話煎とし夷町丸山遜卿新穂町默齋年來學問心掛に付折々教諭所え罷出候様申渡地役人を始市中重立之内學問所取建に付一同難有趣を以費



用出金并材木人夫等差出候もの共呼出褒賞に及ふ佐州におゐて前代未聞の盛事なり

- 一 御男子様御誕生表向被仰出無之御名松平周丸殿と奉稱候旨四月十一日御奉書到來
- 一 植村駿河守殿御老中格被仰付田沼玄蕃頭殿御側御用人被仰付若君様え被爲附候旨四月廿八日御奉書到來

一 金銀山吹所尙御入用の儀寶曆年中主法相立候以來年々差支も無之寛政年中に至り御入用格別省略いたし間歩々々も相減候に付文化にいたり日増に衰へ其儘差置候は、疾く退轉も可及處近年水埋の敷所をも取開年々多分の御入用相掛候に付格別省略をも可申付候得共連年諸色の價又は時々變革に應し相増候儀にて一時に相減候而は難儀可致併其儘に而は御縁合に寄終には寛政の振合に立戻候様可相成其期に臨候而は一入難義に迫り可申儀に付當分の内金銀山吹所向に付御入用御金藏より拂の度々元高二十歩一の浮錢を引取置追而金銀山不時入用に相立可申旨御入用取扱候向々え書取いたす

一 勝桓兵衛四月朔日御暇にて同廿三日江戸表出立五月三日越後寺泊より赤泊湊え渡海翌四日相川御役所え着泉本正助交代相濟同月六日相川出立同八日小木湊より越後寺泊え渡海奥州路通り日光御宮御靈屋拜禮の上五月廿一日歸府

一 於西丸御男子様御誕生表向被仰出無之御名松平初之亟殿と奉稱候旨五月十日御奉書到來

一 松平周防守殿所司代被仰付候旨五月廿四日御奉書到來

一 紫石英御圍少に相成候に付文化十一戌年相納候振合を以上品中品取交三斤相納候様御膳番より申立候趣御側林肥後守殿御改に付西三川金山并中尾間歩より出候分上品四百拾々中品百九拾目御膳番え達す

一 去々未年分山出荒銅三千貳百拾九貫七百目大坂御廻米積合大坂和泉屋市右衛門船沖船頭長兵衛え渡四月三日佐州澤根湊より出帆の處翌四日難風に逢同夜四時頃沈船になり乗組のもの海上漂ひ罷在候處加賀國安宅浦仁右衛門船颯通り助け揚仙石道之助領分但州沖浦え着船いたし蓑笠之助御代官所え申達吟味いたし候處地方よりは凡八九十里程沖に而海中荒立沈船になり方角等相知不申何れを目當に可取揚場様無之由申立候段蓑笠之助より書狀を以組頭まで申來に付江戸表え申上ル

一 佐州金銀山御入用の儀文化の頃は纔ならては相掛不申候故江戸表え御移金も有之候處近來山出金銀相増候に付御入用も一ヶ年金壹萬三四千兩より壹萬六七千兩相掛り右の外御役所向地方御藏々御入用等定式御改の分打合一ヶ年貳萬三四千兩より貳萬六七千兩餘相掛御收納金錢は米價高下に隨ひ多分有之まつ一ヶ年凡貳萬壹貳千兩程に相成諸渡方と差引四五千兩餘不足に而金銀山御入用引足不申候に付五ヶ年之間御仕入金として五千兩宛御下ヶ金御座候様仕度若御下金不容易儀も有之候は、以前佐州一國限り印銀通用の例も有之候に付印銀吹立御仕入金に可被仰付哉の旨水野出羽守殿え泉本正助より御内慮伺書進呈候處印銀通用之儀は不被及御沙汰近來金銀山出方相進候に付爲御仕入金來成年分三千兩御下來々亥年より御下金無之様相心得可申旨八月九日被仰渡

一 中尾間歩水道水仕御普請御入用高金貳千貳百兩餘御金藏除金の内を以取計ひ候積り伺の上去申六月より取掛り十二月迄に字五兵衛通り取合に付前立會より當時之稼所え七十丈餘切貫候得は惣浦湛水一時に吐捨候様相成候積り之處右切貫御入用佐州の取計を以普請可仕旨去年中被仰渡候に付種々勘辨之上銀山吹所向諸仕事師賃御入用品一ヶ年凡拾萬貫文餘之内二十歩一除錢致し間切取立候得は一ヶ年凡錢五千



貫文程に相成水貫成就の上は猶産業相増國中潤ひにも相成候儀に付難儀の筋も無之且御普請御入用遣殘之分を以前立合の内往古之稼所取明候積り水野出羽守殿え泉本正助より書面を以申上置

一 佐州在町身元相應のもの共金銀山御入用として出金いたし度旨申立先例も有之金銀山の潤助を以成立候一國中儀に付承届來成年より追々割返候積り右出金當年御稼入用粉成吹拂等に引當候へはさし支も無之旨水野出羽守殿え申上候處出金爲致候もの人數ならひに金高下戻割合利足の内譯出金遣ひ方下戻金出方等調候趣いさゝ可申上旨御尋に付佐州表に而取調候處追々人數相増金三千四百兩餘人數百五拾貳人右の内去ル寅年出金いたし二重に相成候者は直に差戻候分四百兩餘有之金貳千九百兩餘來成年より七ヶ年に割合年五分の利足を加へ地方向御貸附錢其外口々貸附錢有餘を以下戻之積り申上る

一 金銀山五ヶ問歩之内雲子問歩年限稼被仰渡年季相立候處出方も相應に而出鏈の内には筋金餘慶籠り御益も多く有之に付以來年限に不抱本途稼に仕度金穿大工貳萬人之外五千人分御改増の分も年季明に付引續貳萬五千人の高に仕度其外せんさく爲御入用相場違増納錢五分通渡方并本途薄鏈御買上代御改年季明に付引續御改之儀水野出羽守殿え伺候處雲子問歩は以來年限に不抱本途稼伺之通相心得金穿大工御入用其外は來成年より五ヶ年季の積りを以取計ひ候様被仰渡

一 學問教諭所之儀元御藏奉行兼合御勘定屋敷跡明地の場所え取建地役之もの共子孫永々教諭之儀を深く難有儀に心得諸費之儀は先年被下切に相成候出目錢之内より差出度旨申立猶明地も有之に付孔廟も取立度旨申立佐州人數十萬餘人の處組頭以下廣間役其外地役のもの地方町方寺社方取扱其外金銀銅山之掛り向湊々も數ヶ所にて自然御政事の末をも取扱候もの共夫々正路の勤方土地一躰風儀のため本源の養ひ

に而是迄も幼少素讀等年來之世話に而追々學問開寄り學風宜出精之ものも有之彌相續相勵候様仕度願之通り孔廟相立候様心組仕候處國中市郷の内材木石類大工人夫又は出錢いたし費用に宛候様仕度旨申立實意に相聞奇特に付褒詞仕置國中のため宜筋に付願之通申付候積り之旨水野出羽守殿え泉本正助より書面進呈之處御同人御上京中御聽届之旨植村駿河守殿被仰渡

一 去申年分山出灰吹銀貳百四拾九貫三百貳拾四匁御傳馬宿入用金三拾四兩貳步銀六匁六分六厘七毛江戸詰役人石井三郎右衛門古屋作左衛門宰領にて七月十八日差立る燒金拾四貫七百七拾壹匁五分此小判積り四千百九拾四兩永六拾五文九分佐州御金藏に積置出方は御入用差引金三千四兩三分永貳百貳拾貳文九分御益になる江戸詰石井三郎右衛門井上猪左衛門御勘定仕上ル

一 同年分山出銅三千六百貫目此金積り七百貳拾兩  
一 地役人山西八左衛門銀山方御勘定仕上に府罷在百目筒鐵砲壹挺自分入用を以爲張立歸郷之節持越申度旨相願候に付不苦候は、承届可申哉之旨青山下野守殿え伺候處伺の通被仰渡候に付碓氷御關所御改之儀申上御留守居手形受取

一 古金銀通用當八月より停止たるへき處今以引替殘有之趣に付來成年二月迄是迄之通通用いたし三月より停止たるへき旨御觸有之  
一 盲人とも取締として江戸表より大野檢校といふもの來る  
一 教諭所普請落成に付八月八日より學問武術稽古はしまる  
一 山之神御靈屋御普請八月四日より始る



- 一 八月七日勝桓兵衛西五十里屏風澤銀山并靄子澤見廻る
- 一 原黒村百姓家七軒納屋小屋鹽竈とも拾六軒八月十日焼失
- 一 帶刀坂古道晝の内通行を免し夜陰はべ切
- 一 一橋一位殿准大臣宣下有之被稱一橋儀同殿候旨八月十七日御奉書到來
- 一 教諭所普請出來に付勝桓兵衛見廻る
- 一 鐵砲師善五右衛門悴善之助といふもの常々孝心之趣相聞に付褒賞に及ぶ
- 一 雲子間歩永々本途稼伺濟に付九月朔日より改而稼入をなす
- 一 村々田方不熟の趣追々申出る
- 一 九月廿六日夜風波高く近國廻船數艘沖合にて難船におよひ乗組の内溺死人も有之
- 一 去々未年分山出荒銅積船難風にて沈船に相成候始末評定所吟味有之處疑敷筋も不相聞候得共日和をも不定出帆いたし難風にあひ多分の御米荒銅共不殘海中捨りに相成候段不働の至不埒に付船頭楫取水主とも一同夫々咎申渡有之荒銅運賃佐州に而相渡候分三分二は被下切三分一は苦屋久兵衛より來春佐州え返納之積り斤量鍾も返納不致儀に付代りの分買上來春佐州え持越候は、代金相渡候様御勘定奉行より掛合有之
- 一 九月廿一日御下金三千兩俵物代七百兩到來
- 一 田安殿御簾中九月廿九日逝去の旨十月廿二日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る
- 一 諸國とも凶作に而米價高直の趣に付佐州夫食差支の程難計米穀他國拂差留候方にも可有之哉の處佐

州作方は格別凶作にも無之に付來春に至り取調候積り

- 一 來戌年四月日光山御參詣可被遊旨被仰出候處當年諸國違作にて一同可及難儀被思召御延引御頃合の義は追而被仰出旨十一月八日御奉書到來
- 一 山之神御靈屋御普請出來に付十二月十五日上棟同十八日正遷座同廿一日役人并雇町人共教壽院迄相越
- 一 銀山吹所向え酒肴を遣す
- 一 十二月廿二日曉御用炭納屋出火有之
- 一 市中困窮のものへ夫食米遣す
- 一 十一月廿七日盛姫君様御婚禮相濟候旨十二月廿八日御奉書到來
- 一 佐州金銀山并銅稼之儀追々出方相増御益も有之出精骨折候に付組頭大原吉左衛門添田一郎次え銀拾枚宛廣間役千賀多兵衛河島才右衛門益田丹右衛門今井忠兵衛井上儀右衛門堀口彌右衛門え銀五枚宛廣間役助井口茂十郎西川藤兵衛永井四郎兵衛え銀三枚宛御褒美被下候旨水野出羽守殿御書付を以被仰渡候段泉本正助より申來十二月廿九日佐州におゐて申渡
- 一 去申年大坂銅座え相廻候去ル午年分山出荒銅代金三百七拾四兩三分銀九匁五分四厘九毛酉正月十八日蓮池御金藏え上納
- 一 當酉年相廻候去々未年分荒銅は難船にて捨りに相成候に付代金上納無之



文政九 丙戌年

- 一 正月六日雲子間歩稼所冠通りより落石有之留棚井籠打破柄山に而通路差塞候に付仕越御普請に取掛り此御入用金五百七拾兩餘の分御金藏除金之内より請取候積水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡
- 一 本途出鏈歩嵩多に而吹仕切相延可申躰に付定問吹所並水車勝場建繼人夫相増入立る
- 一 正五九月諸役人并下方の者山之神御宮參詣に罷越候に付十七日は御役所休日に定ル
- 一 正月十八日夜真光寺村真光寺出火本堂庫裏護摩堂不殘燒失におよふ
- 一 孝心奇特のもの拾人御役所え呼出褒賞に及ふ
- 一 中尾間歩前立會古敷取明御普請去暮皆出來之積りに有之處仕上り水強く水替人足に差支御入用御拂ひ廉も無之に付正月下旬水替引放になる
- 一 中尾間歩前立合古敷取明以來穿鑿も届兼いまた念慮も残り候間水替樋場繕ひ替當四月まで水替入立の儀山方役申立に付二月二日より猶又普請に掛り水替人敷不足に付町方助合人夫入立る
- 一 水津湊囁内普請目論見に付二月八日組頭添田一郎次出役
- 一 佐州より乗逃の無宿とも江戸京大坂長崎等におゐて被召捕候分死罪以上御仕置に相成先々より捨札案來る節水替小屋場前通りえ建置
- 一 二月廿九日曉江戸水替小屋場出火坪數六十坪程燒失
- 一 古金銀通用來亥正月迄是迄之通たるへき旨御觸有之

一 於西九姫君様御男子様御誕生表向被仰出無之御名之儀は咸姫君様松平春之亟殿と奉稱候之旨三月八日御奉書到來

一 二月十六日勝桓兵衛姫津村見廻る此日稻鯨村漁師共沖合において長六丈程の流鯨拾ひ取村方磯邊え引來る

一 佐州におゐて先年より遠島以下御仕置に相成候もの百三十三人去ル子年御轉任御兼任御祝儀御赦被仰付候に付三月廿日當人身寄之者呼出申渡其段御届申上ル

一 三月廿一日勝桓兵衛西濱七郷見廻りに相越

一 松平民部大輔三月十四日卒去に付公方様定式之御忌服被爲請内府様には定式半減の御忌服被爲請若君様には一日御遠慮被遊候段同廿四日御奉書到來

一 去年分御年貢米壹萬千貳百拾五石大坂御廻米になる

一 去々申年并去酉年分佐州燒金御藏納相濟次第二ヶ年分一同江戸表え可差越旨三月廿九日水野出羽守殿御書取泉本正助え御直に御渡

一 西五十里村字屏風澤彌十郎間歩出方も有之候之處落水并けたへの障り有之に付御入用融通を以東之方市右衛門間歩え爲切延候處當三月中迄に切貫候に付追々出方も有之様罷成候は、取調相伺候積り水野出羽守殿え申上ル

一 三月晦日羽丹生村磯邊え鯨流れ寄

一 水津湊囁普請出來方見分として組頭大原吉左衛門出役



- 一 春日崎におゐて火術打上ケを試る
- 一 天明年中大川村破船一件御勘定奉行掛りにて御仕置相成候もの五人去ル子年御轉任御兼任御祝儀御赦被仰付候旨御勘定奉行より掛合に付四月廿二日佐州におゐて申渡
- 一 泉本正助四月朔日御暇に而同廿四日江戸表發駕三國路通り越後寺泊え出津五月朔日赤泊湊え渡海翌二日相川御役所え着勝桓兵衛交代して同四日相川出立同十一日小木湊より出帆
- 一 國産煎茶追々高直に付船積を留る
- 一 大坂無宿拾人四月廿八日彼地出帆貳人は船中にて死失残り八人五月廿九日到着
- 一 中尾間歩前立合古敷水替入用一ヶ年千兩程も相掛り繰合不宜格別の代銀も調兼候に付六月二日より差止る
- 一 於西丸姫君様御誕生表向被仰出無之御名暉姫君様と奉稱候旨六月十四日御奉書到來
- 一 孔廟普請去夏より見合置候處願に依て再び取掛る
- 一 去々申年分燒金拾四貫七百七拾壹匁五分去酉年分燒金拾壹貫貳百五拾四匁八分貳拾六貫貳拾六匁三分此小判積り七千三百八拾九兩貳分永百三拾六文六分去酉年分山出灰吹銀百八拾七貫貳百拾八匁御傳馬宿入用金三拾五兩銀拾參匁貳分六厘五毛江戸詰役人前田重郎兵衛水田與一右衛門宰領に而七月十二日差立る去酉年出方御入用差引金五百拾兩永百五拾八文九分御益になる江戸詰前田重郎兵衛原孫兵衛御勘定仕上る
- 一 去酉年分山出銅貳千三百四拾貫目此金積り四百六拾八兩

- 一 松平能登守殿七月八日卒去の旨同十六日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨をふれる
- 一 島越間歩勘吉敷取明普請七月廿日より始る
- 一 雲子間歩永々本途稼に成追々代銀相進候に付酒肴を遣す
- 一 八月十六日泉本正助孔廟普請場を始水車勝場廣惠倉銅床屋下戸御米藏菜園濱手番所向見廻る一本藥園
- 一 淺姫君様御平産女子出生之旨八月廿五日御奉書到來
- 一 俵物代前金四百兩餘江戸詰歸之者持來る
- 一 在中紛敷もの召捕方其外婚禮之節石打狼藉等取締方觸出す
- 一 十月二日泉本正助金銀山其外大吹所水車勝場等見廻る
- 一 河崎赤玉兩村當分水津番所扱下に申渡
- 一 當成年より五ヶ年之間山出荒銅直増銀相渡候積り御勘定奉行より申來る一本官家
- 一 菅家より武家え直掛合之義攝家宮門跡堂上方之末流修驗等全法義而已に掛り其筋え直掛合にて可埒明筋并呼出其外取扱に付直掛合之儀は是迄の通取計前文之趣にても入組候事は傳奏衆え被申立祈願所に被差加寄附物等有之儀は末流末寺之儀に候とも元來宗旨法義等とは譯違ひ自用の儀に付都て直掛合之儀傳奏衆え被申立夫より御附え達之上向々え掛合候筈之旨評定所一座より松平和泉守殿え申上所司代え被仰遣候間以來右之趣差合取計ひ候様評定所一座より申來る
- 一 金銀山の内雲子間歩御稼方當成年より無年限御直山被仰付候に付改而稼方嚴重に申付候處追々様子宜鏈石も格別上品の分取出候に付一同相勵十月に至り一十日鏈代三貫目程に相成四五十年來無之上品の



鏈取出し鳥越間歩勘吉敷柄山に而埋り居候に付不日に爲取明一十日鏈代壹貫五百目餘出來立候様被成候趣水野出羽守殿え書面進達

- 一 柿野浦村時疫流行百姓共難儀の趣に付廣惠倉益錢の内を以扱ふ
- 一 十一月朔日若君様御髮置御祝儀首尾好相濟候旨同晦日御奉書到來
- 一 十月中雨天打續金銀山敷内水勢強く諸間歩水道筋え水湛へ留棚甘き水路塞り出水増上り御稼方にも障り候に付仕越御普請御入用金七百九拾八兩餘御金藏除金の内より御渡方之儀水野出羽守殿え伺候處伺之通被仰渡
- 一 雲子間歩番所役壹人并雇之者四人人數増の儀水野出羽守殿え相伺候處番所役の義は不被及御沙汰雇之者は伺之通被仰渡
- 一 十二月六日泉本正助孔廟普請場見廻る
- 一 孔廟取建に付市郷寺院重立町人百姓等追々奉納金又は書籍献納願出に付承届夫々褒賞に及ふ
- 一 地方掛り頭取順次を山方役頭取の次に定吹分所定役を赤泊定番役の次金銀改定役を吹分所定役の次に定る
- 一 松平周防守殿植村駿河守殿御懇の以上意連判の列被仰付駿河守殿貳萬五千石高に御加増内府様え被爲附候水野左近將監殿所司代被仰付候旨十二月十六日御奉書到來
- 一 十一月廿七日讃岐守養子松平宮内大輔方え文姫君様御引移即日御婚禮相濟候旨十二月十六日御奉書到來

- 一 諸間歩出方相進候に付酒肴を遣す
- 一 市中貧賤の者へ廣惠倉備米の内を以救米を遣す
- 一 青盤間歩敷内字中袋十二月六日夜厚身地山東西拾間餘高下六七尺大石割落柄山押出人足怪家人有之水替樋場所々破却いたし候に付附替御普請の積りを以御入用積り立候處多分の金高に至り候間種々評議の上要用の場所取調相伺候積り水野出羽守殿え申上る
- 一 廣間役益田丹右衛門今井忠兵衛御武器掛定役にて江戸廣間役次席年始五節句月次共是迄之通着座可致旨申渡出禮順次は廣間役助の次え出る
- 一 廣間役助井口茂十郎西川藤兵衛廣間役申渡廣間役當分助永井四郎兵衛廣間役助申渡ス

文政十丁亥年

- 一 本屋敷村孫左衛門祖父孫右衛門百歳に成稀なる長壽に付金子を興へ老養扶持を遣す九十五才以上の者六人え老養扶持を遣し九十才以上の男女二十一一人え金子を遣す孝心奇特の者七人え鳥目を興ふ
- 一 在町のもの他國出人數寛政年中より村高により多少取極有之却而紛敷儀も生し候に付以來割付高相止以前之通願次第出判相渡爲取締湯治物詣身上稼等に相越候分は役銀相納廻船乗組の者并手當として出判差免候分は無役の積り
- 一 赤泊湊より越後寺泊へ押渡早船を造ル
- 一 孔廟普請落成に付二月十九日上棟規式を行ふ組頭添田一郎次はしめ掛廣間役以下掛り役人一同出ル



- 一 一橋儀同殿二月二十日薨去之旨三月六日御奉書到來普請七日鳴物十四日停止
- 一 公方様定式の御忌服被爲請候處京都より以格別之叡慮被仰進候に付三月三日より御忌被爲明公家衆御對顔御大禮も近々可被爲在旨被仰出内府様御忌解の儀從公方様被仰進之三月三日被爲解鳴物停止に不及旨三月十四日御奉書到來
- 一 三月十八日就吉辰勅使院使大宮使女御使登營公方様大政大臣御昇進詔書宣旨御頂戴内府様從一位の御位記御頂戴御作法無殘所相濟旨三月廿四日御奉書到來
- 一 泉本正助夷湊水津邊見廻りに付四月九日相川出立同十二日歸着
- 一 大貫次右衛門御代官所越後國蒲原郡水原村百姓眞鳥權兵衛近藤甚助佐州水津湊囃普請に付同所並最寄村方へも送り米致度旨水津番所迄申立に付御役所え呼出承届候趣組頭添田一郎次を以申渡
- 一 長石四日町兩村濱通り新開を起す
- 一 夷町丸山遜卿事教諭所附儒者に雇入其身一代帶刀を免す
- 一 去年分御年貢米壹萬百石大坂御廻米になる
- 一 勝桓兵衛四月朔日御暇に而同廿五日江戸表出立五月五日越後寺泊より赤泊湊え渡海翌六日相川御役所え到着泉本正助交代相濟同八日相川出立翌九日小木湊より出帆
- 一 組頭大原吉左衛門去十月より病氣の處養生不叶五月四日病死悴吉十郎厄介召連同十日相川御役宅引拂
- 一 徳川式部卿殿病氣養生不相叶五月十日逝去の旨同十九日御奉書到來普請三日鳴物七日停止

- 一 閏六月三日松平松菊事松平阿波守養子被仰出候旨同十四日御奉書到來
- 一 梅津釜屋兩村檢地其外村々爲御用組頭添田一郎次地方掛閏六月廿五日相川出立七月五日歸ル
- 一 御勘定苦竹權藏閏六月十八日佐渡奉行支配組頭被仰付候旨七月朔日申來
- 一 金銀山中尾間歩御普請御用相勤候に付組頭添田一郎次え銀拾五枚廣間役河島才右衛門堀口彌右衛門え銀五枚宛山方役壹人金貳兩目論見より骨折候に付別段貳百疋掛り役人拾貳人え金貳兩以下百疋迄被下候旨水野出羽守殿御書付を以被仰渡候段泉本正助より申來に付七月八日佐州におゐて申渡
- 一 去戌年分山出灰吹銀貳百拾八貫百拾九兩貳分銀八匁九分五厘九毛江戸詰役人水品孫十郎今井新右衛門宰領にて閏六月廿一日差立る山出燒金拾八貫六拾六匁六分此小判積り五千百貳拾九兩貳分永百七拾貳文壹分江戸詰水品孫十郎堀口市大夫御勘定仕上る山出小判五千兩以上に及ひし事寛政八辰年の後は去年分を始とす
- 一 同年分山出銅貳千八百四拾貫目此金積り五百六十八兩
- 一 七月二日松平紀五郎事松平大和守へ賀養子松平周丸事松平左兵衛督え養子被仰出候旨同十八日御奉書到來
- 一 御入用御繰合差支候に付金銀山大工掛り方粉成入用省き方向々に而取調申立候様書取渡す
- 一 金銀山出方追々相進去ル午年より山出之高壹萬四千兩より壹萬八千九百餘に相成御益も三千兩餘に立及び候處佐州御金藏御收納高に引當御入用元拂對當不致年々金五千兩宛御元入無之候而は山出金銀高をなし不申候間何卒五ヶ年の間年々金五千兩宛御下ヶ被下且是迄金銀山間歩々々え相掛候大工御改高一



ケ年貳萬五千人分を以相稼來候處元高不足に付人數増方の儀泉本正助在勤中取調歸府之上水野出羽守殿え御内慮伺書進呈之處金銀山御仕入方不足金の内え金三千兩連池御金藏より御元入之積り且間歩々々へ相掛候大工人數之儀は來子年より來ル寅年まで三ヶ年の間猶又五千人増都合三萬人之積り相心得來子年より御元入金に不及相濟候様厚く勘辨仕取計可申旨被仰渡

一 佐州米價通商等午年以來引續被相行廣惠倉主法も備り當時金貳千兩米千石粃貳千石程の有高に成諸民の御救方も行届去戌年益金凡六七百兩程に相成右の内孝子奇特窮民手當非常御救渡方並掛り役人手當筋雇之もの給錢小入用倉並納屋會所修復入用且教諭所武藝道場醫學所並小入用迄一切此廉より相拂候積り取極非常手當等年々不同なから凡金三百兩程の拂方に積り殘益金の内三百兩は御藏納いたし置非常爲御備除置候積り其外小木湊通商砂地敷地成等取計ひ且亦聖廟取建御聞置を以願之通申渡候處當二月迄に造立落成出來形相應に有之諸費地役人出目錢の内元に立市郷志有之もの共別而醫師寺院之内寄附金有之諸費拂立候上猶有餘金も相殘候に付廣惠倉え渡當用の書籍相求餘利倍見計ひ永々の修復並修行之もの手當方にも相成候様取計候積り水野出羽守殿え書面進呈是又泉本正助在勤中取調歸府之上申上ル

一 佐州御金藏御有餘金江戸御藏移より當時に至り御不繰合の次第に成御仕入元不足に付非常臨時の御備方にも難相及追々取調候處文化十四丑年より去ル戌年まで十ヶ年分御藏御圍粃貳萬八千俵餘順繰に詰替古粃御拂に成來候處新穀に見合御拂代格別下直に爲相納候へとも村爲とも相成候に付年々詰替の分五分通り正米に而爲相納候得は村ためにも相成候に付正米の方粃御拂直段を以御金藏え相納御圍粃の代りに付此金凡一ヶ年貳百兩餘別口に相除ケ其御用途に當置其餘相場違等取計方に而金有餘御益に可相成分

猶又御金藏に別納にいたし候積り且佐州之儀は金銀山稼有之他國出入相改奉行所月限りの切手を以湊々番所に而名前引合來候處寛政七卯年より村高に應し出人數高割に取極高外之分商賣方に至迄夫々人數取極有之候へ其他國出之儀は村柄の善惡病人多少に寄湯治出療治其外無餘儀譯に而出人増減有之敢而村高に拘り候筋無之其以來次第に他國出人相増願方に行詰り他國出殘りの分借請又は翌年分願越寺社人雇飛脚にも相成不正之始末にも至り却而紛數もの多く罷出候丈ヶ出人相増候方に有之不取締に付以來割付相止人別役銀爲取立此金一ヶ年金百五拾兩程御金藏え相納候積り其外通商交易物價常平之主法等を以廣惠倉御手當御扱諸費遣拂有餘可相成益金三百兩の分打合三口へ金七百兩程の分先々より御金藏振替拂ひ壹萬貳千兩餘の分返納え立方も無之廉え年々貳百兩宛差廻濟口相立残り五百兩御金藏別段除置臨時御備の廉え相立年々増加いたし格別非常の外は御遣方無之積り水野出羽守殿え書面進呈之處前條米價引立候主法の儀は伺之通り取計ひ有餘金の内より年々三百兩宛御金藏別納の積り相心得尤右金高の内に而四ヶ條目振替遣候金高の内え年々金貳百兩宛返濟いたし以來右様振替遣候儀無之様取計其外の儀は何も不被及御沙汰候間是迄の通居置候様可致旨被仰渡

一 御役所下改の者三人給錢御藏請取之積り伺之通被仰渡  
 一 大貫次右衛門御代官所越後國水原村百姓近藤甚助眞島權兵衛儀佐州水津湊囉普請組合村々困窮之趣及承人足手當として玄米貳百五拾俵合力いたし度旨支配の者迄申立今般兩人のもの佐州え渡海困窮の趣見聞いたし手當米俵數相増四斗入玄米千俵相送り度旨願出奇特に付承置歸村申付候趣申上ル  
 一 青盤間歩敷内百五十丈餘地底え穿下ヶ半拔の場所去十二月六日夜急破にて數十ヶ所難場の留山破却



から山押出候に付仕越御普請御入用金貳百四拾兩餘佐州御金藏除金之内より御渡之儀水野出羽守殿え伺候處伺之通り被仰渡

一 去戌年大坂表え相渡候荒銅代銀之内直増銀六貫四百五拾目餘の分蓮池御藏納いたし候處銅山稼御仕入に受取度旨御勘定奉行え掛合の上水野出羽守殿え申上金百兩餘の分請取ル

一 御下金三千兩俵物代七百兩八月十八日來ル

一 松平陸奥守養母死去の旨八月廿七日御奉書到來鳴物三日停止普請はくるしからざる旨を觸る

一 苦竹權藏八月十六日江戸表出立同廿九日越後出雲崎より小木湊え渡海翌晦日新町に止宿九月朔日相川え到着

一 諸國酒造文化三寅年以後相始候休株并渡世不致もの追而及沙汰候迄可爲無用旨去々酉年十二月相觸候處最早不及其儀去々酉年以前の通勝手次第たるへき旨御觸有之

一 青盤鳥越中尾三ヶ間歩連年穿下り水替御入用相嵩候に付金錢に而請取來る御入用米錢請取にいたし候は、卑賤のもの飯料の一助に相成稼方相望候者追々出來可致趣を以伺之上去ル未年より當亥年迄五ヶ年米錢渡相試候處今以御足拂は相掛候へ共米をも取交相渡候後は増賃相願候儀無之水替入立方も程能相調候間別段御入用増方不申上候に付去ル未年御改之趣を以來子年より以後月々米錢取交請取申候様いたし度旨水野出羽守殿え相伺候處伺之通被仰渡

一 去戌年大坂廻に相成候去ル申年分荒銅代金六百參拾五兩銀八匁壹分九厘三毛亥正月十四日蓮池御金藏え上納

但前々有之通り書面金高之内直増御手當の分金百兩銀貳分三厘入手形を以蓮池御金藏より請取銅山稼入用になる

一 山出灰吹銀古來は一貫目に付六匁八分入目いたし高外に記來候處寶曆八寅年より五百目に付貳匁五分入目いたし候へ共員數は記不申候に付以來差止候歟又々員數認勘定に入候歟兩様の内取計申度旨御勘定奉行え掛合候處以來入目丈ヶの員數上包外書に記惣高員數には相除候様挨拶有之

一 姫君様御誕生表向被仰出無之御名泰姬君様と奉稱且恒之亟殿え御領知拾萬石被進之候旨十一月三日御奉書到來

一 越後國徘徊いたし候無宿惡黨共同國支配御代官野田斧吉布施孫三郎大貫次右衛門爲召捕御勘定奉行年限又は伺之上御仕置申付候者の内佐州水替人足に引渡度旨石川主水正曾我豊後守より懸合候に付さし支之筋も無之旨及挨拶候處水野出羽守殿え伺之上越後出雲崎は渡海場に付三年にて御仕置申渡候もの出雲崎え集入窄申付便船三四人又は五七人引渡可申候間手續承知いたし度旨猶又掛合に付右無宿佐州小木湊へ渡海いたし候得は宰領之ものより小木湊番所役え引渡相川表え相送候様最風筋に寄外浦方へ着船いたし候ても請取方差支無之様兼て申渡置請取候上は御勘定奉行え達書而已にて別段御届は不申上積り挨拶有之

一 相川町屋敷切坪に而地讓候儀は不相成仕來候處差支の筋も有之候に付以來間口貳間半以上の間敷の切坪に而讓渡候而も不苦儀に相極貳間以下又は屋敷尻等は切坪不相成義に相定メ是迄貳間以下の地所切坪相成來候分丈ヶ追々合歩に相成候様町方え觸る



十一月廿七日松平加賀守方え溶姫君様御引移御婚禮相濟候旨十二月九日御奉書到來

文政十一 戊子年

一 去十二月三日從公方様若君様え御名被進家祥公と被稱之正月廿一日若君様御袴着御祝儀首尾能相濟候旨正月晦日御奉書到來

一 廣間役河島才右衛門御用に付妻子等も召連れ江戸表え可罷出旨去十二月廿九日水野出羽守殿御書付御渡正月晦日到來翌二月朔日申渡同九日佐州引拂同廿四日小木湊出帆奥州會津通り江戸え出る

一 加茂郡の内新穂村雜太郎の内船代下村近邊え正月十三日頃より穀類果實に似寄候品降下り其外所々えも降候趣三月十七日松平和泉守殿え書面進達穀類草實に似寄候品相添差上候處御留に相成候趣同廿日被仰渡

一 去亥十二月十五日相川濱におゐて珍敷龜拾ひ候に付差上可申哉の旨二月十二日御側衆土岐豊前守殿え相伺候處差上可申旨同十八日被仰渡拾ひ取候ものえ金壹兩被下拾ひ取候下戸町惣吉へ遣す

一 畑方村小組權兵衛母えも羽茂本郷惣右衛門父惣三郎東鶴島村次郎左衛門母さん哥代村庄兵衛母かめ九十五才以上に成長壽に付老養扶持遣之羽田村七兵衛母たね外二十二人九十才以上に付金子を遣す

一 石扣町傳次郎娘寡女みや六右衛門町丹次瀧平村吉右衛門悴吉三郎上横山村六之助同村權三郎高崎村利右門吉井本郷名主儀兵衛奇特の趣相聞に付鳥目を遣す

一 酒井若狹守殿御病氣の處養生無御叶正月廿七日卒去の旨二月八日御奉書到來鳴三日停止普請は不苦

旨觸る

一 二月五日牧野備前守殿御懇の上意を以連判之列被仰付内府様え被爲附候旨二月廿九日御奉書到着

一 最樹院様一回御忌御法事首尾能相濟候旨二月廿九日御奉書到來

一 西三川金山去亥年冬山崩有之仕越御普請の儀水野出羽守殿え相伺候處正月廿八日伺之通被仰渡

一 道中筋宿繼御證文宿々におゐて墨付汚等致出來候に付御證文類往返共以來封候而宿々可繼送旨先達而道中奉行え達有之候處猶取調候儀有之御老中方え相伺候處仕來之通可取計旨被仰渡候間以前之通相心得繼送候様江戸傳馬町出口宿方え申渡候に付佐州表宿方えも右之趣申渡候様道中奉行岩瀬伊豫守石川主水正より掛合有之

一 陣屋其外役所向模様違ひの場所繪圖面江戸表え上ヶ御引替の儀申上る

一 去亥年分御年貢米一萬四百九拾五石大坂御廻米になる

一 孝泰院様五十回御忌御法事御執行首尾能相濟候旨三月五日御奉書到來

一 大貫次右衛門御代官所越後國蒲原郡水原村百姓眞島權兵衛金七百五拾兩同村近藤甚助七百五拾兩同村庄屋穴澤忠次貳百兩百姓代芋川才次郎八百兩同國岩船郡下關村庄屋渡邊三左衛門五百兩都合三千兩佐州金銀山御仕入の方へ御奉公のため上ヶ切出金仕度旨相願候段佐渡奉行より相伺御勘定奉行よりも申上候處願之通金參千兩爲差出候様水野出羽守殿被仰渡

一 組頭添田一郎次惣領多十郎同人妻子共出府願之通松平和泉守殿御附札を以被仰渡候に付三月廿一日於佐州申渡四月廿六日相川引拂



一 廣間役河島才右衛門儀三月十三日支配勘定被仰付候旨同晦日申來ル  
 一 御普請役白石吉郎儀三月廿四日松平和泉守殿御書付を以佐渡奉行支配與力格廣間役被仰付候旨四月四日申來ル

一 金銀山出方五七年来相進午年以来御益にも相成出來金銀江戸御金藏え上納辻と御仕入諸懸り差引御益の分江戸納丈の効驗は有之候得共右御益金佐州御藏元高に相加り候都合にも無之去年中御下金も御收納石代減相場違に成代り水原郷のもの共出金も過半去年分不足え相渡市郷出金の繰合もいたし盡し稼方手を縮候より外無之左候得は山出金銀江戸上納も格別相減一國中の衰微は見渡候儀に付兼て申上候五千兩の御下ケ金無之候而は是迄の山出金銀高上納相成候取計に相成兼候間先今年の處兼而申上候趣御聞濟御下ケ金被成下候様泉本正助在府中取調水野出羽守殿え書面進達いたし候處當秋參千兩御下金被成下候積り被仰渡

一 勝桓兵衛夷湊水津邊爲見廻四月七日出立同十日歸着  
 一 越後水原郷のもの上ケ金參千兩御船に而渡海惣代の者二人四月七日相川え着上ケ金御藏納に成ル  
 一 四月四日若君様御元服從二位大納言御任叙正二位宣下萬端御作法無殘所相濟候旨同十三日御奉書到來

一 四月廿七日夜東強清水村出火百姓家納屋船小屋等三拾壹軒焼失  
 一 泉本正助四月朔日御暇に而同廿七日江戸表發駕三國路通越後寺泊え出津五月十日赤泊湊え渡海翌十一日相川御役所え着勝桓兵衛交代して同十三日相川出立同十八日小木より出帆

一 他國出之もの締のため船場番所え役銀爲差出候處去亥年の儀は却而他國出相増候に付役銀御差止寺社人始都而先振合に引戻シ在町のもの兼而取極の割付高を以無役にて他國出申付候積り觸出す

一 柴町りゑ松ヶ崎村清吉夫婦新町村又七夷町權兵衛妻ふよ浦川村助右衛門下男伊三郎奇特孝心の趣相聞に付鳥目を遣す  
 一 去亥年分山出灰吹銀貳百拾九貫三百八拾壹匁御傳馬宿入用金三拾四兩壹分銀拾四匁八分貳厘六毛江戸詰役人吉田藤助野田又左衛門宰領六月廿日相川差立ル同年分燒金拾五貫三匁八分此小判積り四千貳百六拾兩永貳拾貳文七分佐州御金藏に積置出方御入用差引金千百拾五兩貳分永貳百四拾六文七分御益になる江戸詰吉田藤助井上權右衛門御勘定仕上ル

一 同年分山出銅三千五拾壹貫七百目此金積り五百五拾九兩壹分永貳百四拾五文  
 一 勝場用水路寶曆の頃より甲賀澤の水を引來候處水筋細ク其上人家前通りを流し不淨の儀も有之に付改而銀山内よりの流水を北澤水上より夕白町え掛ヶ通シ彌十郎町通り水道地中堀通勝場を始陣屋教諭所組頭御役宅等用水に懸ル

一 貳朱判吹立に付古貳朱判通用之儀來丑二月迄の間只今の通可致通用其以後は古貳朱判通用可爲停止旨水野出羽守殿御書付到來に付在町え觸ル  
 一 御藏御圍糶之内十一年以前寅年分當子年御拂可相成糶三千俵餘の内貳千俵餘の儘他國拂申付候へは獵業専らの時節小前の者難澁に付相殘候分は摺立之上正米に而御拂相願候間願之通申渡候旨水野出羽守殿え申上候處伺之通取計候様被仰渡



一 當六月中雨天打續候處同廿二日夜より大雨に相成廿五日晝夜共無晴間降續所々出水別而加茂雜太兩郡の内金北山林下満水にて山崩川缺有之村々田畑え土砂押入道橋用水路等數十ヶ所破損に及び羽茂郡村々之内にも水損有之追々訴出見分の者出役申渡候間田畑其外損所取調御勘定奉行え申達候積水野出羽守殿え申上ル

一 當四月上旬より五月下旬迄照續田方植付用水乏敷漸植付候處追々旱損におよび六月に至り雨天勝に相成植付後レの分順後れに而草生不宜六月廿二日より大雨出水其後七月中晴間無之稻草水腐虫附等にて不熟いたし海邊通り山附の場所立毛皆無同様に而破免檢見入相願候村々三十九ヶ村有之追々破免可願出趣其外一通り注進申出候村々百四十六ヶ村有之申立之通り相違無之候得共定免年季中殊に近年豊作引續候儀に付如何様にも指働引方不立様精々申聞置候乍然御年貢可相成米怪拂底に付御藏納并來丑年大坂御廻米減石可仕哉得と相糺實々納方手段無之候は、廣惠倉貯穀の内爲買受御藏納申付候様取計右に而も不足之分は定式石代納の外増石等も申付成丈ヶ御取箇引方不立様地方掛役人え申渡候間御勘定奉行えも申達候段水野出羽守殿え申上ル

一 八月七日大雨出水に而銀山内破損に及び鳥越間歩山上より土砂崩レ落石撰建場突埋銀山内川々出水夥敷兩側石垣片粹等所々缺崩往來筋橋六ヶ所流落口留番所前通り地所缺崩川通り板粹大石に而打破水道筋え落水有之留棚損土砂押出水路塞可申躰に付御普請仕越之積り爲取計候趣九月五日水野出羽守殿え書面進達

一 八月六日夜大雨にて北澤新道大橋石垣破損におよぶ

一 地役人儉約申合之義に付書付渡

一 戌亥兩年分山出燒金江戸表え相廻候様水野出羽守殿御書付を以被仰渡候に付戌年分燒金拾八貫六拾六匁六分亥年分拾五貫三匁八分此小判積り九千三百八拾九兩貳分永百六拾四文八分御藏方役人小崎六左此小判積り五千百貳拾九兩貳分永百四拾貳文貳分衛門長井五郎兵衛才領申渡八月十九日差立ル

一 米價高直に付市中困窮人共え廣惠倉貯穀の内を以救米を遣す

一 銀山水替無宿九人八月九日町奉行より受取中山道信州路通り差立候處武州本庄宿地内字御堂坂におゐて惡黨共拾人程長脇指鎧等拔連及理不盡目籠を打破無宿の内中瀬村松五郎大藏村藤次郎兩人を引連逃去其節宰領水品孫十郎は不快に而本庄宿晝休え着いたし間もなく右之始末及び雇足輕病氣代大間町孫兵衛儀惡黨共へ立向ひ指働手疵を受御關所通行相成かね候間江戸表え引返水品藤十郎は残り無宿宰領歸國いたし候に付右始末相尋道中奉行御勘定奉行え召捕へ方之儀掛合候様可仕旨松平和泉守殿え申上ル

一 御下ヶ金三千兩江戸詰歸り堀口市太夫宰領いたし九月朔日到着御金藏え納

一 勸喜心院宮薨去之旨御用狀に申來八月晦日より九月二日迄鳴物三日停止普請はくるしからさる旨を觸る

一 諸役人始在出先人馬遣ひ方其外取締之儀に付書付渡

一 諸宗とも本山より添簡無之旅僧一寺住職不相成旨極る

一 越後國二人乗十月六日小木湊風波にて囁掛り廻船七艘及破船水主貳人溺死宿根木村久四郎船水主之内一人溺死同村忠藏船水主一人溺死



(註記) 別本ニ「十月六日小木湊風波に而啣掛廻船七艘(越後國出雲崎三之助船三人乘同國新三郎船三人乘同國清左衛門船三人乘同國儀右衛門船三人乘同國松五郎船三人乘小木町清六船三人乘原黒村七十郎(長十郎か)船二人乘)及破船水主二人溺死(宿根木村久四郎船水主の内一人同村忠藏船水主の内一人)」とあり

一 於西丸御男子様御誕生表向被仰出は無之御名之儀は松平悦五郎殿と奉稱候旨十月十二日御奉書到來  
一 泉本正助兼々願望に依而佐州孔廟御額金聲玉振の四字并修教館額字紀伊大納言齊順卿御筆を被染正助在勤中に付悴泉本誠一御館え被召御渡に依て御藏方役人歸國の者え守護爲致十月十三日到來同廿一日於書院組頭始廣間役教諭所掛りのもの拜見御弘祝のため詰會諸役人儒者醫師迄於席々御酒被下

一 教諭所定役並役山方役所並役等新規申渡

一 破免檢見入相願候村方百八拾五ヶ村に及び其餘小村等檢見入不相願場所も作損は一鉢の義に而不熟の趣申立候得共定免年季中近年豊作打續候儀にも有之候間利害申諭し廣惠倉貯穀の内買請御藏納爲仕まは石代納申付當御收納無滯爲相納候積りにて五千四百五拾石増石代納申付來丑大坂御廻米可相成内減石の積り水野出羽守殿え書面進達

一 村々水損場所御普請御入用米百八拾石餘錢九百貫文餘御藏々より受取方御藏改の儀申上ル

一 植村駿河守殿御病氣之處御養生無御叶十月十二日卒去の旨十一月十日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る

一 御藏御圍糶十ヶ年圍置候分年々順繰りに相拂新糶に詰替候處古糶御拂直段格別相劣り御損失に付糶納の内五分通は正米に而爲相納廣惠倉に而取扱御拂代の内古糶御拂直段當之分は御圍糶代と唱へ御金藏え

別段相納正米御拂に付直段違御益の分是又別納に仕候積り去亥年再應相伺候處伺之通當三月被仰渡候に付十ヶ年の間納方割合并糶代納平均一ヶ年金貳百兩餘御金藏え相納凶作不時異變の御手當に備置正米拂に付候直段違御益の分一ヶ年金貳百五拾兩餘別納にいたし尤糶納之儀は三郡村々順繰りに相納候仕來に付年々納高不同有之御拂代は時々相場の高下可有之候間年々當證文御勘定所え相達御藏納の積水野出羽守殿え申上

一 去亥年相伺候廣惠倉有餘金の内より一ヶ年三百兩宛御金藏別納に仕内貳百兩は是迄振替遣ひの廉え御拂の積り取計候様同年九月御下知相濟候に付亥年分より御藏納の積り尤年に寄通商交易の多少相場の高下にて員數不同可有之候へ共前書金高を目當に年々當證文御勘定所え相達御藏納之積り水野出羽守殿え申上る

一 今年田方不熟に而國仲筋村方より賣米少く市中始海邊通元來米穀拂底の小村夫食差支近國通船無之時節小前困窮のもの及艱儀候趣相聞候間去ル卯年圍置候御藏御圍糶六千俵餘來春夏の内請取可相拂分此節繰越受取候上正米にすり立當子年正米御拂直段を目當に延代に而小前の者共え相拂爲取凌來丑年に至り代錢取立候積り水野出羽守殿え申上る

一 中尾間歩一十日鏈代五貫目以上に相成候に付酒鰯を遣す

一 海士町之儀往古より海士稼之者住來候處近來海士業手廣に相成多人數に及び右一町に住居餘り下戸番所内町並に住居いたし其外下戸炭屋濱町え散在いたす趣に相聞一鉢海士の儀磯遠之場所に而は不辨利にも有之所々散在いたし候而は職業申合も不行届筋に付下戸炭屋濱町の内地所割替以來新海士町と唱へ



下戸番所内住居の海士とも引移候様書付を以申渡

一 御普請所定番匠長坂町駒次郎義母え孝心の趣相聞妻儀も姑え貞實に仕ふる趣に付夫妻とも御役所え呼出鳥目を遣す

一 市中困窮の者え廣惠倉貯穀を以救米を遣す

一 在方より相川え出銀山稼又は日雇稼いたす百姓町人の二男三男厄介等の者其所より送り切手を證據に家主とも店借いたし宗門帳に加え候取極有之候得共是迄暁と請人と申も無之近來送切手も等閑に成身元不慎なるものも住居いたし候様相成候間兼而取極之通送切手取來慥成請人相立店借可爲致旨在町へ觸知す

一 燒金宰領のもの貳人え御手當銀三枚宛願之通被下候旨水野出羽守殿被仰渡

一 前々より金銀山御入用繰合に相成候諸役人出目錢并市郷出金等都合壹萬貳千兩程の分戻入方去年中申上候趣に而は長年賦に付再應取調之上諸向振替拂等悉く爲相糺成丈ヶ年限相縮候様取調方申渡

一 去亥年大坂銅座え相廻候去ル酉年分山出荒銅代金四百貳拾四兩銀拾七匁六厘七毛之内金六拾五兩壹分銀七匁五分九厘は直増御手當之分兼而伺濟の通銅山稼御仕入方え引取殘之分子正月十四日蓮池御金藏え上納

文政十二己丑年

一 勝桓兵衛事去十一月十七日小普請奉行被仰付去十二月八日御勘定吟味役鈴木傳市郎佐渡奉行被仰付

貳百俵高に被成下候旨正月廿日御奉書到來

一 去十一月廿二日水野越前守殿御懇之以上意連判之列被仰付内府様え被爲附松平伯耆守殿御懇之以御謔所司代被仰付候旨御奉書を以被仰下二月廿日到來

一 去十一月廿八日從徳川民部卿殿永姫君様え御結納差上られ候旨右同日御奉書到來

一 諸國酒造の儀酒造人は勿論休株のもの其外是迄渡世不仕ものに而も勝手次第可致酒造旨文化三寅年相觸候處右寅年より相始候休株ならひに渡世不致者酒造之儀は追而及沙汰候迄急度無用たるへき旨御觸有之

一 近來引續御儉約被仰出候得とも累年御入用も相増御縁邊向御慶事其外御普請御修復等にて不時の御用途折重り候に付去ル申年より子年まで嚴敷御省略有之候處彼是不時之御物入莫大に而御用途差湊御勝手向御繰合不被行届依之當丑年より巳年迄五ヶ年の間猶又御儉約被仰出候間諸事去ル未年被仰出候通相心得年限勝手向難澁等の申立は勿論不依何事無據申立を以拜借相願候とも被及御沙汰間敷候間右に准都而臨時御入用に拘り候諸願ひ筋も差扣面々にも彌儉約相用ひ候様去十一月被仰出候旨水野出羽守殿御書付御別紙とも到來

一 貳分判金吹増被仰付是迄の貳分判は金座極印之文之字眞字に候處此度より小判一步判同様草字に相直候等候間是迄の貳分判と無差別取引通用いたし候様御觸有之

一 瀧平村市左衛門祖母みゑ當年百歳になり稀なる長壽に付鳥目拾貫文遣す本屋敷村五左衛門母さん外六人九十五才に成老養扶持遣し青龍寺村三左衛門祖父與左衛門外九人九十才以上に成何れも極老に付爲



手當金子を遣す

一 大須村七右衛門奇特之取計有之趣ニ付褒賞ニおよび下戸町龜藏同所濱町作右衛門妻かん羽田町與三郎同人妻たつ鹽屋町嘉右衛門柴町武兵衛坂下町八平後家まき孝心奇特の趣相聞鳥目を遣す

一 去冬以來近年無之大雪に而海荒烈敷渡海數日差滯米少の村々他國米買入難相成彌米穀拂底有之追々農業切開に向ひ海邊附村々は漁業専らの時節に差臨み夫食必至と差支難儀の趣に付萬一飢餓の憂にも相及ひ候而は不容易素より非常御手當に御備被置候御圍糶之儀に付來寅年に至り請取可相拂去ル辰年分御圍糶六千俵餘の分此節繰越し受取正米に爲摺立爲取凌申度御拂ひ直段吟味之上延代に而小前え相拂ひ來寅年に至り代錢取立御藏納の積り水野出羽守殿え申上ル

一 二月中日々雪降積り銀山内鍛冶小屋并人家壹軒雪なたれに而押潰す

一 市郷米價高直に付當分御藏出米は御年貢米の内え納替爲致右代り糶摺立米を以相渡候積り直段格別引下ヶ買請人とも勝手筋に相成候様取計ひ右納替丈ヶ之分郷中米拂底の向え拂米行渡り双方とも取凌出來直段立方は上米直段ヲ目當に極摺立米代を引下ヶ町方の者えは其内にて百石拾兩宛猶又下直に相拂ひ役人御扶持方御役扶持等代錢渡之分は正米値段の積りを以渡遣す

一 古貳朱判通用當二月限りに付所持のもの此後不用の品と心得細工銀などに取交吹潰候様相成候而は不容易筋に付床屋向其外山吹銀吹立の場所に別而嚴重に相心得當十二月迄引替所も有之義に付所持の者は御役所におゐて引替可相渡旨觸しらす

一 二月十八日夜窪田村三七郎方え大坂無宿力持定吉押込及狼藉候節三七郎ならひに同人悴藏次郎妻つ

一本刀侍

ちは召捕方手筈取計ひ藏次郎并別家三十郎は力持え立向ひ刃物に而疵受候程相働三七郎二男勝次郎駈付刃物取上ヶ差押へ三十郎悴六太郎は定吉を組留候節五人組權七も差働一同常々心掛よろしく惡黨ともを即時に捕押候始末格別之働に付鳥目を遣夫々褒賞に及ふ右一件取調御用番え伺書進達御下知濟の趣は寅年の所に記す

一 去年分御年貢米の内六千貳百七拾石大坂御廻米に成去年國中凶作に而増石代等申付減石に依而河原田より積出無之

一 青盤鳥越中尾三ヶ間歩地水替賃錢御改高の内去ル末年より伺之上米錢半々に渡來候處地水替とも勝手筋にも罷成候間雇入方辨理も宜敷御入用御繰合の爲にも相成候間以來は右賃錢御改高一圓米渡に仕度旨水野出羽守殿え書面進達之處不被及御沙汰旨御同人御書取御渡有之

一 米姫君様御病氣の處御養生不被爲叶三月五日逝去の旨同十四日御奉書到來鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る

一 町同心とも居宅是迄は町方の内所々に引離れ住居致來候處申合も不行届不締之趣も相聞候に付陣屋下西南の明地え一同引移り住居いたし候様申渡引越料遣す十一月までに引移濟

一 大須村七右衛門舊家に而小前百姓を勞り困窮之ものえは金錢米穀等を贈り西三川金山かなこ共えも年來仕送りいたし遣近郷の者も歸服いたし取締にも相成趣相聞大倉村梶原平藏常々質素を守り凶年の備として雜穀貯置去秋田方作損に而小前のもの共夫食差支に付稗百五拾俵程追々貸渡猶取續兼候ものへは合力いたし遣趣相聞鷺崎村彌平次村内は勿論近郷四ヶ村の者夫食差支に付他借をも加え米買入都合貳百



俵延代に而貸渡す趣相聞奇特に付銘々褒賞におよぶ且身元相應の百姓共食料の外米穀餘分の貯有之趣相聞候ものは改の上爲賣拂小前の者難儀に不相成様申渡

一 新規下戸定番役申渡

一 三月廿四日悦五郎殿逝去普請鳴物御構ひ無之旨江戸表より申來

一 地役人近國御用に差遣候節是迄御入用取極無之に付都面他國御用に付被下物御藏改之義取調水野出羽守殿え書面進達之處被下物割合の儀里數に寄差別も有之事ゆゑ御勘定奉行えも相談今一應調査相伺可申旨九月十四日水野出羽守殿御書取を以被仰渡

一 他國より立入候旅人共の内には紛敷者も有之不取締の趣に相聞候間長逗留不爲致米價高直の砌旅人のため食料を費し土地の難儀に不相成様其筋え申渡

一 陣屋後通り海上え臨み候處圍ひ粗薄に而要害にも拘るに付石垣築立堀掛替る

一 金銀山之義是迄之衰廢之餘風引起永續之主法を専ら取行ひ品々御仕入をも申上候ニ付夫丈ヶ出方相増御元入の詮も相立候様取計候而は通例ニ而難立及程之出方爲相勵手數も多く相掛候故年分出稼取締方別而金銀吹所取扱嚴重取計去年分出來金銀目當高凡壹萬八九千兩程之出方ニ而ハ入用拂方差引三千兩程之御益ニ相成候積リ右敷内景氣取直候義ニも無之全以下金并米價主法取計方其外出金等御仕入ニ相成御入用掛ヶ方人力勵方を以上納之高をなし候義ニ有之此後年々右之通御仕入元え差加候義も先ッ容易ニ無之御元入餘慶ニ隨ひ金銀出來高ニは可相改候得共差當り五千兩之御下金年々ニも有之猶又夫々都合取計候義ニ而自然と至難之所置ニも及ふ又々振替拂等之弊も可有之哉ニ付去年以來取調之上振替拂金壹萬

貳千兩之分戻方目當有之分ハ返濟申付市郷出金上ヶ切ヲも願出金振替高六千五百兩之分ハ八ヶ年ニわり合返濟方主法相立此未御入用仕掛方之義寛政度省略ニ倣ひ候而は又々衰微を招候端ニ付出方ハ公成丈ヶ爲相勵候積り候へ共一旦押張候稼方不差弛候而は御入用吟味之際も不相分候間先當年ハ御收納高を元ニ立御入用御加遣拂別段御差入等不申上積り左候へハ出方凡壹萬三四千兩程ニも可相成當時景氣相應積り候間ニ而夫より相増候而は事實相違之取計も生し都而相當之義ニも可相成哉尤直りを得候敷所も有之候ハ、右之趣ニ不拘金穿大工相増御損益ニも拘り候ハ、猶又御下ヶ金ヲも申上出方相増候様可仕午年以來事實相試往々金銀山永續御金藏御繰合も立直り候様仕度趣進達書面取調泉本正助歸參之上水野出羽守殿へ上ル

一 佐州御金藏當一ヶ年元拂書付并出方御入用さし引凡積り書付前條進達書面ニ添上ル

一 御藏米元書直段下直に有之御收納高え響き御繰合も不立候に付去ル午年相川濱え會所取建廣惠倉と唱掛り役人并引請人晝夜爲相詰米穀板木其外何によらず買入置御藏米直段之高下市中有米高の多少見計ひ御拂日々出來直に買上米拂底の村方え賣渡直段掛引爲致候處近來自然と元書直段相進御收納高相増候間湊々通商元貸市郷孝子奇特之者褒美錢孤獨窮民ならひに九十才以上之もの手當救料等爲取計村々去秋田方不熟に付廣惠倉貯穀其外他國米をも買入田畑所持不致困窮之もの貳千百貳拾九軒え救米四百六拾石餘遣し市郷難澁之者共えも金貳百兩錢貳千八百拾貫文餘其外掛り役人手當會所入用納屋向破損修復料等貳千三百六拾貫文餘相拂猶殘り之分金三百兩錢九千八百貫文餘有之趣に付右之内金三百兩は去々亥年益金として御藏納錢七千貫文は廣惠倉元金え加へ貳千八百貫文餘此金四百兩餘は去子年分爲益金御藏納之



積り且金銀山入用え繰合候出目錢并市郷出金等都合壹萬貳千兩餘戻方目當無之に付廣惠倉益金一ヶ年三百兩宛別納の内より貳百兩宛差廻候積り去々亥年伺之上御下知濟之處皆濟の期程遠に付去年以來爲取調壹萬貳千兩の内金錢合貳千五拾兩餘は諸間歩仕入貸附錢并粉成所吹所向仕事師とも元貸金錢等に而年來相立當人死失老衰等いたし返納差滯候趣に候へは其代に立入候もの返納可致取極有之近來金銀山御手厚により返納可致旨申出金三千四百四拾兩餘は市郷出金の分にて是又金銀山手廣に相成潤助を蒙り候冥加之ため上ヶ切いたし度旨願出殘金六千五百兩全振替拂償方目當無之分に而一ヶ年貳百兩宛廣惠倉益金に而戻入候而は三十年餘相掛り候間廣惠倉益金并市中出錢其外御金藏假拂ひの内へ致返納候諸向減錢之分皆濟に至り候得は打合候而八ヶ年に割合初年は八百兩二ヶ年目六百兩三ヶ年目四ヶ年目七百四拾貳兩三分宛五ヶ年目八百七拾貳兩三分六ヶ年目八百六拾兩壹分七ヶ年目八ヶ年目九百四拾兩三分宛都合六千五百兩償戻シ之積り爲取計年限中流弊不致様嚴重申渡候旨進達書面取調泉本正助歸參之上水野出羽守殿え上ル御勘定奉行えも書面を以相達ス

一 市郷身元相應之もの貳百三拾三人金銀山御仕入の廉え出金いたし度旨去ル酉年以來追々申立出金爲致候分都合三千四百四拾六兩貳步此度冥加之ため上ヶ切度旨願出奇特之義に付御褒詞被成下候様仕度旨書面泉本正助歸參之上水野出羽守殿え上ル丑十一月三日御賞之不被及御沙汰<sup>手限方</sup>年限に而褒置候様被仰渡

一 米價騰踊之節相場引下方の主法無之候而は社倉常平之主法不相立儀に付當分の内御藏御拂米の分米買之ものを爲放一圓廣惠倉え引取市中融通に相成候米は御拂米買受候もの共定法之賣出爲請取小前者えは廣惠倉貯米糶摺立米をも直段安に爲買請右出米相川一統え相及候事に付自然米價引下可申奸商と

も在中え拔賣等取計市中米價尙不相當の事無之様心付元書直段調方の儀是迄書役のもの取扱候へとも年分御收納ならひに市中一統の目當の元書に而不容易筋に付以來市中より書上方前々之通町年寄とも上中下三段の相場爲差出町方掛請取一通り申聞直に封置一ヶ年四度切替の節廣惠倉掛り打合元書相極格別直段引上候節は前月一ヶ月分下米直段相交相應之元書直段相成候様掛り廣間役内評いたし猶奉行組頭評議之上時宜に應し取極候積り町方掛り廣惠倉掛り廣間役え書付渡す

一 廣間役井上儀右衛門堀口彌右衛門井口茂十郎西川藤兵衛當時住居掛り抱地拜領地申付是迄拜領地は上ヶ地の積り申渡右は年來重役相勤別て午年以來別段の骨折も有之出格の譯を以申渡願に寄申付候筋に無之間以後の例には不相成旨書取渡す

一 至聖神像佐州に而は彫刻調兼ルに付兼々役人共より泉本正助え内願に依而江戸表留主屋敷におゐて細工人え彫刻申付御藏方役人歸國之節守護いたし四月十八日到着

一 紀伊大納言齊順卿御筆金聲玉振の御額并修教館御額孔廟厨子共四月廿二日までに落成に付同廿四日聖像遷座

一 佐州御藏方に而相用候斤量<sup>原本のまゝ</sup>拾挺御勘定奉行掛合之上江戸淺草御藏より受取

一 金銀山出鏈賣立方并目利方近來流弊およひ年分混合候様ニも可至哉ニ付急度相改候様銀山吹所え申達す

一 金銀山出方文化度衰微に及び土地之もの共産業を失ひ離散いたし候者も多く有之様成行候に付伺之上古間歩等をも取開窮民御救旁敷内途穿鑿去ル午年以來上納高御益金も相増候へ共寛政以來御移金等に



而佐州御金藏御縁合不宣候間追々伺之上御下金被成下御手當筋地拂米も寛政以前の高に復し候に付銀山吹所向諸入用の内二十分一除錢を以中尾間歩水貫間切々延雲子間歩の義も永々本途稼被仰渡諸間歩金穿大工寛政以前の通り一ヶ年三萬人相仕掛候様三ヶ年の間伺之通り被仰渡候に付金銀山御仕入も行届先年退轉及び候人家も建連り去年以來米價高直とは乍申金銀山稼の餘澤并廣惠倉取計等を以銘々土地相應の渡世を營罷成候様相成是迄は衰廢の餘風を引興シ稼方手廣の主法専ら取行ひ品々御仕入をも申上候に付通例に而は難立及程之稼方爲相屬手數も多く相掛候故年分出鏈翌春に至り山下ケいたし候様にも相成別而金銀吹所向取計嚴重に取計去年分出來金銀目當高壹萬八九千兩程の積りニ而御入用拂方差引三千兩程の御益に相成候積り全く御下金并米價引上御收納相増且越後水原郷之者共上金當國市郷之者共出金等も御仕入元に相成御入用仕掛方人力勵方を以上納の高を成シ候儀に有之此後年々引續右之通御仕入元之差加候儀も先は容易無之一躰文化程度廢絶同様之砌流離艱難に逢るものとも追々入代り御仕入御手厚は常躰と差心得出方さへ相増候へは御入用筋規矩に拘り不申候とも不苦様心得違之程も難計御元入餘慶に隨ひ金銀の出來高には可相及候へ共差當り御下金年々にも有之猶又夫々の都合取計も可仕儀に而自然と至難の所置にも相及候故又々諸向振替拂等後々の弊も不容易儀に付去年以來取調之上振替拂壹萬貳千兩償戻の儀戻方目當有之分は返濟申付市郷出金上ケ切をも願出全振替高六千五百兩之分八ヶ年に割合返濟方主法相立其外諸品物代諸貸附等舊に復し御入用御費無之様爲取計併寛政度省略之模様に倣ひ候而は又々衰微を招候端に付御入用筋吟味爲仕候迄に而出方は可成丈爲相屬候積り候へ共一旦押張候儀不差弛候而は御入用吟味の際も不相分候間先つ當年之義は御收納高を元に立右之内を以御入用遣拂別段御元入等の義

は不申上積り左候得は出方凡壹萬三四千兩程にも相成可申候得共近來押張相屬候稼疲も相見當時景氣相當之積り高に有之夫より相増候而は事實相違之取計ひも生し却而往々不相當の義にも可相成哉尤俄に直りを得候敷所も有之候は、前書の趣に不抱金穿大工増仕掛爲仕御元入多少に寄御損益にも拘り候は、今年之内にも猶又御下金をも申上出方相増候様可仕いつれ當年之儀は猶事實に應斟酌いたし往々金銀山永續御金藏御縁合も漸々立直候様仕度旨進達書面并佐州御金藏一ヶ年分元拂其外出方御入用差引凡積りとも書付相添泉本正助歸參之上水野出羽守殿え進達之處書面之趣被御聽置以來御下金之義は不申上可成丈御收納之内を以取計ひ候様被仰渡候に付承付上ル

一 地役人江戸詰の者手狭の町方に止宿候而は御用談合不辨理の儀も有之に付武家地面之内明家作借受旅宿爲致候積り水野出羽守殿え書面を以申上ル

一 諸間歩出鏈様吹定問吹所而已に而は日間取其上の切の目當にも相成兼候に付二手に引分粉成吹相試候積りを以定役壹人相増本途勝場の内一軒別問吹所に極る

一 鈴木傳市郎正恒四月朔日御暇に而同十九日江戸表出立三國路通り旅行同廿五日越後寺泊え出津同廿七日佐州赤泊湊え渡海翌廿八日相川御役所え着泉本正助交代相濟同晦日相川出立五月二日小木湊より出帆

一 五月八日嚴有院様百五十回御忌ニ付相川山之神御靈屋へ奉行組頭拜禮其外之者教壽院まで相越ス  
一 享和三亥年御目付え相達置候佐州支配向由緒書加筆相濟返達有之銘々得と熟覽の上又候其儘差出候様金森甚四郎小田切土佐守會根内匠本目帶刀より達有之



- 一 去子年分山出灰吹銀貳百四拾七貫六百四拾三匁御傳馬宿入用金三拾七兩壹分銀拾匁八分三厘五毛江戸詰役人佐野勝右衛門桑山牧太宰領に而六月十八日差立ル燒金拾五貫三百七拾五匁四分此小判積り四千三百六拾五兩貳分永三拾文九分佐州御金藏に積置出方御入用差引金三千拾八兩壹分永四拾九文五分御益に成江戸詰佐野勝右衛門永井庫之助御勘定仕上ル
- 一 子年分山出銅貳千六百三貫九百目此金積り五百四拾貳兩壹分永貳百三拾文
- 一 世上通用のため南鐐上銀を以壹朱の歩判吹立被仰付候間右歩判十六を以壹兩之積り通用可致旨御觸有之

一 當二月より鳥越間歩吉之亟敷東之間切取立壹丈餘切延候處六月廿三日鏈に切當追々様子も相應に付七月五日山師とも先例に任せみくれ鏈熨斗鮑饅頭樽酒相添御役所へ差出銀山方廊下におゐて組頭謁之山方役穿鑿掛り番所役等出ル同七日掛り役人始山師末々の者迄夫々褒賞に及ぶ

一 徳川太真殿御病氣之處御養生不被爲相叶六月二日逝去之旨同九日附御奉書同十七日到來普請一日鳴物七日停止を觸る

一 目付役年番掛り場所當分一ヶ月宛代ル々々立會の積り極ル

一 七月十七八日頃炎原本のまゝ一ニなりし所加茂郡大野山大雨にて東海邊通村々之内洪水溢れ田畑道橋損所有之柿野浦村に而ハ民家壹軒流失ス

一 鳥越間歩銅稼大冠勘七郎敷當二月廿八日南北地山割れ目相廻り落石有之留山甘キ危急に付御入用積り金三百五拾四兩餘を以仕越御普請の儀水野出羽守殿へ申上ル廣間役白石吉郎其外役々掛り申渡

一 南鐐壹朱判江戸表におゐて七月十日より通用有之手本銀御勘定奉行より來ル

一 遠國先々え廻し兩替取引いたし候もの見置のため一朱判四枚掛ケ御勘定奉行より差越ス

一 今年豊作七八十才之老農もいまた見さりしなりと云

一 西三川砂金山衰微に付稼所取開并眞野江道用水路御普請有之御入用高七百七拾壹貫八百拾七文

一 鈴木傳市郎定例之通巡村可致處去秋國中一般田方不熟に而村々難儀の趣に付來春巡村可致趣青山下

野守殿へ書面進達

一 青盤間歩釜ノ口化粧棚結ひ替ル

一 九月二日諸役人砲術見分同十二日武術を試ル

一 廣間役千賀源左衛門厄介召連江戸表へ罷出候様水野出羽守殿御書付を以被仰渡九月廿四日佐州にお

ゐて申渡十月二日出立同六日小木湊より越後出雲崎へ渡海

一 九月十八日大納言様御宮參相濟候旨十月七日御奉書到來

一 十月九日夜高波に而海邊通り損所有之

一 水戸中納言殿御病氣之處御養生不被相叶十月十六日逝去之段十一月八日御奉書到來普請三日鳴物七日停止を觸ル

一 千賀源左衛門十月廿三日御天守番被仰付候旨江戸表より申來ル

一 佐州御年貢大坂御廻米是迄は廻船御用達の者引請に有之處今般松平越中守領分越後刈羽郡柏崎庄屋規右衛門手船を以一式引受納之義御勘定所へ相願追々吟味之上爲御試三ヶ年之間引請に相成海上難破船



等有之候とも辨米の積り有之間船中取締向等は迄引請のもの同様申渡候様御勘定奉行より通達有之

一 十二月十四日御年貢其外諸納物御金藏え納高金貳千兩に立及び當地に而稀なる事也

一 御金藏納金貳千兩以上錢五千貫文以上正金錢納相成候節は一ヶ年一度宛は大積御入用之内より御酒代被下候積り極ル

一 加州本吉尾山屋勘兵衛船六人乗三月六日龜脇村沖合に而及破船澤崎村沖にて乗組水主の内壹人帆桁に而海中え被刎落溺死殘五人無別條上陸

一 郷中出錢の儀當丑年分水替入用別段補拂に不及候に付先ツ出錢不取立積り尤此末水勢の模様により水替錢足拂相掛り候へは品に寄申付候儀も可有之旨在中之ものえ申渡置

一 大坂より差下無宿三拾人之内貳人は船中に而病死殘貳拾八人夷御廻米積請大坂天満屋市兵衛船え乗四月十八日澤根湊え着翌十九日山方役御目付役出役宰領のものより請取水替掛りえ引渡

一 四月廿三日田中從太郎廣間役當分助申渡

一 非人とも平日在町物もらひに相廻ル節不法の儀有之其上定を背キ髪を結平人に紛敷いたし不届に付以來平人はざんざり亂髪にいたし一ヶ年兩度改を受且小屋頭久六持傳のよしに而惠比須の像を板行いたし在町え配り候趣非人の身分不相應に付板行取上在町海邊通り等に而百姓とも差障りに不相成見捨地等にて作付相成候場所所有之候は、可申立吟味之上品により及沙汰候儀も可有之旨申渡

一 當五月嚴有院様百五十回御忌御法事御執行付而赦仰出

一 泉本正助義佐州御役所より歸府旅中にて鈴木傳市郎兩名の御奉書到來に付拜見旅中より御請呈出之

義仕來を以差上候得共同席日光奉行浦賀奉行何れも旅中にて御奉書到來之節御披封仕御奉書之趣拜見而已にて旅中よりは御請等不指出趣に有之畢竟御請は在勤同役の所置に有之候間以來旅中に而は御奉書拜見直に佐州えさし遣在勤之ものより御請差上候様可仕段松平和泉守殿え正助より書面進達之處御聞被置候旨被仰渡

一 相川牢屋所々痛損候に付建替の儀相同候處伺之通水野出羽守殿被仰渡御入用金五拾六兩壹分永九拾四文米五石六斗四升六合御林木尺貳百拾本貳分三厘餘は御金藏過料錢之内より御拂になる

一 米郷村漁師三人獵船に乗組小田村え相越五月五日朝同所より沖獵に出候處同日四つ時より北風強く類船は歸帆いたすといへとも右船一艘行衛不知

一 下八幡村作藏梅津村季平次妻まで金丸本郷善太郎孝心奇特の趣相聞に付烏目を遣し褒賞に及ふ

一 正明寺村荏桐畑に而出來立候油五樽始而御役所え相納銀山御入用油になる

一 嚴有院様百五十回御忌御法事首尾能被爲濟候旨五月十一日附御奉書同廿一日到來

一 七月廿三日淺姫君様御平産男子出生の旨廿四日附御奉書八月三日到來

一 加州石川郡大野浦傳右衛門船四人乗八月十一日夜高波に而堂釜浦字笹塚において破船尤溺死之ものなし

一 於西丸御男子様御誕生表向被仰出は無之御名之義は松平直丸殿と奉稱旨七月廿九日の御奉書八月十五日到來

一 江戸無宿拾貳人江戸詰吉田藤助才領八月廿日相川え着



- 一 腰細村權三郎船六人乗八月廿九日夜大風に而湊町磯際において破船乗組の者別條なし
- 一 濱手三御番所大筒如例年火通しいたし試
- 一 江戸上納金銀差立の節船中安全のため小木湊后明神社において例年小木着翌日祈禱いたし來候處神職島山石見願に依而御金着當日祈禱いたし候義に成
- 一 蕙場村之義先年より奉行渡海之節引船さし出方格別心を用ひ年々一番に漕寄一躰村方申合行届取締も宜趣相聞ルに付名主并惣百姓え褒美として鳥目を遣す
- 一 陣屋裏門立替外圍板塀石垣奥並になる
- 一 右御普請中十月廿六日夜假圍ひ外に長九尺計りの古階子一丁有之怪敷義も相聞ルに付御金藏増泊番有之

- 一 西三川砂金御買上代古來より定之割合に而相渡來候へ共近年諸色高直の時節稼人及難儀尤出方相進候得は御益も不少分増代等遣候而も御損失には不相至以前増代遣候例も有之に付當分之内取揚砂金一匁錢貳百文宛穿鑿入用の内より増錢相渡砂金取揚方進候様可相勵旨申渡
- 一 十二月十五日夜中原村談議所坊末眞言宗下寺町福泉寺出火御役所十丁以下に付組頭始廣間役其外諸役人相詰ル御雜藏近火に付御藏方月番組頭同所え相詰消防差圖におよひ尤類燒無之
- 一 組頭出火に付其場所消防御藏々え相詰候せつ使役一人つゝ召連候處途中取締方其外消防に付候而も使役壹人にて手足り不申候に付以來出火の節は町同心兩人召連候事に極る
- 一 銀山水替として大坂より引渡候無宿とも是迄佐州御廻米船便船を以差送有之候處御廻米積受方柏崎

町規右衛門手船を以大坂表え積廻候積り相成候間無宿差送り方は迄の振合と違取計方も替り可申哉に付心得のため大坂奉行え達シ及置

- 一 御米藏御入用榭前々は淺草御藏より受取來候處十八年己前文化九申年根岸肥前守町奉行勤役の節掛合有之候に付牧野備前守殿え伺之上於佐州樽與左衛門出張所出來右以來佐州にて榭仕立候に付御入用榭申付候節代料相渡候有無江戸表の振合御勘定奉行え及問合候處江戸御藏々に而相用候榭は無代上納に無之前々より御賣上に相成候よしにて定直段書付相添挨拶有之
- 一 六月二日小笠原相模守殿若年寄被仰付候段御用狀に申來ル 但本多遠江守殿病氣にて被引込候御跡なり
- 一 青盤間歩水替樋場通并道中筋金九拾兩餘を以御普請申付ル廣間役堀口彌右衛門其外役々掛り申渡
- 一 中尾間歩盛太郎敷大西煙貫并同所十番車其外道中筋冠掛樋道等金七拾九兩餘を以御普請申付廣間役西川藤兵衛其外役々掛り申渡す
- 一 去子年大坂銅座え相廻り候去ル成年分山出荒銅代金五百貳拾六兩壹分銀拾四匁七分五厘の内金六拾九兩銀六匁四分は直増し御手當の分銅山稼御仕入方え引取残り之分丑正月十四日蓮池御金藏へ上納
- 一 當丑年大坂銅座え相廻り候去々亥年分山出荒銅代金五百五拾四兩壹步銀八匁四分四厘壹毛之内金八拾六兩銀八匁三厘は直増御手當の分銅山稼御仕入方え引取残り之分丑十二月十四日蓮池御金藏え上納
- 一 澤根姫津扱下村々并相川漁師共鳥賊獵場におゐて焚火いたす義を差留る



佐渡年代記卷之十六終

佐渡年代記 卷之十七

文政十三 庚寅年

十二月十日  
天保と改元

- 一 正月元日朝御奉書御用狀到來去十一月廿七日松平大膳大夫養子松平保三郎方え和姫君様御引移即日御婚禮相濟十二月十六日於御前水野出羽守殿御懇の以上意御加増一萬石拜領之堀田攝津守殿三千石御加増被下候旨御奉書を以被仰渡
- 一 丑十二月四日御普請役小池小次郎佐渡奉行支配與力格廣間役被仰付勤候内役金三拾五匁被下爲引越料金五拾兩被下候段松平和泉守殿御書付を以被仰渡候旨在府より申來る
- 一 古金銀貳朱判引替残りも可有之に付去十二月まで引替所へ被差置候處尙亦當寅十月までは是迄の通被差置候間古金銀貳朱判は勿論眞字之貳歩判とも所持のものは早々引替可申もし貯置不引替ものは急度可被仰付旨去十二月の御觸到來に付佐州國中え相觸候處少々宛引替申立るものも有之といへとも多分は古金銀貯無之旨書付を差出ス

一 切支丹宗門の義從先前雖爲御制禁今度於上方筋右宗門のよしにて異法行候もの有之即被處嚴科に就而は右宗門の儀彌遂吟味自然疑敷もの有之は其筋へ可申出品に寄御褒美被下仇と成さる様可被仰付若見



聞におよひなから隠置他所より顯るゝにおゐては其所のものまでも可被行罪科旨去十二月の御觸到來

一 廣間役の内公事方掛り年番兩人に極る

一 江戸表より被遣候廣間役兩人の義は都ての御入用掛り相心得其外掛り々々えも立入可申旨書取を出  
ス

一 峯姫君様御事峯壽院様と奉稱候旨御書付を以被仰下

一 鹿伏村佐次兵衛獵船正月廿日漁業に出大浦村沖合におゐて難船乗組のものとも外船に助乗せられ助命船は行衛不知

一 下川茂村佐助母かん上八幡村彌左衛門祖母しゆん赤泊村菊屋六左衛門祖母ちへ九十五歳に相成に付老養扶持を遣し田中村與五右衛門祖母まさ外二十三人九十歳已上に相成長壽に付金子を遣ス

一 新町篠屋金兵衛去る已年名主役申付る處御用筋大切に取扱村方取締よろしく候に付忰秀歳名主見習其外下中興村名主與次兵衛鷺崎村三郎兵衛小木町權左衛門いづれも奇特の趣相聞に付鳥目を遣し褒賞におよぶ

一 去丑年御年貢米の内八千貳百拾石大坂廻しになる但當年閏月有之相川御藏詰米相増且去年廣惠倉貯穀を以米千石去々子年分と爲替に取計ひ去丑年分を以引戻し候に付御廻米減石依之今年も河原田よりの積出無し

一 二月九日朔京都本國寺末日蓮宗下寺町妙福寺出火御役所十丁内に付組頭はしめ廣間役其外の役々相詰る御雜藏近邊に付御藏方月番組頭出役尤類焼無之

一 去々子八月佐州へ無宿御差下の節武州本庄宿地内御堂坂におゐて惡黨とも立出才領堀田孫兵衛へ疵爲負無宿の内中瀬村松五郎外一人を奪ひ取候一件榊原主計頭方にて吟味有之差添水品孫十郎は當地にて吟味の上口上書取立丑三月主計頭へ相達候處去十二月廿六日御下知相濟孫十郎若黨にて囚人宰領いたし候堀田孫兵衛は江戸十里四方追放并出生相川大間町構雇足輕玉置善助は押込當正月廿二日主計頭申渡有之水品孫十郎は押込被仰付候間當地にて申渡候様達書二月十二日到來に付則申渡其段御取扱松平和泉守殿へ御届書面差立る

一 右玉置善助押込差免三月十四日榊原主計頭申渡有之水品孫十郎押込差免申渡候様同日達書閏三月四日傳市郎巡村先岩谷口村へ到來に付組頭へ申達申渡相濟松平和泉守殿へ御届書面さし立ル

一 去丑二月相伺置候大坂無宿定吉力待人家へ押込盗いたし其上人に疵付候一件御仕置伺の通可申付旨御下知書去十二月廿七日青山下野守殿より御渡並右兩人を捕押へ候窪田村三七郎二男勝次郎三十郎忰六太郎へ御褒美錢貳拾貫文宛佐州御金藏別廉納金の内爲取可申旨御書取御同人同日御下に付在府筋承付いたし右御下知書相添申越候御用狀二月十二日到來に付同十九日定吉は獄門存命に候へは力待も獄門可申付處病死いたし候に付其旨可存段一件のものへ申渡勝次郎六太郎へ御褒美被下候段是又同日申渡其段銘々御届書さし立る

一 伺の上死罪已上に相成候もの有之節已前は裁許所におゐて奉行申渡廣間役給人目付役牢屋敷へ出役いたし御仕置見届無宿とも年限にて死罪申付候分は廣間役牢屋敷へ出役申渡給人目付役檢使にて見届來候處去る午年より伺之ものも廣間役牢屋敷へ出役申渡檢使兼合候得とも伺もの年限とも御仕置筋は同様



の儀にて差別可有之義にも無之檢使の儀は變死人其外廣間役罷出候義無之に付己來廣間役は牢屋敷へ出役御仕置申渡引取候義に相成

一 諸寺院の僧侶不律不如法の義に付天明八申年寛政十一未年取締方申渡置候處近來慎方相弛候哉女犯破戒におよひ罪科に被處候ものも不絶有之夫のみならず利欲に耽り不相應の金子借入返濟方等不實等閑にいたし且僧徒の衣鉢は夫々宗門の規矩も有之儀の處小寺の住持或は所化僧とも内には俗人に紛敷衣服并被布等を着し剩へ市中茶店等にて飲食を恣にし僧侶に有間敷行跡畢竟本寺役寺觸頭其外法類寮主等また等閑に心得候故の儀に付己來教示行届風義立直り堅固に相慎寺務相續候様可申合旨寺社奉行より諸觸頭え申渡有之候段申來る

一 二月十九日江戸水替定吉御仕置の節町同心出川金吾は兼而太刀取心得なから場所におゐて手痛のよし申立相斷候間固メ出役のものともへ代の義檢使目付役より及差圖處銘々病氣のよしにて相斷延滯いたす始末全前段太刀取を厭ひ場所に臨相斷ル心底に無之旨申立れとも必竟平日職役の心掛薄キ故右次第にも相成候儀にて柔弱の筋に相當り不埒に付町同心六人押込申付日數十五日爲慎置

一 新町村濱におゐて三月六日より日數五日大筒町打有之御鐵砲方并打方のもの出役いたす

一 鈴木傳市郎爲巡村閏三月二日相川出立大間濱より乗船小野見村に止宿翌三日は海荒に付陸にて岩谷口村まで相越ス處烈風大雨にて嶮岨の場所通行難相成同所に兩日逗留尙風波不穩御船廻着不致候に付陸にて鷺崎村まで相越夫より海岸國仲筋等相巡り西濱通りより同月十七日歸着廣間役白石吉郎其外の役々出役舊例のことし

一 閏三月十日椿尾村濱におゐて大坂江戸屋正三郎船拾九人乗羽州酒田湊積御城米受負空船にて破船およひ候所溺死のものなし

一 閏三月四日見立村沖合に廻船貳艘沙懸りいたすに付百姓三人役目代として小船に乗組囁役儀取立に出能州黒嶋船に乗移る處南風烈敷吹募り高波に相成小船は元船に突當り破損いたし次第に沖合え被吹出翌五日粟嶋へなかれ寄十日まで同所に滯船十二日多田浦へ入津三人とも無恙上陸

粟嶋は越後國ニ屬シ御領所にて水原御代官所支配の儀も有之又は村上にて御預りの義も有之候よし嶋の惣廻り三里餘村二ヶ村あり内村外村と云ヒ田畑も少し有人家百軒計重に漁業を勵む由野馬多く牛はナシと云山畑の内一方は畑一方は馬ヲ放シ置隔年に馬ト畑トヲ移し替ルト云越後瀬浪浦え七里佐渡見立村より粟嶋へ二十六里

一 閏三月十七日下相川村漁師三人小船に乗組千本村沖合へ獵業に罷出候處難船におよひ乗組の内貳人溺死

一 越後國水原村百姓眞嶋權兵衛近藤甚助奇特の取計有之候に付永々苗字帶刀御免の儀去丑十月中水野出羽守殿へ書面進呈いたし候處永々帶刀差免候儀は難被及御沙汰永々苗字差免候様御勘定奉行へ申渡候間可得其意旨當三月十四日御書取を以被仰渡

一 金銀山水替人足無宿とも去冬己來流行病等にて多人數死いたし候に付人數多く引渡の義町奉行へ及掛合然處初發安永の度被仰渡の御趣意にては無罪の無宿被遣候積りの處近來有罪のもの多く自然と嚴制を犯し死刑にいたり候もの不少候間己來可成丈無罪無宿水替業可致ほととの健なるものとも多く引渡に



相成る様三奉行并火附盜賊改加役えも被仰渡候様仕度段安永中被仰渡の御書付寫相添申上る

- 一 諸國在々におゐて近來猥に野火付候もの多く諸人難儀の趣相聞候間以來野火付候もの見懸り候は、他領他支配の無差別踏込召捕其最寄奉行所又は其筋へ可差出旨閏三月水野出羽守殿御渡御書付到來
- 一 二見浦目付役木村龜兵衛去丑十二月廿八日浦方見廻の節米郷村濱におゐて珍敷龜一つ拾ひ取同日米郷村百姓壽助同所にて同一つ寅正月十五日小木町村甚吉龜脇村濱におゐて同一つ都合三つ拾ひ取差出す處前に江戸表え献上に相成候龜繪圖面に見合似より候品に相見え別而龜兵衛拾ひ取候龜は天明八申年正月久保田佐渡守在勤の節さし上候玳瑁に無相違相見へ候間肉を去り爲干立献上の儀書面を以て閏三月朔日土岐豊前守殿へ御内意相伺候處同六日御用無之旨にて御同人御下けの段同十三日出の御用狀に申來る
- 一 廣間役小池小次郎家族召連二月七日江戸出立信州路通り同十七日出雲崎へ出津三月四日同所出帆同六日相川へ着

一 去丑年御年貢小物成諸運上等三月廿九日迄に御藏々え上納皆濟即江戸表へ御届書面進達

一 四月二日夜加州石川郡宮腰久兵衛船三人乗同國同郡治兵衛船三人乗合二艘加茂郡川崎浦におゐて破船尤溺死人なし

一 桑山牧太無宿拾貳人才領閏三月廿二日江戸出立奥州會津通り新潟湊え四月四日出津同七日同所出帆同夜夷湊え着岸翌八日相川へ着尤無宿の内一人會津若松宿におゐて病死殘十一人山方役水替掛へ引渡道中傳馬御證文水野出羽守殿

一 他國旅人とも内地役人ならひに使役町同心牢守御船水主其外奉行組頭家來へ用事有之相越す節侍

分にて足輕已上のものは勿論中間躰にても主人有之飛脚に相越候ものならひに百姓町人たりとも親類書へ書載候程の類族は是迄の通番所方より揚り伺に不及直に相川表へ差出其餘百姓町人は己來外旅人同様揚り相同改方等取計候様極る

一 去丑御年貢米の内八千貳百拾石大坂御廻米に成

一 赤泊湊取囉去冬海荒にて及破損候に付御林木四十四本米壹石五斗七升五夕錢三百六拾五貫四百七文を以四月中御普請申付る尤浦方番所并往還道橋普請入用御改高の内繰合相渡別段御入用は不申上

一 泉本正助四月朔日御暇にて同廿七日江戸表出立三國路通旅行五月三日越後寺泊へ出津同五日佐州赤泊湊へ渡海翌六日相川御役所へ着鈴木傳市郎交代して同八日相川出立同十一日小木湊より出帆

一 井口新次郎義御雇己來金銀山向の義ならひに水津囃内再興等に付骨折相勤父茂十郎年來精勤いたすに付水野出羽守殿へ伺之上御切米貳拾俵三人扶持被下置御抱入五月七日申渡

但地役人貳拾俵三人扶持取元百貳拾八人の内壹人減有之候に付右明跡へ御抱入の様御藏改申上ル

一 五月四日溶姫君様被遊御平産男子御出生の旨五日附御奉書同十三日到來

一 京都東本願寺役僧五月中旬渡海着之上相川左門町蓮光寺北方村立蓮寺におゐて教示いたす

但役僧是迄旅人宿へ着いたし來り候處蓮光寺外一ヶ寺直揚り之儀願出るといへとも沙汰におよはず

一 兵部卿簾中四月廿三日逝去之旨松平周防守殿御書付御渡之旨泉本正助在府中大目付より達有之に付同人到着の上五月十七日鳴物三日停止普請はくるしからざる旨をふれる

一 市野澤村妙照寺江戸表へ出開帳に相越處紀州殿へ永御目見被仰付候旨届る



一 南澤町久次郎貳丁目惣七長坂町十吉女房みよ郷宿萬屋嘉十郎祖母とめ孝心奇特の趣相聞に付鳥目を  
とらせ褒賞におよぶ

一 去丑年分山出灰吹銀百五拾五貫四百八拾七匁御傳馬宿入用金三十七兩貳分銀一匁七分一厘五毛上原  
清十郎竹本良右衛門才領にて五月廿四日差立る燒金十貫五百八拾七匁此小判積り三千五百兩三分永貳百  
拾貳文五分佐州御金藏へ積置出方御入用差引金六百九拾壹兩貳分永九拾三文壹分御益になる江戸詰上原  
清十郎西川藤藏御勘定仕上ル

一 同年分山出荒銅貳千三百八拾九貫貳百目此金積四百七拾七兩三分永九拾文

一 越中國西岩瀬浦惣七船三人乗空船五月廿五日田切須村濱におゐて破船におよぶ乗組之もの別條なし

一 鳥越間歩敷内銅稼所冠勘七郎敷追々冠りへ稼上り候に隨ひ臺より築上櫓棚仕付無之ては稼方差支候  
趣に付御入用高九百貫文餘穿さく御入用の内を以御普請申付廣間役當分助田中從太郎其外役々掛り申渡  
す

一 雲子間歩稼所手薄に成候に付德平中瀬臺より大吉順東取明御入用高五百四拾貫文餘せんさく御入用  
の内を以御普請申付廣間役小池小次郎其外役々掛り申渡す

一 青盤間歩稼所前條同様に付字銚子口取明御入用高四百九拾貫文餘穿鑿御入用の内を以御普請申付廣  
間役井口茂十郎其外役々掛申渡

一 地方役所土藏寛政の度御普請後御手入無之火災之防も難相成且是迄前貸所御入用金錢同所土藏内に  
中仕切いたし入置候へとも不辨利に付戸前別段にいたし地方土藏と一棟にて建替御普請有之尤御入用は

地方并御入用方より繰合相渡別段申上は無之

但建替中金子は篋筒錢は箱建に差置候に付泊番の人數を増ス

一 公事方役所并白洲向補理替有之

一 西三川砂金稼年來不景氣に付一村救旁取揚ヶ砂金壹匁に付増代貳百文宛相渡候處尙勵之ため貳百文  
相増都合四百文宛せんさく御入用より遣ス事になる

一 下戸炭屋町とわ奇特の趣相聞に付鳥目をとらせ褒賞におよぶ

一 材木町板町兩町去冬の高波に而破損におよぶに付救として錢三百貫文遣し普請爲致

一 徳川兵部卿殿病氣之處養生不被相叶去る十九日逝去の旨六月廿日附御奉書同廿七日夜到來に付普請  
三日鳴物七日停止の旨を觸る

一 廣間役堀口彌右衛門病氣に付願之通御暇申渡永井四郎兵衛廣間役へ田中從太郎同助申渡

一 水津湊小囀内去冬及破損候に付御林木五百八本錢千三百貫文餘を以御普請申付尤御林木は損木錢は  
御藏方御益金を以くり合相渡別段御入用申上は無之

一 七月九日朝羽田村平左衛門と云もの、納屋より出火下戸御米藏近邊に付組頭添田一郎次出役消防か  
た差圖におよぶ但類焼なし

一 下戸村龍岩寺了滿奇特の趣相聞に付白銀を遣し褒賞におよぶ

一 去々子去丑兩年佐州燒金江戸表へ爲差登候様七月四日水野出羽守殿御書付を以被仰渡候に付子年分  
拾五貫三百七拾五匁四分丑年分拾貫五百八拾七匁合燒金貳拾五貫九百六拾貳匁四分目付役吉田七左衛門  
此小判積四千三百六十五兩貳分永三十九文九分

此小判積四千三百六十五兩貳分永三十九文九分

此小判積七千三百七拾壹兩壹分永貳百四拾三文四分



御金藏役河野龜之助才領申渡ス七月廿八日差立道中御證文水野出羽守殿

一 右御用相濟歸郷の節日光御宮參詣仕度旨願之通大久保加賀守殿被仰渡九月十日江戸出立同十三日參詣會津通同廿五日越後出雲崎へ出津十一月晦日同所出帆小木湊え着岸十一月朔日新町泊翌二日相川へ着道中傳馬御證文御同人

一 江戸詰佐野勝右衛門無宿六人才領七月十二日江戸出立信州路通越後出雲崎へ同廿一日出津同廿三日同所出帆小木湊え着岸同廿四日新町泊翌廿五日相川着道中傳馬御證文水野出羽守殿

一 石州高津浦萬吉船沖合にて破船七月十八日乗組一同解に而鷺崎村へ上陸元船は浦川村へ引付る

一 直丸殿御病氣之處養生不被爲相叶七月八日逝去普請鳴物御構無之段水野出羽守殿御口達書御渡有之旨大目付より達し有之

一 和姫君様御不豫の處御養生不被爲相叶七月廿日御逝去之旨同廿一日出御奉書同廿九日到來に付鳴物七日停止普請はくるしからざる旨をふれる

一 夕白町忠吉女房はや貞實奇特の趣相聞に付鳥目を爲取褒賞におよぶ

一 下戸町春日明神津田山城願によつて越後新潟より曲馬いたすものともを呼寄境内におゐて興行をゆるす目付役見廻り申渡

一 海府材木町下戸三番所役一人一ヶ月錢壹貫文宛材木町番所役冬春見廻り勤の節は一ヶ月五百文つゝ御手當被下候事に極ル

一 地役人忤無足見習手當として是まで御藏拂米人數二十九人まで爲買請候處已來人數三十六人まで爲

買請事に極る

一 學問所手當御藏拂米是迄五拾石之處相増都合百石之買請高に申付讀書出精のものへ買請高等の規則を定る

一 地役人忤とも見習勤願出候へは筆算吟味之上御役所向見習申付來候處已來は一旦學問所見習申付讀書筆算等出精の次第に寄定役並役儒者ともより廣間役を以申聞候へは筆算相改御役所向見習申付積書付を以申渡置

一 他國醫師神社佛閣參詣等の申立にて内々療治いたし人命を害し候ものも有之如何に付已來旅人の内身分醫師のものは逗留願の節より肝煎とも糺之上業之巧拙により逗留中療治不苦歟または致間敷よしの文段證文へ爲書載肝煎加印にて爲差出尤肝煎印形書付所持いたさす他國醫師療治いたし步行候は、召捕差出候様浦方番所浦目付所へ申渡置

一 鹿伏御藥園守中川榮昌義江戸小石川御藥園守芥川小野寺方え罷越人參其外藥草養方傳達を請藥草十四種申請小石川は人參土地に不應絶々ならては無之よしにて曲直瀬養安院より朝鮮種人參一株同實三粒外藥草三種申請歸國して届る

一 八月三日長畝村百姓嘉兵衛居屋敷の内杭穴一尺五寸計土中へ穿下り候處錢貳拾貫文計有之何れも字替りにて糸さし蒔包にいたし置る躰に相見候旨訴出る錢は其儘爲取

一 八月十二日關村三右衛門灰小屋より出火類焼なし

一 鳥越間歩助平敷間切鍵に切當り候に付掛り之ものへ御褒美被下敷岡惣仕事師ともへ酒代を遣ス



- 一 諸向御普請御入用多少により掛之もの人数並掛り扶持等被下候凡例有之候處敷内岡向とは骨折の差別も有之候儀に付敷内は木代積り入候高を用岡向は元來御林木遣ひの定に付たとひ木品買上に候とも木代相除候高を用ひ御褒美御手當被下方其外とも取調候義に極る
- 一 地方并御役所向貸附錢是迄掛り々々に而取扱候故二重三重に貸渡候ものも出來不締之筋も相生し且高歩の利足にて難澁の趣も相聞に付利下ケの上向々貸附錢一纏にいたし廣間役はしめ別段掛り申渡
- 一 能登國鳳至郡鶉入浦直船頭淺右衛門増水主とも本「増水主」とも「の五字なし」三人乗の船八月廿八日曉龜脇村字素濱に而及破船尤乗組別條なし
- 一 御役所詰醫師七十歳以上に而暇相願候節三十年已上相勤候もの銀貳枚五十年已上相勤候ものは銀三枚大積御入用より被下候積り極る
- 一 八月廿六日羽田濱におゐて火術を試る
- 一 中尾間歩惣太郎敷龍頭地山割本地の字なし目出來危く相成候場所其外樋場等所々手入御入用高千四百拾貫文餘穿鑿御入用の内を以御普請申付廣間役永井四郎兵衛其外役々掛り申渡
- 一 八月廿八日三宮村茂左衛門居室より出火尤類焼なし
- 一 紀州伊都郡高野山定光院より使僧を以當國廻檀に相越候得は先年より宮浦村慶宮寺世話いたし候處今年も智明院慶俊并小もの要藏渡海いたし廻檀の義願出文政二卯年寫濟候例有之といへとも寺社奉行より達無之候ては難相成義に付願の趣沙汰に不及
- 一 市中飯米拂底に付及難儀趣相聞に付極老の者三十七人一人に付摺立米三斗五升つゝ老養として遣

ス

- 一 九月十一日夜相川羽田町に住居いたし居候鐵砲師村井藤五郎宅門口に當歳の男子壹人有之捨子躰に付養育いたし置候旨届ル
- 一 陣屋下元地獄谷より石扣町へ新タニ通路を開此所を西坂通りとなへ是迄の西坂を地獄谷と唱可申旨申渡九月十八日迄に皆出來
- 一 金穿大工本一ケ年去年御改高貳萬人の外五千人まし御仕掛其外本途薄鏈御買上代并御藏相場違ひ増御益の内五分通穿鑿御入用として請取候分とも去る成年より當寅年まで五ケ年之間御改の分引續來卯年より未年まで五ケ年之間是までの振合を以請取且去々子年より當寅年迄三ケ年之間大工五千人増御仕掛の分是又引續來卯年より巳年迄三ケ年之間受取此上無油斷爲相勵金銀山永續いたし候様爲取計度段相伺候處伺之通可取計旨寅九月朔日水野出羽守殿被仰渡
- 一 鳥越間歩敷内大留山と唱候場所八月廿一日急破有之稼所えの通行筋柄山に而押埋候に付稼方差支に不相成様御普請仕越に申付尤御入用省方精々吟味詰爲取調候處金五百三拾兩永九十九文七分相掛候積に付佐州御金藏御除金は丑年の分御遣殘并當寅年分の内を以御渡方の義申上る
- 一 但寅十二月中御普請皆出來に付御届申上組頭壹人廣間役壹人定役貳人並役五人御褒美の儀申上る
- 一 近來御旗本御家人の内人に寄身持よろしからす及不行跡御詮義の上御仕置被仰付候輩も有之畢竟其身の不愼より家名を失ひ歎敷事に付向後不行跡無之急度相愼候様頭支配にても平日厚く可申諭旨松平周防守殿御書付を以被仰渡



- 一 古金銀引替所來卯十月迄是迄の通被差置候間眞字貳分判とも早々最寄引替所へ差出候様御觸書到來
- 一 攝州大坂佐野屋平左衛門船當七月羽州秋田湊におゐて佐竹右京大夫廻米其外届荷物等積入同八月廿六日夜能州輪島沖合にて及難船廻米の内をも打荷いたし小木湊へ入津の上浦手形相願候後船方の者とも申合積米の内密賣いたし候一件小木番所より申立候に付一通糺の上天明七末年能州黒島村直船頭善兵衛大川浦におゐて送荷物密賣いたし候一件他國引合のもの多く其筋々へ掛合候而は渡海不自由の砌吟味手間取可申趣を以窺の上佐州にて掛り合のものは吟味詰の上御書取の御勘定奉行へ差遣他國引合のものは御勘定奉行にて相糺一件御仕置の儀御勘定奉行より相伺御下知之趣佐州に而申渡し候義も有之候得共今般の一件は格別他國引合のものも無御座候間佐州におゐて一件吟味詰御仕置相伺候様可仕旨御用番松平和泉守殿え申上右之趣御勘定奉行へも相達大坂町奉行其外佐竹右京大夫へも夫々及掛合
- 一 北小浦村直船頭佐右衛門水主とも三人乗の船十月六日曉堂釜村字夏井濱におゐて破船乗組別條なし
- 一 銀山稼方の儀御入用筋而已に拘り萬一手狭の取計等にも成行近年國々潤助に及候も又々既往離散等の憂ひ生し間敷とも難申候間山方景氣を引立吹所向取締心附候様申渡廣間役銀山勝場掛り分ヶ申付組頭の義も山方吹所と銘々別段に取扱相心得候様談
- 一 十月廿三日相川三丁目彦七廻船四日町村濱におゐて破船乗組のもの別條なし
- 一 十一月三日越中國射水郡伏木村太田屋理兵衛船沖船頭甚右衛門水主共六人乗小木湊字城ノ後岩組にて破船乗組のもの別條なし
- 一 同日右同國同郡古府村大坂屋善兵衛船十人乗江積村字白嶋と云所に而破船乗組之者別條なし

一 市中米價騰踊難義の趣相聞るに付廣惠倉貯米直段引下相拂御藏拂米をも一圓同所へ買入小前之ものへ拂つかわす

一 西坂取開に付新屋敷四ヶ所坪數合九十五坪相川町人ともものうち望み之ものへ割渡尤地所切開の入用も相掛候に付相當の地代取立之

一 銀山向の義人氣に隨ひ景氣も引立候義は前來の驗も有之怠慢を以て自盡之意を帶候而は盛を得候期も無之誠心一致を以相勵み候時合に候へは御仕入は如何様にも相及し石中の鑛石國家の御用途相補ひ候一端にも相成候様取計肝要に付稼方養ひ之ため青盤間歩へ錢貳百五拾貫文鳥越間歩へ五百貫文中尾間歩へ七百五拾貫文清次間歩雲子間歩へ三百貫文つゝ御役所向御入用之内より相渡厚く及掛引候様其筋へ申渡

一 下矢馳村荒貴明神社人本間美作義出雲別宅隱居いたし同人借財等引請取極メ通り隱居料相渡候外出雲より猶又手當方の義度々申聞候逆強而相斷申争ひ其上隱居所修復之義兼而申聞候而も不差構罷在候ゆへ同人方にて取繕ひ可致旨相斷牛込村六三郎同道杉木伐採候節立出社幟等都而讓渡候上は屋敷内へ猥に立入候義有之旨言葉荒に相答メ出雲と申争ひ及口論同人持居候斧を六三郎請取候を立代り伐採候儀と心得同人え不法に取掛候故出雲打驚立退候節木の根に爪突倒れ腰を折候次第に相成候に付重追放申付る

一 十一月廿三日明六つ時ころより俄に西北の風烈敷吹募陣屋御役所向御藏々組頭御役宅諸勝場床屋濱手番所銀山番所等悉く屋根吹捲外廻り壁吹破庇板扉柵木等吹倒就中風當りの所は戸障子建具をも吹折相川町々にも右に準し七八分通は屋根吹捲り風損夥數在中も風損不少御林并百姓林等風折根返り等數多出



來海邊に圍置候船類及破損浦々番所屋根向損所等不少趣追々訴出ルに付江戸表へ御届書面差立ル

一 右風損にて陣屋をはじめいづれも難捨置場所に付御林木尺九百五十本八分八厘米五拾貳石八斗八升四合錢五千三百三十貫百三拾八文を以仕越し御普請之儀水野出羽守殿へ申上る廣間役白石吉郎小池小次郎其外役々掛り申渡

○ 七月中旬より雨天續村々田方虫附及不熟破免檢見入願出候村々不少候へとも定免年季中に付理害申聞就中不毛の村方は石代納申付定式の外千七百五十石石代納相増來春大坂御廻米減石致候趣十一月中水野出羽守殿へ申上御勘定奉行へも申達

一 越後國柏崎町庄屋規右衛門義先達而大坂御廻米引請申渡處積船大坂廻着の上同所御藏納手配として上坂いたし候間道中宿々におゐて賃人馬繼立の儀佐州御藏方より先觸有之様いたし度段願出御用筋にて旅行いたし候ものに付御廻米引請中賃人馬添觸又は先觸等相渡候ても不苦義に候哉此度は差掛り候儀に付添觸爲相渡候段道中奉行へ四月中及問合候處百姓町人え先觸相渡候義容易難相成筋に付添觸相渡尤當日差掛り人馬相雇候而は繼立方差支候に付其都度々々前日宿方へ通達有之様曾我豊後守より挨拶有之

○ 當寅年違作の國柄多く夫食差支候場所も相聞候に付諸國酒造三分一減石三分二迄被仰出候に付減石之分は造桶等は可預置旨村役人より請書差出させいづれにも減石之御趣意行届候様可致旨水野出羽守殿御沙汰の段土方出雲守より十一月晦日出の達書到來に付佐州の義作損米拂底に付兼て酒造人造込高格別減石可致旨申渡置候へとも猶又役人さし出爲相改候様可致旨及挨拶置

但當國にては當年限酒造人とも造入高元株の半減に申付九月中小役物改出役序造桶等割合を以爲相

減符印之上預書付取置

一 大坂御廻米柏崎規右衛門引請中大坂無宿便船にて差送り候義不相成譯同所町奉行へ去年中達置候處外に便船無之候間己來陸地にて持送候積り治定の儀御城代へも申上追而可及掛合旨高井山城守新見伊賀守より挨拶有之御關所通行手續等兩人より町奉行へ別段問合の向有之江戸より無宿共佐州へ差下の手續承知いたし度段筒井伊賀守より問合に付一件取調さし遣す

一 大坂廻り荒銅海上請合には無之段積廻引請人柏崎規右衛門書面差出最初之糾向ニ振レ候儀も無之候可申立の趣承置候様可致旨御勘定奉行へ問合および候處聞届置差支無之段挨拶有之

一 山出金銀吹方に用ひ候鉛夷町嶋屋金五郎近國より買入相納候分銀氣籠り候よし申立吹様候處鉛拾一貫八拾目に而灰吹銀百四拾七匁有之其後相納候鉛四貫貳拾目の内銀一匁有之右兩度の鉛買元出所相糺候處買元は松平下總守領分越後國蒲原郡五泉町與右衛門と申ものより買入出所は堀丹波守領分同國同郡五百川山と申所より出候趣申立候處他支配の義に付別段糺に不及銀は他國出産の儀に付御用序江戸表へ可差出間銀座におゐて改の上御買上相成候様いたしたき旨御勘定奉行へ及掛合候處相當の直段に而御買上にいたし候様座方え申付候様可致尤引續出銀も候は、其段申聞候様挨拶に付出銀は掛合之通取計其後買上鉛には右様の品不相見候間其段及再答置

一 十二月廿一日倉谷村百姓甚右衛門灰小屋より出火同居小屋焼失類焼怪家人等はなし

○ 市中米拂底に而小前のも難儀の趣相聞るに付困窮人え救米を遣す人數百六拾六人

一 他國出判并旅人逗留月延本國歸住居願等さし出候節改方出役所におゐて掛り之もの取扱事になる右



に付役え金貳兩つゝ役金相渡ス

一 町同心小頭町年寄とも勤方安永の度申渡に振レ候儀も有之寛政元酉年尙又申渡趣も有之處其後いつとなく小頭とも勤方町年寄とも勤向に相混し主役立會の差別不相立趣相聞候に付廉々取調己後心得違無之様書付を以申渡ス

一 山中又四郎廣間役當分助申渡

一 廣間役白石吉郎義諸向御用取扱多就中銀山向取計に付景氣引立打續方等迄厚く心を用ひ都而御入用掛ケ引多少細密の取調方子年己來平日聊無怠慢骨折相勤候に付加持三人扶持地方諸入用の中より相渡一 廣間役助田中從太郎同當分助山中又四郎地方御用向のため兩人隔月に地方掛り頭取詰所え相越御取締其外相心得頭取三人へ打合候様申渡

一 元御代官屋敷内に有之候稻荷社山之神大山祇境内中へ安置之處去月大風之節及破損に付廣惠倉園内へ引移修復を加へ十二月廿六日までに皆出來

一 越後水原百姓眞嶋權兵衛近藤甚助御褒賞之儀に付再應申上書面去丑十月水野出羽守殿え進達の處永々帶刀差免候儀は難被及御沙汰永々苗字差免候様御勘定奉行え被仰渡候旨被仰渡

天保二 辛卯年

一 去十二月十日年號改元有之て爲天保之旨於京都被仰出候に付同十六日於江戸表御弘有之段十二月十七日之御奉書正月十二日到來

一 廣惠倉取扱筋起立より既十年におよび御金藏別納金市中困窮のもの救ひ方金銀山諸費中不足補ひ等にも差加粗永續基業も相立此上米取計方次第にて土地有米高を増山稼之ものとも手當方にも相成候仕法も可有之儀に付別而米屋とも直段取計方私之處置に任せ難く連年御金藏御不繰合の時合にも有之處元書直段不相當にては諸石代御收納一躰へ相響一國中相定候御用途就中山方御仕入等も行届兼増而窮民御救恤之廉非常凶災の備猶更以難相整に付元書直段も相當に可相成ため出米買上方主法を以米屋とも手心の取計方時々掛引相及且又山方不盛之頃より相川市中不融通にて廻船持も少く相成他國商人多く入込旅泊の商人に利潤を被奪候に付通商の元手貸等も爲取行他國より買入に必用の品も成丈ケ廣惠倉の取扱を以相及し旅泊の商人とも多く不渡來様主法も可被相行候得共いまた元高立兼是迄逆に取行候趣も往々相見今般凡之基業も粗相立候上は此上の取計順に相整候様取扱方肝要に有之凡例の趣違失無之様取計猶米穀を第一とし朝夕相用候必用之品々を買上相貯風俗の害に可成品奢侈に涉り候無用之物は一切取扱間敷鐵鉛炭の類時宜を以別而多く買上置請負人等直段引上候節之備にいたし米價の義高下不相當無之様取計物價は右品々の買上方行届平常相貯候主法相調市中郷中の高下に隨ひ廣惠倉并追々可取立浦方倉中より取計方え及候得は商人とも漫りの高下に不相及自然と米價物價相對當の主意立其年の有無を以夫々相應の價に歸し候様可相成尤主法全く被行候得は國中へ及し候筋手易とも難申候間掛り常々厚く申合取計方可有之旨廣惠倉掛廣間役御書付を以申渡

一 去秋田方不熟にて米穀拂底に有之村々夫食差支候に付來辰年請取可相拂去ル丑年御圍糶四千石繰越請取正米に爲摺立相拂右代錢は來辰年にいたり取立候積正月中水野出羽守殿へ申上る



- 一 當山方修驗澁手村大福院賢珍奇特の趣相聞に付白銀を遣し褒美におよぶ
- 一 彌十郎町季八石扣町要五郎後家すへ奇特の趣相聞るに付鳥目をとらせ褒賞におよぶ
- 一 羽茂本郷善次郎母も下久知村新九郎父新三郎關村源太郎母しも九十五歳に相成に付老養扶持を遣し大野村九右衛門外十八人九十歳已上に相成長壽に付鳥目を爲取
- 一 當正月台徳院様貳百回御忌御法事御執行付而赦被仰出候間死罪歟又は遠嶋可成程之もの可書出其外前御法事の赦に被行候輕罪之ものをは如例致了簡可申付旨去寅十二月十四日松平和泉守殿御書付御渡有之正月十二日到來於佐州當時可申上もの無之旨を申上る
- 一 去寅年大坂銅座へ相廻候去ル子年分山出荒銅代金四百六拾壹兩貳分銀拾五匁八分八厘七毛の内金七拾三兩三分銀拾三匁四厘貳毛は直増御手當の分兼て伺濟之通銅稼御仕入方え引取殘之分卯正月十四日蓮池御金藏へ上納
- 一 台徳院様貳百回御忌御法事於増上寺從去月廿日執行萬端御作法無殘所相濟誠以恐悅之旨正月廿一日御奉書二月八日夜到來
- 一 小木町檢地并囁普請願場所見分として組頭添田一郎次廣間役當分助山中又四郎其外役々二月十二日出立同十九日歸着
- 一 笹川十八枚村石工傳五郎女房りん二月十五日西三川高崎境川にて大水に被押流娘壹人脊負候儘溺死
- 一 後藤三右衛門役人年寄役諸出役繼上下に而罷在候様三右衛門方より申越候間御金藏の儀年寄役外用又は病氣の節は役人之内重立罷出る者は繼上下着用可致旨を届出る

- 一 相川市中八十歳已上のもの三十六人へ老養米を爲取
- 一 阿佛坊村妙宣寺々家本立坊耀山儀病人有之節代加持と唱へ師傳無之經文の道理を押し一己の存寄を以修法いたし神の教有之死生の怨恨退散爲致候儀等宗門通法の旨強而申立口上書印形難澁いたし候段寛文度の御條目も有之候處右始末不届に付輕追放妙宣寺日體儀耀山代加持と唱一己の存寄を以致修法候旨申聞候を如何之儀とも不存同宗根本寺外貳ヶ寺より右躰之義宗門に無之旨答書差出候趣承右は都而心得違に付是迄之通代加持爲致度よし又は奉行所へ對し不輕義とも品々相認候書付差出候始末寛文度の御條目も有之處本寺職の身分にて旁不届に付輕追放申付病氣にて步行難叶に付快氣まで末寺并法類預になる
- 一 唐船持渡の藥種荒物類買持并荷物並合引當等に取組候ものとも近來賣買を危踏融通不宜趣の所右商買に携候町人は勿論都而國々にて取捌候ものとも至まで縦合は公事出入吟味中にも無障可致取引又正銘唐物致所持或は並合引當等に取置候とも妻子に拘はらす當人計御仕置に成候節は其品不及闕所妻子へ可被下置吟味中家財を改封付候とも正銘唐物におゐては封外候條少も疑敷なく向後手廣に可令賣買旨文化の度相觸候處年月相立辨さるものも可有之哉に付向後唐紅毛物とも正銘之品は少も無危踏手廣に可致賣買旨の御觸書水野出羽守殿御渡有之三月廿八日到來
- 一 廣惠倉稻荷社相殿に前々より夷ノ宮并大黒天勸請有之に付毎月十日并甲子當日在町のものとも參詣をゆるす
- 一 三月十日羽茂郡新保村銀七後家きよ灰小屋より出火類焼なし
- 一 前々より村々御年貢米郷藏詰相濟候旨届出候へは目付役地方掛一同國仲筋海邊通と二手出役之上夫



々相改候處寛政の度御入用省略のため右出役相止近年不締も有之哉に付己前の通出役有之事になる

一 泰姫君様御事御臺様御養初之亟殿暉姫君様御事御簾中様御養被仰出候旨三月十八日大久保加賀守殿御書付御渡之旨大目付より達有之候段四月五日申來る

一 泰姫君様初之亟殿暉姫君様御事は迄御取かはし差上物等も無之候處泰姫君様御事向後都而御並の通被仰出初之亟殿暉姫君様にも御本丸御子様方御並の通被仰出御取かはし差上物等有之段右同斷大目付より達有之候段前同日申來ル

一 小木湊藻崎鼻波除石積枿内之囁御船着場荷揚等去ル子年十月高波之節石積場所欠崩其砌手當いたし取凌候處其後度々の風波にて猶又破損囁掛廻船差支其儘難捨置候間木品尺々九百本餘最寄御林節曲木又は苗木へ簪替に相成候分伐渡其餘御入用は廣惠倉益金の内を以相渡別段請取方不申上御林木根伐持出等の御入用は追而可申上旨三月中水野出羽守殿へ申上る廣間役白石吉郎同當分助山中又四郎其外役々掛り申渡

一 去秋田方不熟に付麥作取入迄の取凌方差支候間來々已年御拂可相成去ル未年分御圍粃貳千五百石繰越請取正米に爲摺立相拂候積三月中水野出羽守殿へ申上る右米市中え相拂御藏拂米浮に成候分を以米納難澁の村々え代納申付御年貢米納替に取計其外海府村々米拂底にて夫食に差支候趣に付三百七十五石割渡半分は無代半分は安直段を以三ヶ年賦延代納等になる

一 献上かたくりの儀梅津村茂右衛門上横山村次郎左衛門え世話方申付穿人足鑑札をも相渡置年々山出製法吟味詰爲相納來候處近來國仲筋のものかたくり根根に穿荒シ難儀の趣を以外々之もの穿方差留願出候處献上の斤數丈に而一同差留候而は國益之一廉相捨り候義に付糺之上次郎左衛門は是迄の通り献上の分計世話いたし茂右衛門は賣用の分をも一手に世話いたし候積取極且猥に穿あらし候而は末々生立の害にも可成義に付穿取方望み候ものは穿向の遅速其外とも都而茂右衛門差圖を請かたくり根根に不穿荒様在方掛より國仲筋村々へ觸る依て兩人ともかたくりの賣上直段を減る

一 長崎におゐて唐船へ相渡候煎海鼠干鮑鱧鱈の儀長崎會所直買入に相成候已來爲出増國々の内追々請負のもの取極右請負人方へ買集長崎會所へ爲差出候場所も有之候處近來諸國とも出方相劣り且又請負人とも方へは不差出外々え相對密賣いたし候稼人も有之趣相聞不埒の事に付己來出方相増候様精出し相稼密賣等堅くいたす間敷若右躰密賣いたし候者於有之は吟味の上可申付旨御觸書水野出羽守殿御渡有之三

月十一日到來浦方番所於浦目付所海岸付村々漁師村役人え爲申渡證文を取置

一 佐州より長崎廻俵物代繰替渡之儀佐州御金藏御繰合不宜渡方差支去ル申年分より子年分まで五ヶ年の間一ヶ年七百兩つゝ前金長崎表より差送候處今以御金藏御繰合不宜候に付引續五ヶ年の間前金請取方儀御勘定奉行長崎奉行へ再應及懸合候處長崎表の儀も當時銀繰不宜前金引渡難相成趣に付去々丑年分より來巳年分まで五ヶ年之間俵物代江戸表におゐて長崎奉行より請取佐州御金藏へ返納之積取計候様仕度趣御勘定奉行へも打合水野出羽守殿へ申上る

一 去寅御年貢小物成諸運上等三月廿九日迄に御藏々え上納皆濟則江戸表へ御届差立る

一 去寅御年貢米之内八千四百石大坂御廻米になる 但今年も河原田より積出無し

一 去秋不熟にて國中米價格別高直に付他國米買入候分四月より七月迄は御役銀半減になる



一 寺田村醫師昌運外五人松ヶ崎村金十郎船に乗組松前へ罷越し海上難船に及び候處加州網屋七左衛門船に被助送松ヶ崎湊に歸着いたし金十郎船えも糧米鹽噌等相贈候趣に付七左衛門船追て小木湊え入津之節壹斗五升入酒五樽爲取

一 去十一月より當四月迄同六月より八月迄御藏拂米廣惠倉え請取市中飯米同所より拂になる  
但國中の米價八九貫文餘の處七貫貳百文餘にて拂になる

一 組頭添田一郎次江戸表へ相越候様可申渡旨妻子等も召連引拂可申急候儀に而無之候條其心得に而支度いたし道中も常躰の日積にて罷越候様可致旨四月三日水野出羽守殿御書付を以被仰渡同十三日宿繼に而到來同廿五日相川出立新町村泊翌廿六日小木湊え出津同廿七日越後出雲崎へ渡海會津通り旅行

一 新規廣惠倉定役貳人並役四人極る

一 青盤外四ヶ間歩并銅稼とも去年分賣立代銀前年見合高多ニ有之吹仕切も無滞相濟候に付稼方に携候末々の者へ貳斗入酒五拾樽を遣ス勝場床屋仕事師ともへ酒代百五拾貫文爲取

一 國産方下掛正明寺村谷五郎左衛門義常々小前のものを憐農事相勵國益筋之儀厚く心掛在桐植立方等實意の世話いたし既に近年在桐油絞立年々石數相増銀山御入用へ相納る様相成一昧百姓之本を辨へ平日暮方質素を守る趣相聞に付在々町年寄格上席申付

一 松ヶ崎村重立七左衛門外六人專質朴を守惣百姓とも義も風義宜趣に付七左衛門外六人え白銀惣百姓ともへ鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 右重立之内太右衛門義生蠟國製ニいたす積り自分入用を以三崎野切開キ櫛苗植立追々人家取立往々

一村にもいたし度趣願出國益之儀厚く心掛奇特に付身分取立褒賞可及處村方風義も有之に付不及其沙汰三崎野開發櫛苗植立手當として地拂米爲買請右一件其外渡世向の儀に付申立る義は松ヶ崎番所へ願書可差出旨を申付る

一 四月廿日朝羽田町權平納屋出火即刻消留類焼なし

一 同廿一日夜丸山村西龍寺灰小屋より出火本堂庫裏納屋とも一圓燒失外類焼なし

一 同廿四日夜大石村源之亟灰小屋より出火類焼三軒

一 牧野備前守御事老衰其上病氣に付内願之通御役被遊御免隱居之義も願之通被仰付候緩々保養仕快キ節は折々御機嫌相伺候様四月十八日被仰出候旨同十九日の御奉書同廿七日到來

一 四月廿九日朝梅津村彌五右衛門灰小屋より出火類焼なし

一 近來百姓町人共身分不相應大造の葬式いたし又は墓所へ壯大の石碑を建院號居士號等附候趣も相聞如何の事に候自今以後百姓町人とも葬式は縦令富有或は由緒有之者にても集僧十僧より厚キ修行は致すましく施物等も分限に應し寄附致し墓碑の儀も高サ臺石とも四尺を限戒名え院號居士號等決而附申間敷尤是迄有來候石碑は其儘差置追て修復等の節院號居士號相除石碑取縮ル様可致旨御觸書四月廿六日到來

一 北河内村より願村迄十七ヶ村願に依而烏賊漁場へ相川もの相越焚火いたす事を差留る

一 山西八左衛門義先年鐵砲方新規申渡火術をも相心得居候に付家込手狭の所にては火の元心支も有之由にて勘四郎町住居相願に付拜領地引替増地并町屋敷買上の場御預地申付る

一 一定問吹所建替有之



一 竹本良右衛門御藏方御勘定仕上相濟四月廿二日江戸出立無宿十三人の内一人於鴻巣宿病死殘十二人  
才領五月朔日越後寺泊へ出津同三日佐州赤泊湊え渡海同四日相川へ着道中傳馬御證文松平周防守殿  
一 廣間役西川藤兵衛病氣に付願之通御暇申渡數年無懈怠相勤候に付御褒美として銀三枚被下悴藤藏御  
抱入申渡

一 鈴木傳市郎四月朔日御暇に而同廿八日江戸出立三國路通り旅行五月五日越後寺泊へ出津同九日佐州  
赤泊湊え渡海翌十日相川御役所へ着泉本正助交代して同十二日相川出立翌十三日小木湊より出帆

一 五月十一日澤根村季左衛門居宅より出火類焼なし

一 田中從太郎廣間役え山中又四郎同助伊澤佐兵衛同當分助申渡

一 金北山權現堂去寅九月雷火にも可有之哉致燒失候段別當眞光寺相届候得とも佐州第一の高山にて其  
頃より雪深く積三四月頃迄は登山も難相成五月に至り見分爲致候處申立之通相違無之供物所の儀燒失は  
不致候へ共損所出來に付本堂御建替供物所繕ひ御修復の積御入用御林木百四拾一本末木貳十六本米六石  
八升五合錢三百八拾八貫五百貳拾一文を以仕越御普請の積五月中申上七月十二日皆出來

一 組頭苦竹權歲去十月より病氣の處養生不相叶五月廿九日病死悴久太郎家内召連六月三日相川御役宅  
引拂赤泊みなどへ出津同五日出帆

一 五月廿六日晝頃より俄に大雨に相成翌廿七日晚に掛ヶ夥數降續所々出水いたし別而國仲筋平地低  
の村方四十ヶ村川筋も數ヶ所有之南北高山より一時に水落込字落合川國府川橋々流失人家へも水押入田  
畑水冠に相成其外田畑欠崩土砂押込往還道橋用水路等及破損候段追々訴出水防方并場所々々見分出役差

出いまた水中にて損地の程難相分候得共六月初水野出羽守殿へ申上置右兩橋并石田川橋鍛冶町橋皆川橋  
掛替繕ひ等御普請申付其外道橋用水路田畑等損地の分定式御改御入用又は右代納等申付普請手入爲致別  
段御入用は勿論御年貢引方等是不申上

一 六月五日上新穂村定右衛門灰小屋より出火類焼なし

一 五月廿五日於御前松平伯耆守殿御懇の以上意連判の列被仰付内府様え被爲附太田備後守殿御懇の以  
御證所司代被仰付候旨同廿六日の御奉書六月九日夜到來

一 添田一郎次五月十九日御代官被仰付候旨松平和泉守殿被仰渡候段六月九日夜申來

一 去寅年分山出灰吹銀貳百貳拾三貫六百四十目傳馬宿入用金三拾九兩貳分銀拾貳匁壹分九厘壹毛堀口  
此金直壹萬貳千三百貳拾三兩壹分永百三十五分

市太夫三島惣左衛門宰領に而六月十一日差立翌十二日小木湊出帆道中御證文松平周防守殿燒金拾四貫四  
百七拾貳匁分此小判積四千九兩永八拾五文七分佐州御金藏へ積置出方御入用差引貳千三拾貳兩貳分  
永百十七文六分御益になる江戸詰堀口市太夫近藤庄平御勘定仕上る

一 同年分山出荒銅貳千三百九拾五貫百目此金直四百七拾九兩永貳拾文

一 地方取立物え納候古金銀三百五十兩江戸詰之もの持參御勘定奉行へ掛合の上金座銀座におゐて新金  
銀に引替

一 評定所留役御勘定高山又藏五月廿九日添田一郎次跡組頭被仰付候旨六月十三日夜申來

一 六月十二日大石村多十郎灰小屋より出火類焼なし

一 六月十日夜湊町十助船乗組彦次郎外五人烏賊獵に罷出居候處俄に大風波立破船いたし候哉行衛不相



知旨届いつる

一 去寅八月小木湊におゐて攝州大坂松本町佐野屋平左衛門船乗組の者共難船に事寄佐竹右京大夫大坂廻米の内密賣いたし候一件伺の上松平和泉守殿依御差圖密賣發意いたし候水主長藏は獄門密賣米手傳積渡等いたし候水主平吉外七人は入墨の上重敲船頭末吉は過料五貫文密賣米世話いたし候小木町村勝右衛門并問屋藤屋勘十郎下代龜吉は遠嶋米密賣いたし候同所榮吉外五人は買請米取上所拂米預り又は運送いたし候同所茂八外三人は敲六月廿二日申渡其段御届并右御仕置濟の趣大坂町奉行并佐竹右京大夫え達其外領分のもの御仕置申付候に付松平大膳大夫松平讃岐守松平勝吉松平加賀守酒井修理大夫え懸合書差立浦方六ヶ所番所相川濱手三番町え長藏獄門の捨札を遣入津船方の見る所へ爲建

一 遠島もの小木町村勝右衛門外壹人松平和泉守殿宿繼御證文を以六月廿七日相川差立七月四日小木湊出帆差添使役横田甚三郎町同心黒田力藏渡邊與一郎七月十五日江戸町奉行筒井伊賀守へ囚人引渡相濟

一 右差添横田甚三郎へ銀三枚黒田力藏渡邊與一郎へ銀二枚宛御褒美被下候旨七月十七日和泉守殿御書付御渡有之則於江戸表申渡同廿六日一同江戸出立八月七日越後出雲崎へ出津同九日小木湊え渡海同十日相川へ歸着

一 廣惠倉雜穀藏一棟納屋一棟新規取立有之六月晦日皆出來

一 金銀掛合候分銅寛文中改己前の古分銅兩替屋仲間に而遣候よし相聞に付京大坂堺近郷の分潰等迄外にて賣買不致潰直段を以後藤四郎兵衛方え爲買請目輕き古分銅内々に而賣買致間敷旨度々相觸候處今以西國并長崎筋にては古分銅多く賣買いたし用候よし相聞此己後内々に而賣買致候義は勿論不隱置四郎

兵衛方へ可相渡尤四郎兵衛方より分銅改役人相廻り紛敷分銅は取上候筈に候其旨急度可相守旨先年より度々相觸後藤四郎兵衛役人相廻改役處近來紛敷分銅をも用ひ候よし相聞候に付此度四郎兵衛方より分銅改役人相廻り紛敷分銅は取上ヶ候筈に候間其旨急度可相守段御觸書七月八日到來

一 佐竹右京大夫大坂廻米積請候攝州大坂松本町佐野屋平左衛門船乗組之ものも難船に事寄積米密賣いたし候一件吟味濟に付泉本正助へ右京大夫より贈物有之右様の取扱にて贈物の例差當リ不相見候に付相返候様可仕哉之旨水野出羽守殿へ相伺候處受納可仕旨被仰渡

一 右同斷に付廣間役貳人公事方役貳人小木定番役三人小木番所役三人同所町年寄貳人間屋一人え右京太夫より贈物有之受用爲仕可申哉之趣水野出羽守殿へ相伺候處受納爲仕可申旨被仰渡

一 佐州御金藏御不繰合に相成御備御手薄遠境別而御取締の義十年前午年被仰渡候に付其己來夫々取計方を以出方相増御益に相成中尾水貫間切抜合候得は水替御入用相減夫而已ならず往古盛し場所水故障にて手を引候場所穿鑿相届候様相成候に付間切延方専ら相勵候趣御金藏御繰合のため米價相當相成候故御收納高相増尤金銀山出方に隨ひ拂高多く其分則山稼小民之營と成國中の潤ひ人別相増潰家建置新家取建等相増且廣惠倉取建に付小民之御救相及御金藏別納に而行々は一廉の御除金にも相成候様其始相立廣惠倉元金の義も五千兩の高にいたし此後年々増加萬兩已上には不遠備り可申同所雜穀貯え土藏納屋等取建其外小木湊新屋敷にて家作相増御高入有之御金藏振替拂六千五百兩の分子年取調八ヶ年に而皆濟の積丑寅兩年割合通り返濟其外品々地方御收納等の取計にて御金藏御繰合立直寄當正月越御有高先相當に相成差向四五ヶ年中以下金申上候には相及間敷都合に相成候趣六月中水野出羽守殿林肥後守殿え申上る



一 金銀山大道間切の儀は稼方の元を立末を繼候要用の義に候處速之功も無之に付人情退屈もいたし其内には彼是故障も相生し文化の度穿鑿入用己前に渡候へ共稼方粉成方等品々の諸費右御入用中より相拂候故大道間切は銘目而已にて不怠に相立候儀も難及候間己來穿鑿御入用の内より金六百兩大道間切入用之積り別段相除尙卯年より年々切延方員數并鏈に切當出方へ渡候趣とも翌年春の内御届申上間切場所立替候義も可申上今般吟味之上青盤間歩鳥越間歩中尾間歩敷内へ大道間切四ヶ所相立候箇所書相添六月中水野出羽守殿林肥後守殿へ申上る

一 金銀山出方相進御收納辻相増御年貢米錢四十年來期月前皆濟いたし廣惠倉にて御益相進御金藏御繰合立直り一躰邊鄙之孤島人心も偏固にて教之道も不全候故追々教導之筋其外とも凡基業も相立候趣を以組頭廣間役地役人え格別之御褒美被下候様六月中水野出羽守殿林肥後守殿へ申上る

一 御勘定三輪滿藏義六月廿八日苦竹權藏跡組頭被仰付候旨宿送を以七月八日夜申來る

一 高山又藏義家族一同召連可申處妻義久々病氣に付願之上又藏壹人七月十日江戸出立信州路通同十九日越後出雲崎へ出津同廿二日佐州小木湊え渡海同廿三日相川着

一 江戸詰西川藤藏七月十一日江戸出立信州路通同廿一日越後出雲崎へ出津同廿二日佐州小木湊へ渡海同廿三日新町村泊翌廿四日相川着道中傳馬御證文大久保加賀守殿

但來辰年分御鐵砲相拂入用調合藥八貫五百三十目玉鉛十八貫目砲術稽古入用調合藥等拾八貫七百五拾四匁四分率領尤右品兩年の目方定例御鐵砲相拂御入用鉛は元貳拾貳貫五百目之内四貫五百目御儉約中減ス稽古入用玉鉛は一ヶ年八貫九百八拾六匁佐州御雜藏より請取

一 八月二日高波に而相川下戸湊に差置候同所庄兵衛外三人所持の獵船四艘破損におよぶ

一 江戸詰上原清十郎無宿十三人宰領七月十九日江戸出立奥州會津通越後新潟へ八月朔日出津同六日佐州夷湊え渡海同七日相川着道中傳馬御證文大久保加賀守殿

一 八月十三日夜尾戸村與右衛門灰小屋より出火類焼一軒

一 三輪滿藏義家族召連八月十日江戸出立信州路通同廿一日越後出雲崎へ出津同廿七日佐州小木湊え渡海翌廿八日新町村止宿同廿九日相川着

一 水替掛役所小遣夕白町彦兵衛倅與吉兩親え孝心に仕ふる趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 大山祇鳥居天和二戌年御普請後百五十年に成痛損候に付建替御普請有之九月六日上棟規式をなす

一 江戸より被遣候廣間役御用透之節は御藏々え被立入可申義に極る

一 伊澤佐兵衛義先年鐵砲方新規申渡候に付的場取立坂下町え住居相願候に付拜領地に引替増地并町屋敷買上の場御預ヶ地申付

一 井口新次郎新規拜領地申付

一 九月廿二日赤泊湊貳里計沖合に長四丈餘の流鯨有之漁師とも同所御番所下え引付候旨訴いつる

一 九月十六日泰姫君様松平誠之助殿え御縁組被仰出候旨松平和泉守殿御奉書同廿四日到來

一 相川獵師とも鳥賊場に罷出候節九月中旬より焚火いたし度旨願出先年右差障申出候姫津村並西濱通村々相尋候處姫津村之義は秋土用過より翌春正月中旬え掛同村沖合獵場の外に而焚候分は差支無之年々の義に候て時候に應し程合の義右村に而掛引致度旨申立西濱通村々は西濱沖合にて焚不申候へは差支無



之旨申立元來相川沖合計に而焚申度旨之願之義に付來辰正月月中旬まで焚火爲致候義に申付る

一 越後柏崎庄屋規右衛門義佐州御年貢大坂御廻米之分引請納之義去々丑より當卯迄三ヶ年之間引請に候處伺之上來辰より申迄五ヶ年之間引請繼年季申付運賃金之義も是迄之通金拾四兩貳分宛於大坂表に前年暮三分一殘金は翌春相渡其外之義は都而去々丑年中申渡候通可相心得旨申渡候段御勘定奉行より達有之

一 右引請年季中大坂表え往返之節は佐渡奉行支配向并大坂御代官役所添觸を以賃馬壹疋人足貳人迄は御定の賃錢相拂通行可致旨申渡候段御勘定奉行より達有之

一 去寅十一月廿三日の風烈に而陣屋并御役所向其外風損場所九月中皆出來に付御届申上る元掛り組頭添田一郎次并廣間役貳人定役三人並役五人御褒美之義水野出羽守殿へ申上る

一 羽黒村吉助義同村御林木根伐人足に出怪我いたし候間もなく病死いたし候に付厄介之もの手當として鳥目を爲取

一 當卯年大坂銅座へ相廻し候去々丑年分山出荒銅代金四百六拾二兩銀貳匁三分八毛之内金六十九兩壹分銀四匁四分六厘貳毛五弗直増御手當之分兼而伺濟之通銅稼御仕入方へ引取殘之分九月廿六日蓮池御金藏へ上納

一 近來武家之内日傘相用候ものも間々有之哉に相聞如何之事に付向後は急度用ひ申間敷旨向々へ寄々可達旨水野出羽守殿御口達之旨大目付よりの達し九月十二日到來

一 去寅年鳥越間歩敷内急破其外御普請御用相勤候廣間役永井四郎兵衛銀三枚山方役壹人御目付役一人

金壹兩つゝ並役五人金三百疋つゝ御褒美被下候旨水野出羽守殿御書付御渡有之十一月朔日於佐州申渡元掛組頭添田一郎次は十月十二日於御右筆部屋縁類水野出羽守殿被仰渡銀七枚拜領

一 中尾間歩水貫間切之義銀山吹所向へ相渡候御入用高之内二十分一除錢を以切延候旨文政八酉年申上置當春己來迎合之間切相立双方より爲切立候處惣中石九十丈貳尺四寸切延十月晦日貫合風廻煙捌もよろしく相成差當り氣絶之患相通れ是迄水中に而手入難届場所も己後穿鑿行届候様相成尤水替人夫等之諸費減方にも相成候儀にて實に一山後榮之基相立掛り役人已下稼方に携候もの一同相悅銀山一鉢の景氣をも引起候趣水野出羽守殿林肥後守殿へ書面進達

一 中尾間歩水貫間切貫合一山後榮之基相立候義に付祝義として中尾間歩へ貳斗入酒百樽青盤鳥越清次雲子銅稼並水替共其外本途勝場床屋兩間吹所吹分所大吹所銅床屋市中等へも夫々酒錫を遣す

一 越後柏崎町規右衛門佐州御廻米引請方來々申年迄五ヶ年繼年季御勘定所に而申渡有之候に付山出荒銅大坂銅座へ相廻候分右年季中是迄之通爲引請候義御勘定所へ達之上極る

一 古金銀引替殘有之候に付引替所之義猶又來辰十月まで是迄之通被差置尤道法五里餘相隔一度に金は五百兩銀は十貫目己上貳朱判貳百兩己上差置候ものへは里數并差出高に應し道中諸入用被下候處己來は少分の差出高にても是迄之割合を以諸入用被下候筈其外眞字貳分判は諸入用不被下候處己來は道法五里餘相隔ものへは差出高の多少に不抱一里往返分百兩に付銀五分宛之割合を以可被下旨御觸書十月廿九日到來國中へ觸る

一 青盤間歩敷内源兵衛間切内留棚十一月十日急破有之稼所え水落込候に付稼方差支不相成様御普請仕



越に申付尤御入用金三百八十五兩一分永十一文相掛候積に付佐州御金藏御除金去寅年分御遣殘并當卯年分之内を以御渡方の義水野出羽守殿へ申上る

一 小木湊囀内御普請十一月皆出來に付御届并掛り廣間役白石吉郎同助山中又四郎定役四人並役一人御褒美之義水野出羽守殿へ申上る

一 中尾間歩水貫間切貫合候御祝義として十二月十五日諸役人一同へ御酒御吸物被下

一 鳥越間歩かなこ善助義同間歩敷内水絞之義に付年來厚く心を用ひ當春己來月々御入用減も相立候に付鳥目百貫目爲取

一 當卯年家數人別増減差引書付水野出羽守殿へ進達左之通

高拾三萬貳千四百七拾四石九斗九升壹合

加茂 二郡貳百六十一ヶ村  
羽茂 雜太

家數貳萬四百貳拾九軒

内五拾壹軒 去寅年に増

男五萬三千貳百八十四人

内五百一人 同斷増

女五萬千四百二十四人

内貳百九十人 同斷増

牛七千四百二十二疋

外百十六疋 同斷減

馬六百三十六疋

外二十一疋 同斷減

外

高九拾石五斗 御朱印領

寺一ヶ寺

家數七十軒 無増減

男貳百五人

外六人 去寅年に減

女百九十六人

外貳人 同斷減

一 市中困窮之もの貳百貳拾九人え救米を爲取

天保三 壬辰年

一 諸國惣御國高之儀元祿享保之度御調有之候處年曆も相立増減も可有之義に付尙又此度取調被仰出候に付銘々一領限村高一村毎に認分ヶ御朱印地寺社領除地とも認加へ并新田高之分も廉限に取調早々御勘定所へ可差出旨御書付卯十二月朔日水野出羽守殿御渡有之正月十七日到來



- 一 惡水不滯用水引渡す義在方肝要の義に付享保十一年相觸候處用惡水路浚不行届速に押埋竹木はへ出堀幅或は橋々を狭め水道差支候所々有之趣に付堀幅橋々狭め候所は己前之通掘あけ年々三四月の内無油斷組合限掘浚竹木伐拂水草は根共堀取又は度々蒞取可申堀浚等閑いたし置差障之村方より訴出候は、吟味之上急度可申付旨御觸出卯十二月廿九日水野出羽守殿御渡有之正月十七日到來國中へふれる
- 一 惣而川通堤外百姓家建候義停止に付享保十二年相觸候處川通堤外え百姓家建候も有之趣に付若家作いたし置候も有之候は、爲取拂候義も可有之自今川通之内新屋敷取立候義は勿論小屋に而も一切作り出申間敷旨關束筋川通御料私領寺社領とも御觸有之旨御書付卯十二月廿九日右同斷
- 一 佐州國用紙漉立方試のため甲州御代官野村彦右衛門へ懸合之上紙漉巧者の者百姓平吉楮三つ股等の作方取扱兼候もの百姓貞助差越候に付柴町専光寺横通り坪數貳百四拾坪餘の場所兩人之もの見立の上紙漉小屋取建る四月廿四日始而糊入紙五束漉立御役所へ出す
- 一 越後出雲崎陣屋へ掛合畑地に植付候稻草之種一斗壹升を取寄羽田下戸五十里本郷上中興等の村々え渡し作試へき旨を沙汰す
- 一 正月廿日曹洞宗中原村本田寺末金丸村種徳院出火類焼なし
- 一 河原田本町市三郎母も百歳に相成稀なる長壽に付鳥目を爲取清士岡村與右衛門親與三兵衛外壹人九十五歳に相成に付老養扶持を遣し潟上村平三郎母きた外九人九十歳に相成に付鳥目を爲取
- 一 去冬中尾間歩水貫間切貫合に付樋場附替水絞り仕附道中附替等追々仕越候も爲取計都合御入用積七千五百貫文餘に相成に付組頭高山又藏廣間役小池小次郎井口茂十郎永井四郎兵衛山方役一人目付役一人

水替掛己下八人御普請掛申渡

- 一 二月七日夜皆川村茂兵衛灰小屋より出火類焼八軒牛馬別條なし
- 一 泉本正助正月十八日御普請奉行被仰付候旨同廿一日附御奉書二月二日到來
- 一 京都東本願寺燒失に付材木寄附いたし度よしに而一向宗惣代永宮寺外貳ヶ寺願出る處例に差出す書ものは年古き儀に而他國出差留に相成候以來依願差免ス例無之間難及沙汰旨申渡
- 一 田中五十里本郷時疫流行に付救として夫食貸并當座救の手當を遣ス
- 一 二月十二日雜太郎大浦村長左衛門悻長太郎外四人小船に乗組漁業に出七つ半時頃俄に西風吹募及難船四人は類船に被助揚長太郎は高波に被卷溺死す
- 一 若林市左衛門義壽二月八日佐渡奉行被仰付貳百俵高に被成下候旨二月十一日附御奉書同十九日到來元御納戸頭なり
- 一 板木類之儀は前々より他國出停止の處近來浦々より拔出候儀も有之哉に相聞以之外之事に付己來右躰の義無之様村々役人取締方厚く心付別而海邊附村々におゐては自他國廻船出帆己前積荷改方入念若怪敷儀見及候は、其船差押可申立旨國中へ觸る
- 一 右に付浦方番所浦目付所におゐても扱下限嚴重に取計不締之筋無之様可致萬一此後改方等閑にいたし木品拔出等有之ニおゐては其浦方役人可爲<sup>原本のまゝ</sup>不<sub>ま</sub>含旨浦方役人に申渡
- 一 貳町目文右衛門女房はく夫多年之病中看病無怠貞實に仕へ銀山町庄右衛門悻梅吉祖父并親え深切に仕ふる趣に付夫々鳥目をとらせ褒賞におよぶ



一 去々寅年十二月柴町外七ヶ町濱通餘間地改之上坪數四百八十坪三分過坪有之候間相拂候上地役人抱地を拜領地に申付候町地面不足補ひ等に取計候積其節取極有之今度拂方糺濟町地に成候儀に付坪數割合を以町役爲相勤是迄地役人抱地拜領地に被下其外新道潰地等補ひに成候外に當分天保元寅年新町地と檢地帳え掛ヶ紙にて出入いたし置事に極る

一 小木湊廻船綱取木六拾六本之内三十本石杭に取替之義に付間屋とも拜借錢願出る處右返納方に付他國廻船より少々宛増錢取立る義對談とは乍申如何に付先貳拾本被下殘を以爲仕立往々石に而保方よろしく船手辨利に成候は、從來取立來る綱取木錢溜り次第追々建替可申儀に沙汰す

一 中尾間歩東本樋え水替引請人羽田町大三郎義水貫間切出來右抱場不用に成候間引請差免年來之貸付未納錢八百八拾六貫文棄捐に成

一 二月廿九日小河内村助右衛門灰小屋より出火家數十八軒燒失牛馬無別條

一 高山又藏巡村として三月廿六日出立四月十二日歸着

一 夷湊并夷新町瀉側築出地檢地として高山又藏廣間役小池小次郎其外役々出役又藏は巡村序相勤其餘は三月廿七日出立四月二日歸着

一 三月八日夜中尾間歩盛太郎敷東切山引立を吹破文五郎金太夫等の敷々孕居候水押出し盛平盛助盛太郎とも稼所は勿論十三抱場水理に成其節大工徳和村友吉ゆふ柄山に被突埋即死諏訪町伊太外三人は大造の怪我いたすに付救として夫々鳥目を遣す三敷之水四月二日迄に取切如元稼相立

一 中原村眞言宗談議所坊長福寺と唱替之儀去年中願出寺社奉行衆へ問合之上承届る旨三月十日沙汰す

一 小木町一向宗正光寺儀正の字を照の字に書替の義去年中願出右同斷三月十三日沙汰す

一 廣間役田中從太郎同助山中又四郎隔月地方役所へ爲詰會處已來不及其義旨三月十九日沙汰す

一 原黒村助左衛門船三月十七日新瀉より歸帆之節及破船助左衛門は溺死水主兩人之者船屑に取付漂居る處新瀉甚左衛門船舳掛り助揚夷湊え着船いたすに付爲骨折料甚左衛門え貳斗入酒貳樽を遣す

一 去卯年秋作相應に候へ共麥作出來劣其上夏中大雨出水に而國仲筋田地水押になり取實相劣國中米穀拂底に付來ル午年御拂に可成去ル申年分御圍糶五十俵繰越請取正米に爲摺立相拂爲取凌代錢は來る午年にいたり取立御藏納可仕旨三月中水野出羽守殿へ申上る

一 去卯御年貢小物成諸運上等三月廿四日迄に御藏々え上納皆濟に付御届差立る

一 去卯年御年貢米之内八千六百七十石大坂御廻米になる 但今年も河原田より積出し無し

一 振矩師山下數右衛門同助阿部六平同助見習阿部熊太郎義中尾間歩水貫間切最初繩引の通聊の狂ひなく貫合には職業鍛練故之儀に付數右衛門え一代給錢を増し六平は振矩師へ雇入給錢をまし熊太郎は給錢を遣し振矩師見習に申付る

一 廣間役白石吉郎義出精相勤候に付支配勘定格被仰付勤之内七拾俵三人扶持の高に御足高御足扶持被下尤勤向是迄之通相心得候様可申渡旨御書付三月廿一日水野出羽守殿御渡有之四月五日到來

一 出精相勤候に付廣間役井口茂十郎田中從太郎へ銀七枚宛井上茂右衛門永井四郎兵衛へ銀五枚宛同助山中又四郎え銀三枚同次席伊澤佐兵衛内江清兵衛へ銀貳枚宛定役貳拾五人へ金三百疋宛並役拾人に金貳百疋宛被下候間其段可申渡旨御書付同斷



- 一 於西九御男子様被遊御誕生候處表向被仰出は無之御名之義は松平銀之亟殿と奉稱右に付表向御祝義等申上に不及旨四月二日附御奉書同十二日到來
- 一 小木湊内の囀字人沖底石取揚其外所々普請入用積り錢貳千五十貫文餘以前御益金を以御普請申付取扱三輪滿藏廣間役井上茂右衛門其外役々掛り申渡
- 一 越中國射水郡長徳寺村善六船直船頭善六増水主とも三人乘三月廿九日松ヶ崎湊字甲瀬一里計沖合に而船覆り乗組のものは右村方にて助ヶ揚無別條船は杉の浦村へ流れ寄
- 一 白石吉郎義支配勘定格被仰付候に付出禮の節貳疊目へ罷出る様沙汰す
- 一 去々寅年分山出荒銅貳千三百九十五貫百目大坂廻りに付越後柏崎規右衛門手船沖船頭水主とも廿八人乗へ三月十六日澤根湊におゐて積渡す

一 別問吹所之義己來試粉成相止本途粉成爲致候條前々の通壹番勝場と唱へ可申旨を沙汰す

一 高山又藏妻四月五日於江戸表病死

一 攝州大坂富田屋吉左衛門船沖船頭水主とも拾貳人乗越中伏木浦にて松平加賀守大坂藏屋敷え廻米積請四月廿日能州沖合にて難風に逢積米の内刻捨同廿六日二見浦へ入津に付地方掛出役澤根番所役二見浦目付役立會吟味の上疑敷筋も無之浦手形渡遣

一 地方掛り頭取役金一兩をまし七兩宛に極る

一 諸國御國高御改被仰出候に付銘々領分知行其外一村限新田高等不洩様書出可申旨先達而被仰出候處只今迄不書出新田高等書出候而は宜<sup>原本のまゝ</sup>ヶ間敷哉と萬一心得違の向も可有之哉畢竟年久敷御改も無之候に付

此度御改被仰出候事に候間是迄書出相洩候新田ならひに改出高等書出前々の郷村高帳と相違の廉有之候共不苦候間銘々新田高は勿論高外にても作付等いたし收納有之場所は高帳の末え一村毎に反別認分ヶ不洩様委細に相糺御勘定所え可指定時宜に寄村々糺方被仰出候義も可有之其節書出相洩候場所所有之候而は不容易義に付急度御沙汰可有之旨萬石以上己下領分知行給地有之面々并寺社領とも御觸有之旨四月廿四日附御奉書五月四日到來

一 若林市左衛門四月朔日御暇に而同廿一日江戸表出立三國路通旅行同廿七日越後寺泊え出津五月三日

佐州赤泊湊え渡海翌四日相川御役所え參着鈴木傳市郎交代して同六日相川出立翌七日小木湊より出帆

一 三島惣左衛門御勘定仕上相濟四月廿二日江戸表出立無宿貳拾四人并蓮池御金藏え假納いたし

置候去ル丑年分俵物代金六百貳拾四兩銀貳匁三分六厘八毛同所より請取宰領して五月三日越後出雲崎え

出津同四日佐州小木湊え着船翌五日相川え歸着道中傳馬御證文松平和泉守殿

一 五月八日石花村源兵衛灰小屋より出火類燒貳拾貳軒牛馬別條なし

一 同日河崎村休左衛門灰小屋より出火類燒九軒牛馬別條なし

一 五月十八日上相川大山祇社修復に取掛候處天井に死骸有之旨訴出に付出役の者見分の處年を経候様子に而面躰其外共枯腐不相分候へ共七ヶ年以前出奔いたし候上相川太三次死骸の旨着用物等に見覺有之無相違段悴岩次郎申立に付引渡遣す

一 右に付大山祇社は再建之積り壞取不淨の木品燒捨社人安岡石見不淨場所え立入候に付日數十日社役遠慮いたす旨を届る



一 日光山御宮御修復出來去ル七日正遷座首尾好相濟誠以目出度御事に候段五月十三日附の御奉書同十九日夜到來

一 浦々におゐて船手の者密揚隠積其外難破船之節取扱向等都而取締方之義前々より度々申渡置上は不正不取締之筋は有之間敷候得とも猶又役下扱下限彌嚴重に穿鑿を遂げ前々申渡候趣無違失可相守旨を沙汰す

一 銀山稼方之儀は人氣引立方肝要之處在勤代り合に付萬一山方之者共氣先相たゆみ稼方掛引十分に不相届義等有之候而は以之外に候條彌山師以下未々之者迄氣力引立稼方實意に相勵候様其筋役人心之及候程精勤いたし人力一致の勵を以間歩々々景氣を得出方相進候様掛引可致旨を沙汰す

一 新五郎町太郎吉義奇特の趣相聞ルに付鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 若林市左衛門巡村として五月廿六日御役所出立六月十日歸着廣間役永井四郎兵衛其外役々案内出役いたす

一 金銀山去卯年出方之様子中尾間歩水貫間切抜合後御普請の模様并右間歩當三月七日夜字盛太郎十番と唱候場所地山吹割大造水吹出敷内東西六拾間深拾丈餘水埋に相成候之處以前と違ひ水貫間切え水汲捨候故格別手繰宜日數十日餘に而不殘取透し其外從來振替拂去卯年は御入用筋御繰合宜く同年分割合之外千三百五拾兩餘返濟いたし殘振替高當時三千兩に相成勿論御金藏御備も追々立直り候方に付當辰年之義も引續是迄の姿を以敷内模様隨ひ稼方懸引爲仕御入用吟味無油斷金銀山稼致永續土地之者とも渡世不失様取計ひ方支配向え厚く申渡候趣五月中水野出羽守殿え書面進達

一 支配勘定格廣間役掛り御用御扶持方在出旅御扶持方雜用等増被下方御藏改の義五月中水野出羽守殿え書面進達十月廿八日申上之通御下知有之

一 六月四日夜白瀬村六兵衛宅より出火類焼なし

一 御雜藏御入用鐵灯心請負年季明之處是まで請負之ものは不相望二町目武兵衛請負可申旨申立候得とも先年江戸京の火災に而鐵引ケ方多く直段相進ミ武兵衛受負も無覺束候間試之ため來已一ヶ年直買上之積り買入方取調として地方掛ケ屋頭取野口五郎作を遣す處雲州但州え罷越直段其外取調之上十月十四日歸國

一 米價高直に而市中難儀の趣に付去ル酉年御圍糶來ル未年御拂に可相成分之内貳千俵假請取之上定式御拂米打合六月廿四日より九月三日迄廣惠倉におゐて相拂

一 去卯年分山出灰吹銀貳百四貫四百四拾九匁御傳馬宿入用金三拾九兩壹分銀三匁六分九厘石井三郎右衛門太田九兵衛宰領に而六月廿三日差立同廿九日小木湊出帆道中御證文松平和泉守殿燒金拾貳貫七百三匁九分此小判積り三千六百七匁永拾三文壹分佐州御金藏え積置出方御入用さし引千五百拾兩三分永百拾七文五分御益に成江戸詰石井三郎右衛門益田亦太郎御勘定仕上る

一 同年山出荒銅貳千貳百拾四貫目此金四百五拾八兩壹分永拾壹文六分

一 地方取立物え納候古金銀貳百八拾兩江戸詰之者持參引替之義金高にも無之に付引替所え差遣引替可申旨御勘定奉行え掛合及處金は後藤三右衛門役所貳朱判は銀座え差出候様挨拶有之夫々引替ル

一 大筒丁打場として下相川村高之内字上平畑反別四反七畝四步此代錢百壹貫文餘に買上以來御年貢諸





掛りは砲術稽古入用より差出し候積り暨百貳拾間横三拾間之場所取立申付る

一 中尾間歩稼所其外手狭之場所所有之水汲揚方に差障り候場所切廣留棚繕ひ等御入用高六百拾六貫文餘穿鑿御入用之内を以御普請申付廣間役助山中又四郎其外役々掛り申渡

一 鳥越間歩番所建替有之

一 使役格町同心小頭山本良左衛門悴町同心見習又三郎悴鈴藏儀祖父良左衛門年來出精相勤其上鈴藏義學問藝術出精に付町同心見習申付並之通勤料を遣す同心の孫見習申付る事是を始とす

一 高山又藏去年江戸表に殘置候娘上納金銀積送候御船歸帆序七月十二日出雲崎より小木湊え渡海同十四日相川着兼而御間掛水野出羽守殿え御届書進達

一 七月二日溶姫君様被遊御平産男子出生之旨同三日附御奉書同十三日到着

一 中尾間歩水貫間切成就いたし候上は二十分一除錢差止に成可然處右間歩三艘樋え間切之義兼而申上も有之に付追而申付候積り大工穿子賃穿鑿入用に限是迄之通二十分一除錢取立右間切入用に相拂吹所向の御入用は除錢差止候事に極る

一 七月廿六日夜鳥越間歩鍛冶小屋出火類焼なし

一 同廿八日夜青盤間歩稼所字松太郎敷へた落有之大工板町新吉外壹人は死失銀山町元助外三人は怪我いたすに付夫々救を爲取

一 殿中詰會之面々并領分知行百姓等綿羊望之ものへは可被下間巢鳴綿羊小屋え家來差出し澁江長伯相談爲受取候様可致旨林肥後守殿被仰渡候旨御目付より廻狀有之

一 佐州廣間役道中供連之様子其外平日取扱之様子御代官寺西藏太より問合に付道中供連は若黨壹人鐵持壹人挾箱持壹人草履取壹人召連具足爲持長棒の駕籠相用ひ泊宿に幕打來り格合之義は當時支配勘定格與力格打交りに有之平日勤向之儀は一國中在町寺社地方銀山方浦々御備公事訴訟詮義事等都而の御用向支配組頭え差續相勤候故奉行取扱方之義も右に准し致勘辨候旨挨拶におよふ

一 此度御國高御改に付諸國寺社領之分是迄御代官又は領主地頭に而國役金取立相納來候振合を以國役不掛國々に有之寺社領分共一同御領は御代官御預所私領は領主地頭より夫々及通達高帳取集御代官領主地頭より御勘定所え可差出旨御觸書七月晦日水野出羽守殿御渡有之八月十四日到來

一 越後國御廻米積候御用船拾艘新規造立被仰付同國尼瀨町野口七左衛門え當辰より丑迄十ヶ年積廻し方一式引請被仰付運賃無之船頭給扶持其外一式御入用を以運送に付佐州浦々船掛之節無役錢之積り其筋え申渡候様七月中御勘定奉行より達に付浦方え其段申渡尤右船廻着之節は御用船證據を以浦方役人え相斷候義と存候旨挨拶におよふ

一 八月十一日夜鳥越間歩勘吉敷大西入口より痛所出來樋場十六番通留棚引ヶ込差組大工之内木野浦村忠吉は死失南澤町正五郎外壹人は怪我いたすに付夫々救を爲取

一 江戸詰近藤庄平調合藥玉鉛才領七月廿八日江戸表出立信州路通八月八日越後出雲崎え出津同十二日同所出帆佐州小木湊え着岸翌日新町村止宿同十四日相川着道中傳馬御證文松平周防守殿

一 高山又藏抱屋敷の内民部卿殿小十人格添番福地源右衛門え貸置候處同人と同居いたし候御同所徒木本清之助住居より七月廿九日曉出火いたし候旨又藏弟中尾與八郎より申越由にて八月十四日又藏差扣伺



差出に付其段松平和泉守殿え申上候處同廿四日不及其儀旨御附札を以被仰渡候之旨九月八日在府より申來其段申渡

但八月十六日より差向候御用之節は御役所并御藏方等えも出勤有之様申達ス

一 下戸番所門建替有之

一 小木湊廻船綱取木貳拾本朽損候に付問屋共より爲冥加石杭に建替度旨願出に付承届

一 江戸詰堀口市太夫無宿十三人に差添八月九日江戸表出立三國路通同拾七日越後寺泊え出津翌日佐州赤泊湊え着岸同十九日相川え着道中傳馬御證文松平和泉守殿

一 八月廿七日曉越後國刈羽郡柏崎納屋町大橋屋孫八船五人乗橋村濱に而破船乗組別條なし

一 同時大坂兩國橋大津屋茂兵衛船六人乗下八幡村濱にて破船前同斷

一 八月十一日大雨出水にて陣屋後其外所々損所出來に付御入用高七百八貫文餘御藏御益金之内を以相拂候積り御普請申付廣間役當分助伊澤佐兵衛其外役々掛り申渡場所柄に付組頭高山又藏取扱掛り申達す

一 佐州より大坂御廻米之儀越後柏崎町規右衛門引請の處米三百六拾石九月初旬迄積殘有之折柄佐竹右京大夫領分山出御用荒銅積請候豊前中津萬屋兵右衛門船夷湊え入津對談積合之義願出候處北國筋廻船往來稀の時節に成無據義に付承届一躰元極にも振れ且者出役御入用にも響候間成丈手繰いたし空船差向候様規右衛門え申渡有之度旨御勘定奉行え掛合に及ふ處年々五月中迄に大坂御藏納可致筈に付此後は右躰の義無之様可成丈手繰いたし早々積立方取計候様規右衛門え可申渡旨松平越中守家來え申達候之段明樂飛彈守より挨拶有之

一 八月廿七日越中婦負郡四方浦善次郎船三人乗雜太郡大浦村字堂ヶ崎に而破船乗組別條なし

一 同廿八日夜小川村伊右衛門灰小屋より出火本家納屋焼失外類焼なし

一 九月四日瀧脇村作十郎灰小屋より出火同斷

一 同十一日夜越後寺泊與四郎船貳人乗尾戸浦囀内にて破船乗組無別條

一 同日平松村小十郎船貳人乗同村囀内に而破船右同斷

一 同日赤泊村甚右衛門船四人乗清三郎船四人乗彌市船四人乗犬神平村伊右衛門船三人乗赤泊湊に而破

船右同斷

一 同日湊町萬兵衛船四人乗玉川村濱にて破船右同斷

一 廣惠倉定役之義地方掛之上を定席に極る

一 九月廿三日夜眞光寺村清右衛門灰小屋より出火本家納屋焼失外類焼なし

一 越中射水郡伏木村丸屋喜兵衛船三人乗九月十二日沖合におゐて及破船積荷紅花汐濡檣切捨舢流失同

十五日小木湊え入津

一 能州珠洲郡飯田浦直船頭善兵衛船四人乗松前稼のもの拾五人乗合同所より歸帆の節九月十二日於沖合及難船能州鹿嶋郡穴水浦季右衛門船に被助同廿日北田野浦村え上陸其後水主壹人病死船頭水主は金子所持候得共乗合の者は金子着替等打流し難澁之趣に付救として鳥目三拾貫文を爲取遣

一 九月廿九日夜青野村九兵衛灰小屋より出火本家納屋焼失外類焼なし

一 青盤間歩當秋己來度々落石に而損所有之怪我人即死のものも有之水繰揚方并稼方とも差支候に付金



五百七夕餘を以仕越御普請之義十月中水野出羽守殿え申上組頭三輪滿藏廣間役田中從太郎其外役々掛り申渡

- 一 紙漉草仕入として來春國中空地え爲蒔付候積り甲州市川陣屋え掛合三ツ股種壹石取寄圍ひ置
- 一 當辰年大坂銅座え相廻候去々寅年分山出荒銅代金四百八拾三兩壹分銀壹分貳厘七毛の内金九拾貳兩三分銀貳分六厘五毛直増御手當の分兼て伺濟の通銅稼御仕入の方え引取殘の分八月廿六日蓮池御金藏え上納 但去卯九月被仰出候由にて百斤に付三拾目の外別段拾夕直増御手當有之
- 一 十月廿一日小田村藤七船堅炭積入羽田濱え着船積荷水揚の上船方の者上陸いたし候後右船風波に而  
行衛不知旨を届ル

一 同廿二日小木町卯左衛門船三人乗野浦村囁内にて破船乗組無別條

一 同日材木町藤吉船四人乗松ヶ崎湊にて破船右同斷

一 廣惠倉益金元金え増加今年より七千兩の高に成

一 銀山御入用鐵請負の者未納多く差支にも可相成趣に付御雜藏廣惠倉御備買入として水津定番役井口新次郎廣惠倉定役今井新右衛門越後國え出役申渡十一月九日水津より寺泊え渡海鐵四千九百貳拾六貫目買入の上同廿二日同所より水津え歸帆同廿五日相川え着鐵は水津夷湊兩所え着船は村繼人足を以同廿七日迄に追々相川え到着

一 葵御紋付提灯猥に相用申間敷家來末々のもの共御紋付の提灯を持歩行不法之事共有之よしに相聞候間以來御紋附の提灯を持歩行如何敷始末も有之候はく不及有無捕押町奉行え可引渡依之御紋を用ひ候家

々に而相用候提灯えは公儀御提灯と不紛様目立候程の合印附置右合印は兼而御目付迄可差出且又御由緒等有之家々に而出入之町人共え葵御紋附の提灯渡置候義は堅無用に可致旨水野出羽守殿御書付并葵御紋附提灯の義諸家え出入の町人とも其家々より葵御紋附の提灯受取置相用候義急度無用たるへく是迄御用達町人ともへ渡置候御紋附提灯己來は其役所々々の名目を認め相用候様頭支配え可相達旨御別紙とも九月十三日御渡の旨大目付より廻狀有之

一 世上通用のため貳朱の歩判金吹立被仰付候間右歩判八ツを以金壹兩の積り尤銀錢共兩替小判貳歩判壹分判壹朱判同様の割合に相心得是迄の貳朱銀に取交通用可致旨御觸書十月朔日水野出羽守殿御渡有之同十日夜到來

一 古金銀貳朱判眞字貳朱判今以引替殘有之候間引替所の義來已十月迄是迄之通被差置眞字貳歩判は頓而通用停止可被仰出候間此節精出引替可申并古金銀貳朱判共所持之者は早々引替所え差出來已十月限急度引替可申旨國々在々御領は御代官私領は領主地頭より入念可申付旨御觸書十月十三日水野出羽守殿御渡同廿二日到來

一 吹立被仰付候貳朱金の義十月廿四日より可致通用兩替に付切賃之義貳分判壹分判貳朱銀壹朱金銀同様相心得取遣可致旨御觸書十月廿日水野出羽守殿御渡十一月朔日到來

一 貳朱金吹立被仰付候に付手本金として御勘定奉行より貳朱金四枚差越十一月十一日夜到來先例之通御金藏地方役所並同所掛屋市中兩替屋え壹枚つゝ渡右代りの金貳分御勘定所へ遣ス

一 十月初十日に至り中尾間步鏈代五貫目以上賣立當一ヶ年分一山鏈代百貫目己上に可相成段山方役以



下一同出精に付貳斗入酒七拾樽錫百把遣す

一 右同斷に付若林市左衛門手元より掛り山方役吉田藤助え麻上下を遣す

一 三輪滿藏儀四郎左衛門と改名相願候に付在勤若林市左衛門より之願十一月六日水野出羽守殿え在府鈴木傳市郎進達即日願之通名改候様可申渡旨御附札被成御下有之閏十一月十四日到來則申渡

但御附札之趣於江戸表四郎左衛門親類え達出羽守殿え御禮爲申上

一 白石吉郎御足高御足扶持御藏御證文之義於佐州申渡候は當四月故御足扶持は四月より之積り御右筆所より下書在府え相廻候處支配勘定格被仰付候旨之御書付は當三月御渡有之長崎奉行支配の内にも被仰渡候月より請取候例有之に付其段御右筆所え掛合之上三月分より之御證文に成閏十一月十四日到來

一 九月廿五日澤根町甚之助船同所湊四里計颯出し帳篋筒壹ッ漂流いたし候を見掛ヶ拾ひ揚内々胴卷え入候金子七拾壹兩壹分貳朱ならひに品物十七品有之越中放生津牧野屋藤右衛門名當之賣買仕切目錄有之段澤根番所え訴出候旨同所より差出十月朔日北狄村字笹尾におゐて米油藥種菜種鉛等積入乗組之者不居合解無之檣伐捨候廻船及破船船具の内加州石川郡大野浦淺黃屋喜左衛門船と認有之旨姫津浦目付所より申立に付役々出役吟味之上積荷船具等爲取揚右藤右衛門喜左衛門船難船におよひ帳篋筒流失廻船乗捨候義無相違候は、請取人差向候之様尤米菜種藥種は沙濡に相成日數を經候に隨ひ朽腐候に付糴入札拂にいたし代金取立置外品一同請取人え可引渡旨松平加賀守在所役場え廣間役より掛合におよはせ飛脚足輕十月廿四日相川差出閏十一月十四日歸着彼地えも届出候向も有之に付得と遂詮義追而可申越旨之返書到來

一 九月廿一日小野見村磯邊え紅花壹箇流れ寄同村藤兵衛拾ひ候處仙臺荷主小谷屋新右衛門と認メ候差

札有之十月十八日姫津村市右衛門外五人海獵に出沖合におゐて紅花五箇拾ひ取候處羽州山形鈴木彦兵衛外三人之名前差札有之旨訴出に付送荷物打荷之分にも可有之哉糺之上無相違候は、請取人差向候様松平陸奥守秋元但馬守江戸屋敷家來え廣間役より掛合に爲及候處いつれも其筋え申遣追而可申越旨之返書閏十一月十四日到來

一 右小野見村藤兵衛拾ひ取候紅花は遠路之義に付藤兵衛方にて取片付吳候様致度旨松平陸奥守家來より之返書十二月十六日到來則藤兵衛え爲取

一 當年田方不熟に付御年貢米之内千三拾九石代納申付

一 大坂堺兵庫菜種綿ノ實兩種物問屋とも油絞草賣買方大坂問屋油請拂且大坂堺ならひに攝津河内和泉播磨在町水車人力絞油屋共絞草買口絞油賣捌方等之義主法改革に付向後心得方御書付十一月十四日水野出羽守殿御渡閏十一月十四日到來

一 中尾間歩水絞其外御普請皆出來御届并掛り之もの御褒美願同間歩水貫間切に延方御用掛り之もの御褒美願とも閏十一月中水野出羽守殿林肥後守殿え進達

一 喜代姫君様御婚禮相濟候爲御祝儀輕罪之者赦被仰付候御書付閏十一月廿三日松平和泉守殿御渡有之十二月十六日到來御赦可申上者無之旨御同人え書面進達

一 十二月朔日雅樂頭養子酒井河内守方え喜代姫君様御引移即日御婚禮萬端首尾無殘所相濟御喜色の御儀誠以目出度御事不可過之旨同二日御奉書を以被仰下十二月十六日到來

一 十二月廿一日腰細村六左衛門灰小屋より出火類焼なし



一 十二月八日尾張殿御簾中逝去に付鳴物は三日停止普請は不苦旨大久保加賀守殿御書付大目付より達十二月廿四日到來

一 市中困窮もの貳百五拾九人え救として米を爲取

一 澤根町甚之助拾ひ物北猿村破船一件品請取として松平加賀守郡方支配手先役人松井伊右衛門牧野屋

藤右衛門親類三郎右衛門淺黄屋喜左衛門弟與右衛門村役人差添罷越品物夫々引渡十二月廿七日歸國申付

但破船品々は定法之分一取立候得共甚之助拾ひ品は身附の義に付分一之沙汰に不及候處謝禮として

金三兩貳分三郎右衛門より甚之助え贈候由に而澤根番所え届出候間承置候旨右番所より届る

一 當辰年家數人別増減書付十二月中水野出羽守殿え進達

高拾三萬貳千四百八拾五石八斗四升

加茂 羽茂 雜太 三郡貳百六拾一ヶ村

家數貳萬四百九拾軒

内六拾壹軒

去卯年に増

男五萬三千五百六拾八人

内貳百八拾四人

去卯年に増

女五萬千九百三拾貳人

内五百拾四人

去卯年に増

牛七千貳百九拾六疋

外百貳拾六疋

去卯年に減

馬六百七拾貳疋

内三拾六疋

去卯年に増

外

高九拾石五斗

御朱印領

寺一ヶ寺

家數七拾軒

無増減

男貳百八人

内三人

去卯年に増

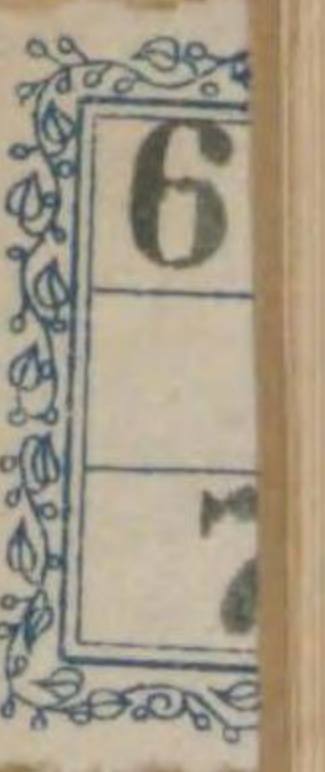
女百九拾九人

内三人

去卯年に増

一 中尾間歩當辰一ヶ年分鏈代百貫目餘出來之積寛政四子年青盤間歩に而一ヶ年鏈代百貫目出來いたし候後は一ヶ間歩に而右程の出來高無之全年來御仕入且は水貫間切成就いたし候故之義に而中尾一ヶ間歩鏈代四十年來見合無之程の出方に相成候に付十二月中水野出羽守殿林肥後守殿え書面進達

一 松平阿波守領分阿州名西郡東覺圓村利右衛門外貳人より佐州河原田本町紺屋彌兵衛え賣渡候藍玉代金滯之分濟方之儀阿波守方より懸合有之當秋彌兵衛中内濟いたし候之處掛廣間役白石吉郎伊澤佐兵衛え阿波守方より爲時候見舞肴料金三百疋宛贈來に付受納爲仕可申哉之旨松平和泉守殿え伺書面十二月中





差立巳正月八日伺之通り御下知有之

天保四 癸巳年

一 佐州陣屋御役所向其外風損御普請御用相勤候廣間役白石吉郎小池小次郎え銀壹枚宛定役三人え金三百疋宛並役五人え同貳百疋宛御褒美被下候旨水野出羽守殿御書付去辰十二月十八日御渡有之正月七日到來

一 佐州小木湊囁内御普請御用相勤候廣間役白石吉郎同助山中又四郎え銀貳枚宛定役四人え金三百疋宛並役壹人え金貳百疋御褒美被下候旨水野出羽守殿御書付右同斷

一 京六孫王社大通寺遍照心院儀六孫王社諸堂并神寶等大破に付修復料として從公儀も御金被下候間清和源氏之面々萬石以上己下共志次第助力可有之且二十ヶ國再御府内寺社在町巡行勸化御免被仰出候旨去辰十二月水野出羽守殿御書付寫大目付より達正月廿日到來

一 久知河内村六右衛門母かね外貳人九十五歳に相成に付老養扶持壹人扶持宛四町目彌兵衛母ぬひ外拾壹人九十歳己上に相成に付鳥目を爲取

一 籠米村甚四郎奇特の趣相聞に付鳥目を爲取及褒賞

一 正月廿八日夜雲子間歩大工建場雪押に而潰込出火鍛冶小屋石撰建場類焼

一 同廿九日湊町傳助船沖獵に出難船及び越後新潟え漂着乗組五人之内貳人溺死三人二月中歸國

一 二月朔日姫津村六兵衛五郎左衛門船沖獵に出及難船六兵衛乗組之内壹人溺死右船貳艘とも戸地戸中

村境え打寄ル旨を届る

一 去辰十月姫津村市右衛門外五人拾ひ取候紅花羽州山形荷主代嘉兵衛爲受取致渡海に付紅花五箇二月中引渡遣す

一 二月廿一日地役人武術を試る

一 大間町三平坂下町藤助女房まか小六町りう孝心奇特の趣相聞に付鳥目を爲取褒賞におよぶ

一 最樹院様七回御忌御法事於東叡山二月十六日より御執行之旨同十七日附御奉書同廿四日到來

一 二月廿七日石扣町幸次郎船三人乗澤根湊におゐて及難船乗組別條なし

一 同日越中國射水郡長徳寺村直船頭助左衛門船三人乗同所直船頭仁兵衛船三人乗小木湊囁口に而及難船同所囁掛の船え被助揚元船大石村濱え打揚候旨を届る

一 同日小木町六兵衛船三人乗於小木湊及破船乗組別條なし

一 去秋田方不熟米拂底に付來々未年御拂可相成去ル酉年御圍糶五千俵餘繰越受取正米に爲摺立相拂爲

取凌代錢は來ル未年取立御藏納可仕旨申上書面二月中差立

一 最樹院様七回御忌御法事東叡山におゐて首尾好御修行萬端御作法無殘所相濟誠以恐悅の御事候旨二月廿二日御奉書三月三日到來

一 長崎廻煎海鼠鮑之儀は異國交易の品に付自他國賣買令停止於浦々斤數取増方之儀前以及沙汰處近來何となく用達共え賣出し方相劣候趣に付己來俵物用達共時々相廻其筋掛役人不時に爲見廻候條此上取増方厚く世話いたし不締之義無之様浦々名主獵師籠振リとも急度可相心得旨浦々え觸る